

# 大森赤十字病院 ごあんない 2025



Omori Red Cross Hospital



院長挨拶	02
診療科紹介	
呼吸器内科	04
循環器内科	07
消化器内科	11
血液内科	17
糖尿病・内分泌内科	18
腎臓内科	21
脳神経内科	24
緩和ケア内科	28
外科	32
形成外科	39
呼吸器外科	41
心臓血管外科	45
整形外科	46
脳神経外科	49
麻酔科	52
精神科	55
小児科	56
皮膚科	57
泌尿器科	58
産婦人科	60
眼科	63
耳鼻咽喉科	65
リハビリテーション科	66
放射線科	68
救急科	71
病理診断科	72
臨床検査科	76

## 部門紹介

薬剤部	78
看護部	82
医療技術部	
栄養課	93
放射線技術課	95
臨床工学技術課	97
検査部	99
医療社会事業部	101
健診部	104
医療連携	113

## 概要・沿革等

病院概要・沿革	118
フロアガイド	121
交通案内	122



病院ブログ「ヘルスケア・エッセンス」は、健康とヘルスケアに関する情報を分かりやすく、身近に感じていただくためのサイトです。  
以下QRコードからご覧いただけます。



基本理念

# 信頼され心あたたまる病院



## 信頼され心温まる病院

大森赤十字病院は、日本赤十字社の一員として、地域の皆さまに信頼され、心温まる医療を提供することを目指しています。日本赤十字社の使命である「苦しんでいる人を救いたい」という思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」ことを胸に、地域社会に貢献する医療機関として日々努力を重ねています。

当院は70年の歴史を持つ日本赤十字社の病院ですが、「都市型赤十字病院」という新しいコンセプトを掲げて、劇的な変化を遂げつつあります。私共は、質の高い治療を提供するばかりでなく、単なる治療の枠を超え、患者さまのライフスタイルを大切にした医療を提供することを目指しています。病気の治療にとどまらず、患者さまの尊厳を守り、痛みが少ないばかりでなく、美しさや整容性、さらには満足度の高い生活を支えることを目指しています。

当院では、地域の医療ニーズに応えるため、継続的な医療機能の充実を図っています。2024年度には、ロボット手術や乳房再建手術、無痛分娩の拡大、肥満治療の開始といった低侵襲、整容性、痛みの軽減、肥満の解消といったライフスタイルに配慮した新たな治療や検査を導入いたしました。これにより、より多くの患者さまに高度で先進的な医療を提供できる体制を整えております。

## 患者さまにやさしいがん治療

高齢化社会の進展に伴い、地域完結型のがん治療の需要が増加しています。理想的ながん治療を大森日赤で実現するため、高度ながん治療体制を構築しております。

## 内視鏡センターの新設

消化器内科による内視鏡治療については、従来より年間350件近いESD（食道、胃、十二指腸、大腸）をはじめとした内視鏡治療を実施してきました。さらに、今年3月には新規に内視鏡センターをオープンし、麻酔の使用による無痛の内視鏡をよりスムーズに多くの患者さまに提供できる体制を整えました。

## ロボット手術の拡大で、身近で受けられるから優しい低侵襲ながん治療を提供

昨年4月よりダ・ヴィンチサージカルシステム（手術ロボット）を用いた前立腺がん、大腸がん、胃がんのロボット手術を開始しました。すでに70例以上のロボット手術を実施しております。

2025年度は肺がん・縦隔腫瘍のロボット手術、肝胆膵の低侵襲手術も開始します。ロボット手術プロクター（指導医）3名（大腸2名、肺・縦隔1名）、内視鏡手術の技術認定医6名（大腸、胃、肺、肝胆膵）を含む充実したスタッフで治癒と低侵襲を目指した治療に取り組んでいきます。

## 女性に寄り添う乳腺外科

乳腺外科においては、形成外科と乳腺外科の女性医師が協力した乳房再建手術を取り入れ、女性の気持ちのよくなる、患者さまに寄り添った乳がん治療を実践していきます。

## 患者さまの苦痛を取り尊厳を守る緩和ケア病棟

2023年度より緩和ケア内科を新設し、苦痛の少ない終末期医療を実現する緩和ケア病棟も運営しています。患者さまのライフスタイルを尊重し、安心して治療に専念できる「診断から看取りまで完結したがん診療」を提供しております。

## 検査が即日実施できる、One day Hospital

「One day Hospital」と名付けて、MRI・CT・超音波・血液検査などできるだけ多くの検査を予約なしで実施し、その日のうちに結果を提供する体制を整えています。これにより、患者さんの診断を迅速に行い、適切な治療へとつなげることが可能となります。地域のクリニックの患者さんの検査もこの「One day Hospital」の体制でお引き受けして、地域のクリニックの先生方に活用していただいております。

## 地域医療支援病院としての責務を果たします

当院は「信頼され心温まる病院」を基本理念として掲げ、困ったときに地域の皆様から頼っていただける存在を目指しております。そして、地域医療の支援病院として、かかりつけの先生方との緊密な連携を大切にしています。ご紹介いただいた患者様を適切にご紹介元にお返しすることを心がけております。

## 2024年に開始した新規治療・検査

1. ロボット手術（前立腺がん、胃がん、大腸がん）
2. 乳房再建手術（乳がん）
3. 無痛分娩の拡大と出産前診断の充実（産科）
4. 肥満治療の開始（糖尿病・内分泌内科）

## 2025年4月より開始する新規治療

1. ロボット手術（肺がん、縦隔腫瘍）
2. 腹腔鏡手術（肝がん、膵がん）
3. 形成外科手術（保険診療・自費診療）



院長 橋口 陽二郎



# 呼吸器内科

## 【学会施設認定】

日本呼吸器学会 連携施設

日本呼吸器内視鏡学会 関連認定施設

## 診療科の特色

呼吸器内科は下気道の症状、すなわち長く続く慢性の咳、痰（血痰）や、息切れなどの症状のある方に受診していただく診療科です。また、検診の胸部レントゲン写真で異常を指摘された方の精密検査のために受診していただきます。

## 診療方針

今や国民の2人に1人ががんに罹患し、3人に1人が死亡する時代だといわれています。肺がんは1998年に胃がんを抜いて死亡率の第一位となって以来、年間7万人以上が命を落とす原因疾患となっています。

呼吸器内科では根治的手術治療ができない肺がんの方々を診療することになります。2002年7月分子標的薬イレッサが上市されて以来、発がんに関与するドライバー遺伝子変異の発見とそれに対する分子標的治療の進歩は著しいものがあり、遺伝子変異の有無を検査するパネル検査を導入し、患者様に滞りなく適切な治療をどどける体制を整えています。また、2015年末には新しい治療法として開発された免疫チェックポイント阻害剤が上市されました。この免疫チェックポイント阻害剤の登場は、これまで根治切除、根治照射不能の進行肺癌患者さんが受けていた細胞障害性抗がん剤の使用方法を大きく変えてきました。自分の免疫細胞ががん細胞を攻撃するような仕組みを援助するこの治療薬は、効果も大きく、使用方法の開発がますます進歩しています。さらに肺癌手術後の治療にもその有効性が示されてきています。

このように肺がん治療は日々進歩しており、当科では個々人の持つ肺がんの特性に合わせた治療を行うよう努めています。ただ、肺癌治療は集学的治療といって、呼吸器外科、放射線治療科、呼吸器内科が力を合わせて治療の戦略を立てる必要があります。

疾患として具体的には肺癌、間質性肺疾患や、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、肺感染症などが挙げられます。また、膠原病に伴う肺病変、アレルギー疾患などの全身疾患の部分症としての肺病変など様々な領域に及びます。

当院では放射線治療が出来ません。そのため、放射線治療の組み合わせが必要と考えられる際には、適切な病院に紹介させていただきます。

がん以外の呼吸器疾患も幅広く診療させていただきます。

喫煙が主な原因になる呼吸器疾患として慢性閉塞性肺疾患（主に慢性肺気腫）が話題になっています。主な症状は、動いた時の息切れで、進行すると空気を吸っても十分に酸素を取り入れることが出来ない状態、すなわち呼吸不全にいたります。そのような状態になる前から悪化因子を取り除き、治療で症状を軽くしたりすることが重要になります。息切れの原因にはこれ以外にも様々な原因がありますが、症状が気になる方は是非相談ください。

その他、気管支喘息や慢性の呼吸器感染症（非結核性抗酸菌症や、真菌感染症）、ここ数年で治療法が大きく進歩した特発性肺線維症などを様々な病気に対応します。

## 主な対象診療疾患

- ▼肺がんの診断および化学療法  
放射線治療は行っていませんが、他病院へご紹介させていただいております。
- ▼気管支喘息  
重傷難治性喘息の方に対して、生物学的製剤を使用しています。
- ▼慢性閉塞性肺疾患  
在宅酸素療法および非侵襲的人工呼吸療法の導入、呼吸リハビリテーション
- ▼間質性肺炎の診断および治療  
特発性間質性肺炎、サルコイドーシスなど
- ▼感染症  
COVID-19、難治性肺炎、インフルエンザなどのウイルス性疾患、肺真菌症の治療  
注) 入院が必要な肺結核の診療は行っていません。誤嚥性肺炎に対する呼吸器内科専門としての診療は行っていません。

## 専門医療機器

- |              |                               |
|--------------|-------------------------------|
| CT (64列)     | 肺がん、間質性肺炎などの診断にきわめて有効な画像検査です。 |
| MRI (1.5テスラ) | 肺がんの遠隔転移の早期発見に威力を発揮します。       |
| 気管支内視鏡装置     | 気管支鏡検査は間質性肺炎、肺癌の診断に必須の検査です。   |
| 呼吸機能検査装置     | 呼吸器疾患の病態把握にきわめて有効な検査です。       |
| 呼気NO測定器      |                               |

## スタッフ紹介



呼吸器内科副部長

太田 宏樹  
(おおた ひろき)

出身大学	東邦大学
卒業年	2004年
専門分野	呼吸器内科一般
学会認定医 専門医	日本内科学会認定総合内科専門医、日本呼吸器学会認定専門医・指導医 日本がん治療認定医、日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医・指導医、 日本医師会認定産業医、臨床研修指導医講習修了、 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了 がんのリハビリテーション研修ワークショップ修了、難病指定医



非常勤医師

久保 美樹  
(くぼ みき)

出身大学	鹿児島大学
卒業年	1998年
専門分野	緩和ケア内科
学会認定医 専門医	日本内科学会認定総合内科専門医 日本医師会認定産業医

# 循環器内科

## 【学会施設認定】

日本循環器学会専門医研修施設  
日本心血管インターベンション治療学会研修施設  
日本超音波医学会超音波専門医研修基幹施設

## 診療科の紹介

心臓疾患(虚血性心疾患、心不全、弁膜症、心筋症、不整脈など)、全身の血管疾患(閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症、大動脈解離など)、血圧に関わる病気(高血圧など)を中心に、これらを疑うような胸部・背部の症状にてご紹介頂いた方すべてを積極的に診療しています。

特に循環器救急疾患に力を注いでおり、すべての循環器救急疾患を積極的に受け入れ、多くの患者さんにより良質な医療を提供しています。

循環器救急では重篤な状態の患者さんも多いですが、適応のある患者さんには積極的に心臓カテーテル治療を行い、補助循環(大動脈内バルーンポンピングや経皮的心肺補助装置)を併用することで、多くの患者さんが元気に退院できるよう努力しています。

また安定した患者さんでは、労作性狭心症に対する心臓カテーテル治療や、閉塞性動脈硬化症や重症下肢虚血(下肢の壊疽)に対する下肢動脈カテーテル治療など、カテーテルを用いた血管内治療を積極的に行っています。

## 診療方針

患者さんやご家族の立場にたって、価値観や人生観も考慮して、患者さんにとって最も意義のある治療を行うよう心がけています。救急医療においては、詳細な病歴聴取と積極的な検査により迅速に診断を行い、早期に積極的な治療を行います。

通常診療では、症状や既往歴などを詳細に伺い、安全で必要最低限の検査から行い診断します。必要時には入院検査により確実な診断を行います。治療は患者さんやご家族と相談のうえ、ご本人にとって最も意義のある治療を選択、実行します。

2024年度には血管造影装置が新しくなり、パイプライン(正面と側面の2つのアームを用いて1度に2方向から撮影・透視できる構造)となりました。冠動脈造影をより少量の造影剤で施行可能となり、腎機能への影響をより小さく抑えることができます。また冠動脈、下肢動脈の慢性完全閉塞病変の治療時に、ガイドワイヤー先端を2方向で同時に見られるため、ガイドワイヤーの通過の成功率を上げることができます。

最新型の造影剤自動注入装置も導入しました。特徴は造影剤と生食を同時に注入できる点で、造影剤の濃度を自由に設定できるため、特に下肢動脈治療で造影剤使用量を大幅に減少できます。

冠微小循環障害の検査も可能となりました。CoroFlowというシステムを用い、心臓カテーテル検査時に、冠微小循環障害をチェック、微小血管狭心症の診断ができるようになりました。これにより病態に合わせたより精密な薬物治療が可能となりました。

高齢の患者さんの入院に際しては、点滴治療は最低限とし、積極的にリハビリテーションを行うことで、認知機能やADLが低下することのないように努めます。

## 地域の先生方へ

救急の対応が必要な患者さんは、24時間お断りなく迅速に診察致します。

循環器疾患であるかはっきりしない患者さんや救急対応が必要か迷う方でも、お気軽にご連絡下さい。

循環器内科直通電話にて医師が直接対応致しますのでお気軽にご利用下さい。

(循環器内科ダイレクトコール 03-3775-3184)

緊急でないご紹介は、月曜日～金曜日まで、9:00-16:00まで初診対応専属の医師による新患外来を行っています。

軽微な胸部症状や健康診断でのわずかな異常の疑いであっても、直ちに循環器内科医が診察、精査を行い、結果は迅速にご報告致します。

電話予約も可能ですので、お気軽に当院連携室へご連絡下さい。(03-3775-3676)

先生方との綿密な連携にて、ご紹介頂く患者さんは年々増加しています。ご紹介頂きました患者さんは状態が安定しましたらこれまで同様必ず先生方の元へ戻って頂きますので、よろしくお願い致します。

引き続きこれまで以上に地域の先生方と連携しながら、この地域の医療に貢献できればと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## 診療実績（2024年度）

急性心筋梗塞 (ST上昇型 48件/非ST上昇型 59件)	107件	冠血流予備量比測定	89件
亜急性心筋梗塞	14件	冠動脈インターベンション(PCI)	265件
不安定狭心症	3件	末梢血管インターベンション(EVT)	54件
急性肺血栓塞栓症	12件	永久ペースメーカー植え込み術	29件
急性大動脈解離 Stanford A型	2件	下大静脈フィルター	11件
急性大動脈解離 Stanford B型	6件	経皮的心肺補助装置(PCPS)	0件
心臓カテーテル検査(PCIを含む)	772件	大動脈内バルーンパンピング(IABP)	9件
		アブレーション	32件



## スタッフ紹介



循環器内科部長

奥田 純  
(おくだ じゅん)

出身大学	秋田大学
卒業年	1996年
専門分野	循環器救急、虚血性心疾患、閉塞性動脈硬化症
学会認定医 専門医	日本内科学会総合内科専門医、医学博士、難病指定医 日本循環器学会認定総合内科専門医・内科医、日本心血管インターベンション治療学会専門医 身体障害者福祉法指定医、ICT/CRT 研修終了証取得、横浜市立大学医学部非常勤講師



循環器内科副部長

島田 基  
(しまだ もと)

出身大学	山形大学
卒業年	2013年
専門分野	循環器内科、心不全、虚血性心疾患
学会認定医 専門医	日本循環器学会認定循環器専門医、日本内科学会認定内科医、ICLSインストラクター JMECCインストラクター、臨床研修指導医講習修了 日本心血管インターベンション治療学会認定専門医



検査部長（兼）健診部長（兼）循環器内科医師

神原 かおり  
(かんばら かおり)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	1991年
専門分野	循環器内科一般、不整脈、生活習慣病の予防と治療
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、臨床研修指導医講習修了 日本循環器学会認定専門医、日本老年医学会認定専門医・指導医 身体障害者福祉法指定医、難病指定医 ICT/CRT研修終了証取得、人間ドック健診情報管理指導士



循環器内科医師

安原 容子  
(やすはら ようこ)

出身大学	徳島大学
卒業年	2005年
専門分野	循環器一般
学会認定医 専門医	日本循環器学会認定循環器専門医、日本医師会認定産業医、 日本内科学会認定総合内科専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医



循環器内科医師

川島 千佳  
(かわしま ちか)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	2009年
専門分野	循環器内科
学会認定医 専門医	日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医、 日本心血管インターベンション、治療学会認定医、医学博士



循環器内科医師

中島 良太  
(なかじま りょうた)

出身大学	日本医科大学
卒業年	2017年
専門分野	循環器一般



循環器内科医師

堀内 優  
(ほりうち ゆう)

出身大学	岩手医科大学
卒業年	2019年
専門分野	循環器内科一般



循環器内科医師（専攻医）

三枝 雄樹  
(さいぐさ ゆうき)

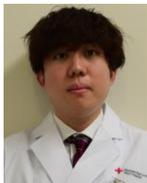
出身大学	新潟大学
卒業年	2021年
専門分野	循環器一般



循環器内科医師（専攻医）

西山 陽一郎  
(にしやま よういちろう)

出身大学	山形大学
卒業年	2022年
専門分野	循環器一般



循環器内科医師（専攻医）

大岡 昂  
(おおおか あきら)

出身大学	宮崎大学
卒業年	2023年
専門分野	循環器一般

# 消化器内科

## 【学会施設認定】

日本消化器病学会専門医制度認定施設  
 日本消化器内視鏡学会指導施設  
 日本肝臓学会認定施設  
 日本内科学会教育病院  
 日本胆道学会認定指導施設  
 日本膵臓学会認定指導施設  
 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設

## 診療科の紹介

消化器内科疾患において、腹部救急疾患（吐血などの消化管出血、急性腹症、急性胆道炎等）から消化器悪性疾患の診断治療に至るまで幅広く対応しています。食道、胃、小腸、大腸の消化管腫瘍、肝腫瘍、胆膵腫瘍の分野では各種精密検査を組み合わせることで、小さな病変を見逃さないよう病変の早期診断に力を入れております。特に消化管内視鏡治療や肝がん局所療法においては多数の治療実績がございます。

専攻医5名を含めた総勢15名の常勤医師が在籍しており、専門性の高い疾患に関しては、学会専門医または認定指導医が集まり、症例検討を行うことで診療方針を決定していきます。当科はチーム医療による複数主治医体制を取っており、若手医師には上級医がしっかりとサポートすることで、どの医師が担当しても十分なレベルの診療が維持できる体制を整えております。また各種学会の認定指導施設になっており、診療実績を学会や論文等で報告し、診療レベルの向上に努めております。

## 診療方針

迅速な診断と適切な治療法の選択を大切にしています。手術を必要とする疾患は外科と連携をとりながら適切なタイミングで手術に移行できるよう努めています。当院では治療困難な疾患は、円滑かつ迅速に大学病院などのハイボリュームセンターに紹介します。

丁寧でわかりやすい病状説明を心がけています。病状に関してご不明点は気軽に相談ください。なお、がんなどの悪性疾患をはじめとして、病状に関してはご本人への説明（病名告知）を原則としております。

入院病棟では多職種によるチーム診療を行うことで、患者さんの早期退院を支援していきます。薬剤師、看護師、栄養士、リハビリテーション理学療法士などの専門知識を持ったスタッフがサポートします。



基礎疾患のある高齢の患者さんに対しては、全身状態や治療の負担や合併症の危険性を考慮し、全人的な診療を心がけています。

## 得意とする分野

### 1) 上部消化管，下部消化管の内視鏡診断

内視鏡機器を用いた消化管の精密検査を行っております。拡大内視鏡や超音波内視鏡を用いて、病変の早期発見，正確な範囲診断，深達度診断，粘膜下病変の精査に努めています。

### 2) 消化管悪性腫瘍の内視鏡治療

内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を積極的に行っており，多数の治療実績があります。食道，胃・十二指腸，大腸において，他施設では切除困難な広範囲の病変に対しても安全に一括切除を行っております。一症例ごとにチームカンファレンスにて治療戦略を検討し，場合によっては外科とも協議した上で治療方針を決定しております。治療後は，病理組織結果を見直し，ご紹介いただいた医療機関へもフィードバックしております。

### 3) 消化管粘膜下腫瘍の診断と治療

食道，胃，十二指腸，結腸直腸の粘膜下腫瘍に対して，超音波内視鏡検査やCTまたはMRIなどの画像検査を駆使した診療を行っております。超音波内視鏡下吸引生検法（EUS-FNAまたはFNB）や切開生検法による病理組織学的診断を行い，さらに外科と共同で腹腔鏡・内視鏡合同手術（LECS: Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery）による低侵襲手術を積極的に行っております。

### 4) 胆道・膵疾患

急性胆道炎（急性胆のう炎，胆管炎）などの救急疾患に対し、内視鏡的処置や経皮的処置を多数行っています。良性の胆道結石，胆のうポリープなどの疾患から，胆道がんや膵がんなどの悪性疾患の診療も積極的に行っております。特に，膵がんや胆道がんは早期発見が困難な病気で通常の検診では診断できないことが少なくありません。当科では超音波検査やCT検査に加え，MRI(MRCP)や超音波内視鏡検査を駆使した複合的な診療を行っております。病理組織学的な診断を得るために，超音波内視鏡下穿刺吸引生検（EUS -FNA /B）やERCPによる膵管擦過細胞診，連続膵液細胞診など，小さな病変を見逃さないよう胆膵早期診断に努めています。

### 5) 閉塞性黄疸の治療

胆道がんや膵がん，肝がんなどによる閉塞性黄疸に対して，当科では内視鏡的胆道ドレナージと経皮的胆道ドレナージの両方を施行可能です。病態によって最適な胆道ドレナージ術を選択していきます。

### 6) 膵嚢胞のドレナージ治療

感染性膵嚢胞に対して，胃・十二指腸より超音波内視鏡を用いた嚢胞ドレナージ術を施行しております（超音波内視鏡下膵嚢胞ドレナージ術）。急性膵炎後の膵仮性嚢胞に対しては，より効果的なドレナージを目的として，金属ステント（Hot AXIOS™ System）によるドレナージ術を施行しております。

### 7) 肝がん（原発性肝細胞がん，転移性肝がんなど）

肝がんの局所治療としてラジオ波治療では全国でも有数の症例数を経験しております。エコーでの描出が困難な病変に対しては，リアルタイムImage Fusion技術（CTやMRIの画像データとエコー画像を同期させて病変を描出する手法）を用いることで安全性と確実性のある治療を行っております。また病変が進行した根治困難例では化学療法と併用した集学的治療も行っております。

### 8) 肝疾患

急性肝炎，C型肝炎，B型肝炎，脂肪肝，自己免疫性肝炎などの肝疾患に対する専門的診療を行っております。B型，C型ウイルス性肝炎に対する経口薬治療は多数の患者さんに施行しており良好な成績です。また肝硬変の合併症に対しても，腹水濾過濃縮再静注療法（CART），食道・胃静脈瘤の内視鏡的治療や血管カテーテル治療（BRTO）を積極的に行っています。

9) 潰瘍性大腸炎

難治例に対しては免疫調整薬、免疫抑制薬、生物学的製剤、白血球除去療法などを組み合わせ、病態の寛解導入を目指します。

10) 緩和内視鏡治療

進行がんによる苦痛症状の緩和を目的とした内視鏡治療を行っております。進行がんによる消化管閉塞に対する腸管ステント留置術（食道，胃，十二指腸，結腸・直腸），膵がんや胆道がんによる胆道閉塞に対する内視鏡的胆管ステント留置術，腹部がん疼痛の鎮痛緩和を目的とした超音波内視鏡下腹腔神経叢ブロックなどの緩和内視鏡治療を積極的に行っています。

11) 緊急内視鏡診療

上下部消化管出血に対する内視鏡止血処置や異物誤飲に対する内視鏡異物除去などの緊急内視鏡治療を積極的に行っています。小腸からの出血に対してはカプセル内視鏡や小腸内視鏡を行っています。

地域の先生方へ

確定診断が得られず治療方針に迷う症例がありましたらお気軽に紹介下さい。当科での治療が落ち着きましたら、詳細な診療情報提供書を作成し、臨床情報の共有とフィードバックに努めております。ご紹介いただきました先生には、日々の診療の一助になれば幸いです。

スタッフ紹介



消化器内科部長

井田 智則  
(いだ ともり)

出身大学	島根医科大学（現 島根大学医学部）
卒業年	1997年
専門分野	消化器一般、胆道・膵疾患一般
学会認定医 専門医	医学博士、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・総合内科指導医 日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医、日本肝臓学会認定肝臓専門医 日本膵臓学会認定指導医、日本胆道学会認定指導医、日本消化器病学会認定専門医・指導医 日本がん治療認定医、難病指定医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了 臨床研修指導医



消化器内科部長（兼）内視鏡部部长

千葉 秀幸  
(ちば ひでゆき)

出身大学	金沢大学
卒業年	2004年
専門分野	消化器一般、特に消化管内視鏡の診断・治療
学会認定医 専門医	医学博士、日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・総合内科指導医 日本消化器内視鏡学会認定専門医・指導医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了 日本消化器病学会認定専門医・指導医 日本がん治療認定医、日本カプセル内視鏡学会認定医 日本消化管学会認定胃腸科専門医・指導医、日本消化器内視鏡学会関東支部評議員 横浜市立大学医学部非常勤講師、難病指定医



消化器内科副部長

新倉 利啓  
(にいくら としひろ)

出身大学	島根大学
卒業年	2010年
専門分野	消化器一般、肝臓
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会認定専門医 日本消化器病学会認定専門医、日本肝臓学会認定肝臓専門医・指導医 医学博士、難病指定医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



消化器内科副部長

有本 純  
(ありもと じゅん)

出身大学	山形大学
卒業年	2010年
専門分野	消化器一般
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会認定専門医 日本消化器病学会認定専門医、日本肝臓学会認定肝臓専門医・肝臓暫定指導医 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



健診部副部長（兼）消化器内科医師

中岡 宙子  
(なかおか みちこ)

出身大学	秋田大学
卒業年	2008年
専門分野	消化器一般
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会認定専門医 日本消化管学会認定胃腸科専門医・指導医、難病指定医 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



消化器内科医師

須藤 拓馬  
(すとう たくま)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	2011年
専門分野	消化器一般
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本消化器内視鏡学会認定専門医 日本消化器病学会認定専門医、日本肝臓学会認定肝臓専門医 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、難病指定医



消化器内科医師

高柳 卓矢  
(たかやなぎ たくや)

出身大学	浜松医科大学
卒業年	2013年
専門分野	消化器一般、胆膵疾患
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本消化器病学会認定専門医 日本消化器内視鏡学会認定専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本膵臓学会認定指導医、医学博士、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



消化器内科医師

海老澤 佑  
(えびさわ ゆう)

出身大学	山形大学
卒業年	2017年
専門分野	消化器一般
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医、日本消化器病学会認定消化器病専門医 日本消化器内視鏡学会認定専門医



消化器内科医師

飯田 敏史  
(いいだ としふみ)

出身大学	旭川大学
卒業年	2018年
専門分野	消化器/内視鏡
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科専門医 日本消化器内視鏡学会認定専門医



消化器内科医師

林 映道  
(はやし あきみち)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	2019年
専門分野	消化器一般



消化器内科医師（専攻医）

廣畑 愛  
(ひろはた あい)

出身大学	九州大学
卒業年	2021年
専門分野	消化器一般
学会認定医 専門医	がん診療に携わる医師に対する 緩和ケア研修会修了



消化器内科医師（専攻医）

寺一 稜介  
(てらいち りょうすけ)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	2022年
専門分野	消化器一般
学会認定医 専門医	がん診療に携わる医師に対する緩和 ケア研修会修了

消化器内科医師（専攻医）

赤瀬 夢つみ  
(あかせ むつみ)

出身大学	熊本大学
卒業年	2022年
専門分野	消化器一般



消化器内科医師（専攻医）

片山 大暉  
(かたやま だいき)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	2023年
専門分野	消化器一般



消化器内科医師（専攻医）

高橋 耕平  
(たかはし こうへい)

出身大学	岩手医科大学
卒業年	2023年
専門分野	消化器

# 血液内科

【学会施設認定】  
日本血液学会専門研修教育施設

## 診療科の紹介

血液腫瘍を含む血液疾患を扱います。血液疾患とは白血球、赤血球、血小板といった血液中の細胞の質的・量的異常を中心とした病気です。血液細胞が造られる骨髄の異常も含まれます。

血液腫瘍の代表的なものは白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫です。血液腫瘍以外では再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病（ITP）、鉄欠乏性貧血などです。

血液腫瘍が疑われる場合は骨髄検査を行い診断します。外来での検査も可能です。その他レントゲン、CT、MRI、シンチグラムなどの画像検査を行います。

血液腫瘍の場合は入院の上、化学療法を行います。疾患や程度によっては外来通院での治療も可能です。急性白血病や骨髄移植などのより専門的治療が必要な場合には大学病院などと協力して治療を行います。

## 地域の先生方へ

原因のはっきりしない血算異常やリンパ節腫大など判断に迷う症例がありましたら、わずかな異常でも構いませんのでお気軽にご紹介ください。当科にて精査の必要性を検討し、適切に診療し経過をご報告させていただきます。

城南地区に限られた血液内科施設の一つとして、これまで以上に血液疾患の診療を拡充していきたいと考えております。今後とも皆様のご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## スタッフ紹介



血液内科部長

徳重 淳二  
(とくしげ じゅんじ)

出身大学	信州大学
卒業年	2012年
専門分野	血液内科
学会認定医 専門医	日本血液学会認定血液指導医・血液専門医、日本内科学会認定内科医 がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会修了

# 糖尿病・ 内分泌内科

【学会施設認定】

日本内科学会教育病院  
日本糖尿病学会認定教育施設

## 診療科の紹介

糖尿病・内分泌内科は、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症（痛風）、肥満などの代謝性疾患、脳下垂体・副腎・甲状腺・副甲状腺などの内分泌疾患の診療にあたっております。

私たちが主に診療を行っている糖尿病は、長期にわたり良好な血糖コントロールを目指し、合併症の予防と進展抑止を行う必要があることから、当科医師に加え主に糖尿病療養指導士資格を持った看護師・管理栄養士・薬剤師・検査技師・理学療法士の多職種からなる「糖尿病チーム」を結成し、さらには眼科・腎臓内科・脳神経内科・循環器内科など各科と十分に連携をとりながら患者さんの全身に十分目を配って診療にあたっています。また、妊娠時や外科手術時、各種感染症罹患時に血糖コントロールが必要な場合には産婦人科、外科、心臓血管外科、皮膚科、整形外科、泌尿器科などと密に連携をとりながら診療を行っています。

## 治療方針

糖尿病診療は、①疾患病態の説明や治療必要性の説明、②持続血糖測定(CGM)、HbA1c、血糖値などの血糖関連検査、③合併症検査、④これらを基にした薬物選択などの治療方針の決定、これに加えて良好な糖尿病療養生活を送るために必要な⑤知識の提供、⑥生活習慣改善提案、⑦栄養指導、⑧運動指導、⑨フットケア、⑩自己血糖測定および間歇スキャン式/リアルタイム持続グルコース測定の導入指導、⑪インスリンやGLP-1およびGIP/GLP-1受容体作動薬などの自己注射薬導入指導、主に1型糖尿病患者様を対象にインスリンポンプ療法（CSII）ならびにSAP療法など、実に多彩な内容を必要としています。

そこで当科では「糖尿病チーム」によるチーム医療・多職種連携で患者さんに対応することで、患者さんとじっくり向かい合い、患者さんの気持ちに寄り添ったきめ細かな医療が行える体制を敷いており、糖尿病診療としては理想的な体制で対応しています。また、インスリン分泌能・抵抗性や合併症の評価、それらに基づく治療法

超高齢社会である現在において、糖尿病をもちながら糖尿病以外の疾患で入院されている患者さんがあらゆる病棟に多数いらっしゃいます。こうした患者さんの主病治療をサポートし血糖管理を行うことも私たちの重要な診療業務となっています。そこで当科医師はあらゆる病棟に出入りし、各病棟で糖尿病療養指導に対応できる看護師と連携を密にとりながら糖尿病診療を行っています。

加えて、「肥満」の蔓延とその治療介入は、世界的な課題となっています。日本でも食生活やライフスタイルの欧米化に伴い、肥満人口は確実に増加傾向にあり、「肥満」への介入と取り組みは、個人ばかりではなく、世界が直面する課題であり、かつ早急に介入すべき社会的な問題とも言えます。そこで、当科としても「肥満外来」を設置し、最新の薬物療法を含めた治療法の導入を行っています。

の決定、糖尿病に関する様々な知識の習得、食事・運動療法・自己血糖測定の体験などを1～2週間で集中的に行う教育入院プログラムも随時行っております。

加えて、糖尿病の合併症のほか、肥満治療にも力を入れ、肥満減量プログラムを策定し、近隣の先生方からのご依頼にも迅速に対応しております。

この糖尿病チームや前述のプログラムを必要とする患者さんが遅滞なく私たちの診療枠にアクセスしていただけるようにするためには、限りある診療枠を効率よく運用することが必要となります。したがって、患者さんが私たち糖尿病チームやプログラムを最大限に活用されて状態が安定した場合は、以後の治療をかかりつけ医の先生あるいは患者さんが希望されるクリニックの先生へ早々にご紹介することを原則としており、必要に応じて地域の中核病院ならびに地域医療支援病院として、かかりつけ医とのダブル主治医制による地域医療連携を推進しています。

## 得意とする診療

- 糖尿病（1型、2型、妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠など）
- 脂質異常症（高コレステロール血症、高中性脂肪血症、家族性高コレステロール血症）
- 肥満症（高度肥満症も含む）
- 高尿酸血症
- 高血圧症
- 甲状腺機能亢進症（バセドウ病など）
- 甲状腺機能低下症（橋本病）
- 副甲状腺疾患
- 脳下垂体疾患（クッシング病、下垂体前葉機能不全、尿崩症など）
- 副腎疾患（副腎不全、クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫など）
- 骨粗鬆症

## 患者さんへ

糖尿病や肥満症は長くつきあってゆく病気であり、上手につきあう事が可能です。私たち糖尿病チームは皆さん一人一人の伴走者でありたいと考えています。時に励まし、時には厳しいこととお話するかもしれません。でもあなたが糖尿病に少し疲れて休みたくなった時も、私たちはそばであなたを見守っています。そしてまた歩き始める元気が出てきたら・・・さあ一歩一歩前へ進みましょう。

## 診療案内 ※外来診療 月～金（完全予約制）

### ▼管理栄養士

食事療法の主役は患者さまであることを念頭に食品模型やパンフレット等を駆使し、興味をもていただけるように支援させていただきます。

各種資格・認定一覧（2025年4月現在）

認定	人数
管理栄養士	5名

### ▼糖尿病療養指導士

糖尿病療養指導士とは、糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識を持っているスタッフです。アメリカで発足した制度ですが、今は日本でも定着し全国で活動しています。当院は現在9名の糖尿病療養指導士がおりますので、医師の指示の下、患者さまの糖尿病治療を食事・運動・お薬・日常生活などあらゆる面からサポートします。皆さまが明るくお過ごしいただけるためのパートナーとして、お気軽にお声をかけていただければと思っています。

看護師	3名
管理栄養士	2名
薬剤師	2名
臨床検査技師	1名
理学療法士	2名

## 専門外来 ※肥満外来 木曜日15時～（完全予約制）

### 専門医療機器

インスリンポンプ治療器                    各種持続血糖モニターシステム  
 SAP（Sensor Augmented Pump）治療器    24時間自由行動下血圧測定器（ABPM）  
 甲状腺エコー（甲状腺穿刺法）    持続陽圧呼吸療法（CPAP）

## スタッフ紹介



糖尿病・内分泌内科部長

岡田 健太  
(おかだ けんた)

出身大学	昭和大学
卒業年	1998年
専門分野	糖尿病、肥満症、高血圧症、脂質異常症、動脈硬化症、内分泌疾患、老年症候群、妊娠関連糖代謝異常症
学会認定医 専門医	<p>日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医                  日本糖尿病学会認定専門医・研修指導医・評議員                  日本内分泌学会認定専門医・指導医・評議員                  日本老年医学会認定老年科専門医・指導医・高齢者栄養療法認定医                  日本動脈硬化学会専門医・認定指導医・評議員                  日本高血圧学会専門医・指導医・評議員                  日本肥満学会認定専門医・指導医・評議員                  日本肥満症治療学会評議員                  日本糖尿病・妊娠学会評議員                  日本骨粗鬆症学会認定医                  日本医師会認定産業医                  臨床研修指導医                  共用試験医学系臨床実後OSCE評価者認定医                  看護師特定行為指導者講習会修了                  日本臨床栄養代謝学会日本外科代謝栄養学会共催教育事業「NST医師・歯科医師教育セミナー」修了                  日本病態栄養学会認定NST研修修了                  アルツハイマー病の病態、診断、本剤の投与対象患者及び治療に関する研修・ARIAに関するMRI読影の研修受講修了                  日本老年医学会高齢者医療研修会修了、高齢者栄養療法研修会（TNT-Geri）修了                  自治医科大学 非常勤講師</p>



糖尿病・内分泌内科医師

伴光 帆奈美  
(ともみつ ほなみ)

出身大学	帝京大学
卒業年	2018年
専門分野	糖尿病・代謝・内分泌
学会認定医 専門医	<p>日本専門医機構認定内科専門医                  日本専門医機構認定内分泌代謝・糖尿病内科領域専門医                  がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了</p>



糖尿病・内分泌内科医師（専攻医）

小糸 進太郎  
(こいと しんたろう)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	2023年
専門分野	糖尿病・代謝・内分泌
学会認定医 専門医	厚生労働省オンライン診療研修修了



非常勤医師

岩田 葉子  
(いわた ようこ)

出身大学	鹿児島大学
卒業年	2013年
専門分野	糖尿病・代謝・内分泌

# 腎臓内科

## 【学会施設認定】

日本透析医学会認定教育関連施設

日本腎臓学会研修施設

日本高血圧学会専門医制度研修施設 I

## 診療科の紹介

当科では、腎臓疾患、電解質異常など生命の恒常性を維持する臓器や動脈硬化のリスク因子である高血圧症を診療の柱としています。本邦では、高齢化や高食塩摂取のためこれらの疾患は増加の一途をたどっています。慢性腎臓病は約1,300万人、高血圧症は約4,300万人と成人の2人に1人はこれらの疾患に罹患しているのが現実です。腎臓という臓器は単に排泄の機能だけではなく、老化にも関与していることが、近年の基礎医学的研究で判明してきました。

実際、腎臓病の方には、心臓病や脳卒中などを合併することが多く、動脈硬化が（特に石灰化を伴う）進展していることが分かっています。また、高血圧症も心血管病や特に脳卒中の最大の危険因子であることは疫学的に示されています。

## 診療実績

### 処置・検査件数（2024年度）

処置・検査	件数
血液透析年間のべ回数	7723回
GCAP	8回
PMX	11回
PE	15回
CART	75回
レオカーナ	4回
内シャント造設術	21件
PDカテ留置術	1件
経皮的腎生検	8件

### 学会発表件数（2024年度）

学会	演題数
第54回日本腎臓学会東部学術大会 第54回日本腎臓学会西部学術大会 第107回神奈川腎研究会	計3件

当科では、二次性高血圧の精査やABPM（24時間自由行動下血圧）、栄養指導にて、これらの疾患を集約的に治療・管理しています。また、腎代替療法選択外来にてSDM（Shared decision making：共同意思決定）を行い、血液透析や腹膜透析の導入、移植登録の紹介など、より良い選択肢を用意しています。

蛋白尿や血尿に関しても適応を検討しながら、腎生検を施行しています。糸球体腎炎を生じる自己免疫性疾患に対するステロイド治療や免疫抑制剤による治療、血漿交換治療も行っています。

## 専門医療機器整備による機能

- ▼ 透析室は17ベッドに増設し、透析治療の充実を図ります。
- ▼ 最新の透析装置を整備し、感染対策や医療安全の向上を図ります。
- ▼ 血漿交換療法、腹膜透析による治療も行っています。
- ▼ 2次性高血圧の診断確定にも力を入れています。

## スタッフ紹介



腎臓内科部長

澁谷 研  
(しぶや けん)

出身大学	奈良県立医科大学（横浜市立大学医局）
卒業年	1993年
専門分野	腎臓病、高血圧症、透析療法
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・内科指導医 日本腎臓学会認定専門医・指導医 日本透析医学会認定透析専門医・指導医、日本高血圧学会高血圧専門医・指導医 更生医療指定医、身体障害者福祉法指定医 難病指定医、臨床研修指導医講習修了、日本プライマリ・ケア連合学会認定医 日本医師会認定産業医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修修了 横浜市立大学医学部非常勤講師、腎代替療法専門指導士



腎臓内科医師

馬場 健寿  
(ばば けんじ)

出身大学	新潟大学
卒業年	2017年
専門分野	腎臓疾患・高血圧
学会認定医 専門医	がん診療に携わる医師に対する緩和ケア講習修了



腎臓内科医師

北地 大祐  
(きたじ だいゆう)

出身大学	福島県立医科大学
卒業年	2018年
専門分野	腎臓疾患・高血圧・透析
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科専門医、日本透析医学会認定透析専門医、 日本腎臓学会認定腎臓専門医、日本医師会認定産業医 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア講習修了



腎臓内科医師（専攻医）

高野 珠衣  
(たかの じゅい)

出身大学	岡山大学
卒業年	2022年
専門分野	腎臓疾患・高血圧

# 脳神経内科

## 【学会施設認定】

日本脳卒中学会研修教育施設

日本神経学会教育施設

日本臨床神経生理学会認定施設

## 診療科の紹介

脳神経内科は2010年度に病床数6床からはじまり、2013年度以降は20床以上の入院病床で診療しています。2011年から日本神経学会教育施設の認定も受けています。

2025年4月より常勤医6名、専攻医2名で入院診療にあたっています。脳神経内科専門医が3名、日本臨床神経生理学会専門医1名という都内でも充実したスタッフによる診療体制で診療を行っています。

脳神経内科には、手足のしびれや運動障害、頭痛、めまい、歩行障害、物忘れなど多彩な症状を訴えて多くの方が来診されます。これらの症状が脳や脊髄、末梢神経、筋肉のどこの障害で起きているのかを見極めることが我々の仕事です。緻密な神経学的診察と、CT・MRI・電気生理学的検査・核医学検査などを駆使して的確に診断し、治療方針を決定するのが脳神経内科医の役目です。

脳梗塞超急性期や髄膜炎、脳炎、ギランバレー症候群などといった神経救急疾患のみならず、パーキンソン病などの神経変性疾患、多発性硬化症、視神経脊髄炎、重症筋無力症、アミロイドーシス、てんかんなど幅広い疾患に対応しています。

脳神経外科や整形外科、循環器内科、眼科など複数の科と連携し、診断・治療を行っています。

## 救急体制の充実

東京都脳卒中急性医療機関Sに認定された超急性期脳梗塞に対し、t-PAに加え、脳外科による血栓回収術をはじめとした血管内治療など、最善の治療法を提供しています。てんかん・髄膜炎・脳炎・ギランバレー症候群・重症筋無力症など様々な神経救急疾患に対しても治療を提供しています。

## 充実した検査体制

MRI、CT、核医学検査など画像診断機器も充実しており、迅速な診断体制を整えています。2台のMRIがあり、救急患者に即日撮影可能です。心臓や頸動脈の超音波検査も必要に応じて即日検査しています。脳血管障害の原因やリスク判定、治療方針の決定が迅速に行えます。

SPECTによる脳血流の評価のみならず、DaT scanやMIBG心筋シンチになどを実施しパーキンソン病やレビー小体病をはじめとする神経変性疾患の診断に役立てています。

日本臨床神経生理学会専門医が常勤しており、神経伝導速度検査や筋電図検査などの電気生理学的検査が充実しております。神経生検・筋生検も適宜に行い、診断・治療にあたっています。

## リハビリテーションの充実

脳神経内科では、脳卒中に限らず、廃用防止、合併症の防止、社会復帰のためにリハビリテーションが不可欠です。入院早期からリハビリテーションを行い、チーム医療に基づいた充実したリハビリテーションを提供しています。

脳梗塞の方や嚥下機能の低下した患者さんに、入院早期から言語聴覚士による介入を行い、必要に応じて嚥下造影検査を実施しています。



## 専門医療機器整備による機能

脳血管障害の詳細な解析による治療方針の決定・リスク評価を行い治療していきます。

パーキンソン病・変性疾患・認知症などの病型診断を行い治療していきます。

電気生理学的検査の充実により神経筋疾患・脊髄疾患・てんかんなどの適切な診断治療を追求します。

## 診療実績

主な疾患別入院患者数（人）

疾患分類（神経学会基準）	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
脳血管障害	15	4	20	2	1
脳血管障害（7日以内の急性期）	148	187	207	213	219
<b>神経変性疾患</b>					
筋萎縮性側索硬化症	16	4	7	13	7
パーキンソン病	38	28	60	38	67
他のパーキンソニズム（PSP,CBDなど）	2	0	3	0	0
多系統萎縮症（SDS,OPCA,SNDなど）	2	4	2	4	4
脊髄小脳変性症（多系統萎縮症を除く）	5	1	1	2	5
不随意運動疾患（舞蹈病、振戦など）	2	1	0	6	1
その他の変性疾患	1	1	6	0	0
<b>認知症性疾患</b>					
アルツハイマー病	2	1	2	1	3
血管性認知症	0	0	5	3	3
その他の認知症性疾患	1	3	1	1	5
免疫関連性中枢神経疾患 （MS,脊髄炎,バ-チエット病など）	40	4	4	5	13
末梢神経疾患（GBS,CIDP,CMTなど）	9	9	4	19	35
筋疾患（筋炎、皮膚筋炎、ジストロフィーなど）	5	6	13	10	4
神経感染症（脳炎、髄膜炎など）、脳症	6	23	8	23	18
てんかん（原発性、症候性）	19	27	29	28	29
腫瘍	0	2	4	7	7
中毒性神経疾患	0	0	1	3	0
内科疾患、代謝性疾患に伴う神経障害	36	21	28	48	36
その他	21	111	198	261	238
<b>総数</b>	<b>368</b>	<b>437</b>	<b>603</b>	<b>687</b>	<b>695</b>



## スタッフ紹介



脳神経内科部長

鈴木 葉子  
(すずき ようこ)

出身大学	群馬大学
卒業年	1996年
専門分野	神経内科
学会認定医 専門医	日本神経学会認定神経内科専門医・指導医、身体障害者福祉法指定医、難病指定医 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 日本リハビリテーション医学会認定臨床医、身体障害者肢体不自由指定医、医学博士 t-PA実施資格者



脳神経内科副部長

川上 真吾  
(かわかみ しんご)

出身大学	金沢大学
卒業年	1999年
専門分野	神経内科、神経生理学
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医 臨床研修指導医講習修了、難病指定医 日本神経学会認定神経内科専門医 日本臨床神経生理学会認定医(脳波・節電図)、医学博士、t-PA実施資格者



脳神経内科医師

堀 賢太郎  
(ほり けんたろう)

出身大学	京都大学
卒業年	2017年
専門分野	神経内科全般
学会認定医 専門医	日本神経学会認定神経内科専門医、日本専門医機構認定内科専門医 難病指定医、日本医師会認定産業医、JMECC（内科救急・ICLS）修了 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



脳神経内科医師

深浦 将太  
(ふかうら しょうた)

出身大学	東京医科大学
卒業年	2020年
専門分野	神経内科全般
学会認定医 専門医	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会修了



脳神経内科医師

趙 顕一  
(ちょう けんいち)

出身大学	獨協医科大学
卒業年	2020年
専門分野	神経内科全般



脳神経内科医師

花岡 謙  
(はなおか けん)

出身大学	東邦大学
卒業年	2020年
専門分野	脳神経内科全般
学会認定医 専門医	HMSJ修了



脳神経内科医師（専攻医）

石谷 直貴  
(いしたに なおき)

出身大学	山梨大学
卒業年	2021年
専門分野	神経内科全般



脳神経内科医師（専攻医）

金森 裕芽  
(かなもり ゆめ)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	2023年
専門分野	神経内科

# 緩和ケア内科

## 診療科の紹介

2023年11月から緩和ケア内科が新設されました。緩和ケア内科では緩和ケア病棟に入院している患者さんを担当することを主業務としています。そのほかに緩和ケア外来（当院かかりつけ患者を対象としています）院内緩和ケアチーム活動などを行なっています。

緩和ケアはWHOにより「緩和ケアとは、生命を脅かす病に関連する問題に直面している患者とその家族のQOLを、痛みやその他の身体的・心理社会的・スピリチュアルな問題を早期に見出し的確に評価を行い対応することで、苦痛を予防し和らげることを通して向上させるアプローチである。」と定義されています。

緩和ケアでは病気の治療に主眼を置くのではなく、病を抱えて日々を過ごしている患者の毎日の生活を医療的立場から、身体的な面だけでなく、精神的、社会的、スピリチュアルな面も含めて全人的にサポートすることを目標に診療をおこないます。

## 緩和ケアの提供体制

### 1) 緩和ケア病棟

当院 3 階に緩和ケア病棟があります。詳細は緩和ケア病棟の紹介をご参照ください。

### 2) 院内緩和ケアチーム

当院に入院中の方で、がんに伴う辛い症状がある方に対して、主治医から依頼を受け主治医と共にがんの辛い症状を和らげる治療を行ないます。

### 3) 外来

外来は月曜午後、火曜日午前の院外から緩和ケア病棟への紹介患者の初診面談を行う初診外来と、金曜午前の緩和ケア外来（院内かかりつけ患者対象）を行なっています。金曜午前の緩和ケア外来はがんに伴う辛い症状（痛み、吐き気、倦怠感など）の診察と治療を行なう外来です。

また、緩和ケア病棟入院予定があり自宅で過ごすことと当院に通院できる状態にある患者さんの定期通院も対象としています。

緩和ケア内科の外来はすべて完全予約制です。

### 4) 訪問診療

緩和ケア入院初診外来後当院の緩和ケア病棟に登録している患者さんと、緩和ケア外来に通院が困難な方に対して、ご希望の場合には定期訪問診療を実施しています。平日日中の時間帯に、曜日時間を決めての定期訪問となります。臨時往診や24時間の対応が必要な患者さんには地域の訪問診療クリニックをご紹介します。

## 緩和ケア病棟の紹介

当院では2024年3月より緩和ケア病棟が本格的に稼働を開始しました。緩和ケア病棟は当院3階の北側にあり、13床の病棟で緩和ケアの必要な患者さんが入院しています。

緩和ケア病棟入院対象となる患者さんはがんまたはAIDSの末期と定められていますが、実際には進行がんの患者さんが入院しています。

緩和ケア病棟ではがん（悪性腫瘍）の治癒を目的とした治療は行いませんが、患者さんの身体や心の苦痛症状を緩和するために必要な治療・ケアを行うことを目的とし、その人らしく過ごすための支援をする病棟です。また外来や地域の医療機関と連携し、在宅療養を支援します。

### ◆緩和ケア病棟の概要

緩和ケア病棟は個室（差額あり）が3室、2人部屋（差額あり）が1室、4人部屋（差額なし）が2室あります。



緩和ケア病棟には病棟専用のデイルーム、面談室がありますが、そのほかに家族キッチンや家族控室といった患者さんのご家族が利用できる設備も備えられています。

また、ペット面会も可能となっています。



ナースステーション



家族控室



個室



食堂デイルーム



2人部屋



4人部屋

## ◆当院緩和ケア病棟の方針、基本的考え方

当院緩和ケア病棟では、がんの治療ではなく、がんの進行などに伴う体や心の辛さに対する専門的な緩和ケアを提供し、患者の生命が終りを迎える時まで患者とその家族を支える医療とケアの提供を目指しています。専門職に非専門職を加えた多職種によるチームアプローチを行い、患者とその家族（患者が家族と同様にとらえている人を含む）のQuality Of Life(QOL)の向上を目的とした全人的ケアの提供を目指しています。

緩和ケア病棟では次のような基本方針で日々のケアを行います。

1. 痛みやその他の苦痛となる症状を緩和します。
2. 生命を尊重しつつ死にゆく過程に敬意を払い、病気の自然の経過を尊重します。
3. 患者・家族の望まない無理な延命も意図的に死を招くことも致しません。
4. 患者を全人的にとらえ、身体面の援助だけでなく、精神的・社会的な援助やスピリチュアルケアを提供し、最後までその人らしく生きていけるように支えます。
5. 患者が病気の療養中から死別した後に至るまで、家族が様々な困難に対処できるように支えます。
6. 患者と家族が今日一日を少しでも良い一日として過ごせることを目標に、ひとつひとつのケアを行います。
7. 地域に根ざした緩和ケア病棟として地域住民が安心して終末期までを療養できるようなケアを提供し、必要に応じて地域の医療機関とも積極的な連携を行います。

## ◆当院緩和ケア病棟への紹介について

緩和ケア病棟に入院していただく患者さんは登録制となっています。緩和ケア内科初診外来で面談を行い、緩和ケアの説明を受けた上で緩和ケア病棟への入院を希望が確認された患者さんを当院緩和ケア病棟登録患者さんとして登録します。一度登録された患者さんは自宅で過ごせる間は自宅での療養を継続していただき、入院希望となった時点でご連絡をいただければ入院の手配を行うこととなります。また、初診外来受診時点で他の病院に入院しており、転院を希望される方、初診外来樹院時点で自宅療養中であるが速やかに入院を希望される方についてはすぐに入院の手配に移ることとなります。

ご紹介いただくタイミングとしては積極的がん治療を行わない方針となり、将来的に緩和ケア病棟への入院を検討した時点がよろしいかと考えております。

当院への紹介手続きについては当院ホームページの診療科案内、緩和ケア内科のページに詳細が掲載されていますので、合わせてご参照ください。

## スタッフ紹介



緩和ケア内科部長

茅根 義和  
(ちのね よしかず)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	1992年
専門分野	緩和ケア
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医、日本医師会認定産業医 緩和ケアの基本教育に関する指導者研修会修了 臨床研修指導医講習修了、がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会修了

# 外科

## 【学会施設認定】

日本消化器病学会専門医制度認定施設  
日本外科学会外科専門医制度修練指定施設  
日本消化器外科学会専門医制度修練施設  
日本がん治療認定医機構認定研修施設  
日本大腸肛門病学会認定施設  
日本腹部救急医学会認定施設

## 診療科の紹介

当院は日本外科学会専門医制度指定施設、日本乳癌学会の認定施設であり、また東京大学大腸肛門外科の関連施設として日本消化器外科学会専門医制度修練施設に指定され、消化器・一般外科、乳腺外科領域の幅広い疾患の診療を行っています。消化器・一般外科の分野では、食道を除く消化管全般（胃、十二指腸、小腸、大腸、肛門）と肝臓、胆道、膵臓、脾臓、ヘルニアや体表の腫瘍に対する手術を行っています。また栄養投与経路を確保するための胃ろう造設や中心静脈ポート植え込みなどの手術も行っています。

胃癌や大腸癌に対しては、侵襲の少ない腹腔鏡下手術に力を入れていますが、2024年5月からは大腸癌に対するロボット手術も開始しました。2024年度は大腸癌切除手術を86例実施しましたが、このうち腹腔鏡手術は31例、ロボット手術は47例で、全体の90%を低侵襲である腹腔鏡/ロボット手術で行いました。また、胃癌に対しても10月からロボット手術を開始し、2024年度には5例実施しました。GISTなど胃粘膜下腫瘍に対しては消化器内科と合同で行う、内視鏡腹腔鏡合同手術（LECS）も積極的に行っています。さらには、本年4月には肝胆膵を専門とする木谷嘉孝医師が着任し、今後は肝胆膵領域の悪性腫瘍に対する難度の高い手術も積極的に行っていく予定です。ヘルニアの分野でも低侵襲の腹腔鏡下手術を第一選択としています。また、地域の救急医療の担い手として、消化管穿孔や急性虫垂炎などの腹部救急手術にも、オンコール体制を整えて全力で対応しています。

乳腺外科では乳癌切除手術は前年度より9件増の25例を行い、昨年から開始した乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術は50例実施しました。今後は新しく着任した形成外科の井上真梨子医師と連携して、乳房再建術を実施していく予定です。

がんの診療にあたってはチーム医療が必須であり、内科医や薬剤師、看護師、栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなど多職種で情報を共有し、カンファレンスを重ねながら、患者さんに適した医療を提供できるように努めています。今後も引き続き、地域の皆様がいつでも安心してかかれる、信頼される外科を目指して努力していきます。



外科スタッフ一同

診療実績①

手術件数の推移

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
総手術件数	453	460	464	462	570
入院手術件数	446	451	462	453	509
乳腺の手術	25	20	14	16	80
乳癌切除	22	17	13	16	25
画像ガイド下吸引術					50
その他	3	3	1	0	5
胃の手術	21	28	16	35	33
胃癌切除合計	12	17	10	20	18
(開腹)	9	15	10	16	4
(腹腔鏡)	3	2	0	4	9
(ロボット)					5
GIST切除合計	4	3	0	4	9
(開腹)	4	0	0	0	3
(腹腔鏡)	0	3	0	4	6
その他	5	8	6	11	6
肝臓の手術	1	2	0	0	5
胆石・胆嚢炎	86	86	97	79	89
胆道・膵腫瘍	1	2	1	2	5
小腸の手術	34	25	38	29	36
腸閉塞	26	20	27	24	27
小腸腫瘍	4	1	1	2	2
その他	4	4	10	3	7
大腸の手術	91	114	100	85	111
結腸癌切除合計	45	64	46	32	54
(開腹)	33	28	27	20	8
(腹腔鏡)	12	36	19	12	21
(ロボット)					25
直腸癌切除合計	10	21	20	18	32
(開腹)	8	8	9	4	0
(腹腔鏡)	2	13	11	14	10
(ロボット)					22
その他	36	29	34	35	25



## 診療実績②

### 手術件数の推移

	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
肛門の手術	10	9	1	4	13
虫垂炎・虫垂腫瘍	73	69	69	73	58
ヘルニア	62	68	89	104	100
鼠径・大腿ヘルニア	56	60	79	93	88
鼠径部切開法	56	60	61	51	41
腹腔鏡(TAPP)			18	42	47
腹壁瘢痕ヘルニア	4	7	5	8	8
その他	2	1	5	3	4
緊急手術	118	121	121	117	132

### ロボット支援下手術について

2024年4月から手術支援ロボット“ダヴィンチ”が本格的に稼働を開始し、当科では胃癌と大腸癌に対するロボット手術を積極的に行っています。精密な操作で切開、縫合を行うことができ、術中出血量や縫合不全など合併症発生率の低減が報告されています。



## スタッフ紹介



院長 兼 外科医師

橋口 陽二郎  
(はしぐち ようじろう)

出身大学	東京大学
卒業年	1985年
専門分野	一般外科・消化器外科
学会認定医 専門医	医学博士、日本外科学会 認定医・専門医・指導医・代議員 日本消化器外科学会 専門医・指導医・評議員、日本内視鏡外科学会 技術認定医・評議員、 日本内視鏡外科学会 ロボット支援手術プロクター 日本大腸肛門病学会 専門医・指導医・評議員・理事 日本消化器内視鏡学会 専門医・指導医、日本消化器病学会 専門医・指導医 日本腹部救急医学会 認定医・教育医、消化器がん外科治療 認定医 ロボット支援下手術資格 (ダ・ヴィンチ)、日本臨床外科学会 評議員・幹事 日本外科代謝栄養学会 評議員・教育指導医、日本臨床栄養学会 評議員 日本成人病 (生活習慣病) 学会 評議員・理事 大腸癌研究会 世話人・幹事、大腸癌治療ガイドライン作成委員会アドバイザー



副院長 兼 外科医師

渡邊 俊之  
(わたなべ としゆき)

出身大学	金沢大学
卒業年	1989年
専門分野	一般外科・消化器外科
学会認定医 専門医	日本外科学会認定専門医・指導医、日本消化器外科学会認定専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医、日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医 身体障害者福祉法指定医(直腸機能障害)、難病指定医、臨床研修指導医講習修了 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、日本DMAT隊員



外科部長

日吉 雅也  
(ひよし まさや)

出身大学	北海道大学
卒業年	2003年
専門分野	大腸肛門外科
学会認定医 専門医	日本外科学会認定外科専門医・指導医、日本消化器外科学会認定専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本消化器内視鏡学会認定専門医、日本消化器病学会認定専門医 日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医、日本大腸肛門病学会認定専門医 日本内視鏡外科学会 技術認定医(大腸)・ロボット支援手術認定プロクター(直腸・結腸)、 臨床研修指導者講習修了



外科部長

森園 剛樹  
(もりぞの ごうき)

出身大学	自治医科大学
卒業年	2003年
専門分野	一般外科・消化器外科（特に大腸外科）
学会認定医 専門医	日本内視鏡外科学会技術認定医（大腸）、日本外科学会認定専門医 日本消化器病学会認定専門医、日本消化器外科学会認定専門医・消化器がん外科治療認定医、 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、 日本ロボット外科学会認定da Vinci Surgical System(Xi)術者 身体障害者福祉法指定医（膀胱または直腸機能障害） 検診マンモグラフィ読影認定医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了 臨床研修指導医講習修了



外科部長

浦辺 雅之  
(うらべ まさゆき)

出身大学	東京大学
卒業年	2008年
専門分野	上部消化管外科
学会認定医 専門医	医学博士、日本外科学会認定専門医・指導医 日本消化器外科学会認定専門医・指導医・消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会認定技術認定医（胃）、ロボット支援下手術資格（da Vinci/hinotori） 日本食道学会食道科認定医、日本栄養治療学会認定医・TNT（Total Nutrition Therapy）Dr 日本がん治療認定医機構がん治療認定医、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了 臨床研修指導医講習修了



外科部長

木谷 嘉孝  
(きや よしたか)

出身大学	香川大学
卒業年	2011年
専門分野	肝胆膵外科
学会認定医 専門医	日本外科学会認定専門医、日本消化器外科学会認定専門医、消化器がん外科治療認定医 日本内視鏡外科学会技術認定医、日本肝胆膵外科学会評議員 ロボット（da Vinci）手術認定資格取得、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



外科（乳腺外科）部長

岩本 美樹  
(いわもと みき)

出身大学	日本医科大学
卒業年	2005年
専門分野	乳腺外科
学会認定医 専門医	医学博士、日本外科学会認定専門医、日本乳癌学会認定医・専門医、がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン腫瘍外科学指導者コース修了、検診マンモグラフィ読影認定医、乳房超音波認定医、乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師・施行医師、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、緩和ケア基本教育指導者研修会修了



外科医師

寺井 恵美  
(てらい えみ)

出身大学	秋田大学
卒業年	2007年
専門分野	一般外科・消化器外科
学会認定医 専門医	日本外科学会認定専門医、日本がん治療認定医 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



外科医師

長谷川 由衣  
(はせがわ ゆい)

出身大学	信州大学
卒業年	2013年
専門分野	一般外科・消化器外科



外科医師

深井 隆弘  
(ふかい たかひろ)

出身大学	東京医科大学
卒業年	2017年
専門分野	消化器外科



外科医師（専攻医）

鈴木 真美  
(すずき まみ)

出身大学	福島県立医科大学
卒業年	2022年
専門分野	一般外科



非常勤医師

鈴木 規之  
(すずき のりゆき)

出身大学	筑波大学
卒業年	1983年
専門分野	乳腺外科
学会認定医 専門医	日本外科学会認定専門医・指導医、 日本乳癌学会認定乳腺専門医・指導 医 検診マンモグラフィー読影認定医（AS判 定） 日本超音波医学会認定超音波専門 医・指導医、日本乳腺甲状腺超音波 診断会議幹事 日本がん治療認定医機構暫定教育医

# 形成外科

## 診療科の紹介

当院の形成外科は外傷・腫瘍・再建・先天奇形・美容などの分野の診療を行い、手術や処置などを駆使して全身の整容的な問題や組織の変形や欠損などを治療し、患者さんのQOLの向上を目指します。

丁寧な診療を心がけて参ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 治療対応可能な疾患

### 乳房再建手術

乳房再建は乳癌手術により欠損した乳房のふくらみを取り戻すための手術です。これから乳癌手術を控えている方だけでなく乳癌手術が終わったあとの患者さんも適応になります。方法は自分のお肉を使った自家組織再建やインプラントを使った再建などがあります。乳腺科の先生と連携して進めて参りますので、乳房再建をお考えの方はお気軽にご相談頂けたらと思います。

### 皮膚皮下腫瘍（しこり）、母斑（ほくろ）、血管腫（あざ）

ただ切除するだけでなく、術後の整容面に細心の注意を払い、瘢痕を最小限に抑えるように手術を行います。

肥厚性瘢痕、ケロイド、瘢痕拘縮：けがや手術後の傷が赤く盛り上がった場合、きずあとが気になる場合はご相談ください。また、やけど後のひきつれなども治療可能です。

### 眼瞼下垂症（まぶたの下がり）

老人性眼瞼下垂症、先天性眼瞼下垂症の手術を行います。

### 爪の変形（陥入爪、巻き爪）

陥入爪がどうして発症・悪化するかを解析し、それぞれの患者さんに適した治療法を行います。

### 熱傷（やけど）

保存的治療、手術治療を使い分けて治療します。やけどの治療は早めの受診が大切ですので、受傷したら早めにご相談ください。

### 臍突出症（でべそ）など、へその変形

### 陥没乳頭、副乳など、乳房関連の変形

### 先天性耳瘻孔、副耳、埋没耳など、耳の変形

### 腋臭症（わきが）

当院では日帰りもしくは入院によるわきがの手術が可能です。

### 顔面外傷、顔面骨骨折

### 毛が関連する疾患（禿瘡、毛巣洞など）

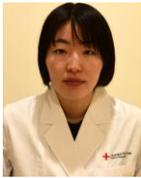
### 難治性皮膚潰瘍（治りにくい創）、褥瘡（床ずれ）

褥瘡は状態に合わせて、保存的治療、手術治療を使い分けて対応します。

### 顔面神経麻痺による変形



## スタッフ紹介



形成外科副部長

井上 真梨子  
(いのうえ まりこ)

出身大学	日本医科大学
卒業年	2017年
専門分野	形成外科一般、乳房再建
学会認定医 専門医	日本形成外科学会認定形成外科専門医、乳房再建用エキスパンダー・インプラント責任医師

# 呼吸器外科

## 【学会施設認定】

日本呼吸器学会認定施設

呼吸器外科専門医合同委員会認定専門研修連携施設

日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設

## 診療科の紹介

当科では肺悪性腫瘍（原発性肺癌、転移性肺腫瘍）、肺良性腫瘍、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍、炎症性肺疾患、自然気胸、急性膿胸等に対する手術療法を主に行っております。

当科の大きな特徴は、①低侵襲な完全胸腔鏡下手術を行っていること（全手術の95%が胸腔鏡下手術）、②浸潤癌になる前のより早期の段階での積極的な縮小手術（区域切除・部分切除術）を多く行っていることの2つが挙げられます。

①の低侵襲な完全胸腔鏡下手術は、東海大学の伝統ある二窓法から、広く一般的に行われているマルチポート(3ポート、4ポート)、また、よりポート数を少なくした、1 window & 1port法（2-3cmの操作孔と5mmのカメラポートのみ）を、腫瘍の位置に応じて、その患者さんにより適したアプローチ法で行っております。ゆえに、応用範囲が広く、あらゆる場面に対応できるのが当科の完全胸腔鏡下手術の特徴です。もちろん、症例によって、従来の標準開胸手術の方がより適切であれば、開胸手術を行っております。いずれにせよ、安全、根治性、そしてより低侵襲をモットーに手術をさせて頂いております。

②の積極的縮小手術に関しては、2022年版肺癌診療ガイドラインで、およそ60年ぶりに肺癌の標準手術が書き換えられました。今までは、肺癌であれば、肺葉切除・縦隔リンパ節郭清術が標準術式でありましたが、今回の改定では、肺野末梢のStageIA1-2期で(1)すりガラス影が主体の病変に対しては、区域切除や部分切除などが推奨され、(2)それ以外の(全体径2cm以下の)病変に対しては、区域切除または肺葉切除が推奨となりました。

当科では、今回あらたに標準術式となった、この区域切除術に対し、技術的に難しいとされる複雑区域切除術に対しても、3D-CTやICG区域間同定法という技術を駆使して、より早期の段階で、より低侵襲に、より肺を温存した形で手術を行っております。

また、当科では画像診断にも力を入れております。診断がついていない胸部異常陰影のみの段階でのご紹介でももちろん構いませんので、何か気にかかる所見がございましたら、お気軽に当科にご紹介賜れればと思います。良性疾患や手術適応の無い肺癌に関しましても、当院呼吸器内科と密接に連携をとって対応しておりますので、ご紹介の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年度より、常勤の中村に加えて、中尾医師が加わり、常勤医が2人体制となりました。中尾医師は、ロボット支援下手術のプロクターの資格をもっており、2025年度より当科もロボット支援下手術を導入することとなりました。より、低侵襲およびさらに進行度の高い疾患に対しても対応していく予定です。また、常勤が2人体制となり、外来枠も月曜日午後、火曜日午前午後、木曜日午前午後が増えましたが、気胸など緊急性のある疾患は、外来日に関わらずその日に対応させていただきますので、当院医療連携室までご連絡ください。（時間帯によっては、お待たせしたりすることがあるかもしれません。）

どうぞよろしくお願いいたします。

## 診療実績

下表のごとく2022年度より手術件数は100件を超えるようになり、コロナ禍で大きく減少した2020、2021年度より回復傾向を示しました。原発性肺悪性腫瘍手術は、50件を超えており、胸腔鏡下手術の割合は95%を越えております。

### 手術件数の推移（件）

（項目）／（年度）	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
常勤医1人当たりの手術件数	48	43	12	31	124	116	112
総手術件数	97	87	12	31	124	116	112
全身麻酔手術件数	95	85	11	29	124	116	112
うち胸腔鏡下手術件数	89	80	10	27	118	112	108
全麻手術件数に対する胸腔鏡下手術の比率	92%	92%	83%	87%	95%	97%	96%

### （疾患別内訳）

原発性悪性肺腫瘍手術	39	25	4	14	62	56	45
良性肺腫瘍手術	5	3	0	1	3	4	2
転移性肺腫瘍手術	4	7	0	1	6	7	1
胸膜・胸壁腫瘍手術	0	0	0	2	1	1	0
縦隔腫瘍手術(重症筋無力症合併例含む)	5	13	0	2	12	14	15
炎症性肺疾患に対する手術	7	2	0	1	12	13	13
膿胸に対する手術	6	3	1	1	4	6	6
嚢胞性肺疾患手術	2	2	0	0	0	0	1
特発性自然気胸に対する手術	11	20	2	6	11	7	10
続発性自然気胸に対する手術	9	7	0	0	3	5	6
その他(肺・リンパ節・胸膜生検含む)	9	6	5	3	10	7	13

## 専門医療機器整備による機能

### CT（80列）

肺癌、縦隔腫瘍などの診断に**きわめて**有効な画像検査です。

### MRI（1.5テスラ）

肺癌の遠隔転移の早期発見や縦隔腫瘍の術前診断に有用な検査です。

### 気管支内視鏡装置・EBUS

気管支鏡検査は肺癌の術前診断に非常に有用な検査です。

呼吸器内科と連携して検査を行っております。

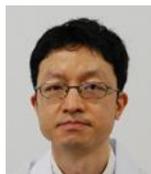
### 呼吸機能検査装置

肺癌の術前呼吸予備能力の診断に必須の検査です。

### 核医学検査（骨シンチ・肺血流シンチなど）

肺癌骨転移の診断、肺気腫に対するVolume Reduction Systemなどに有用な検査です。

## スタッフ紹介



呼吸器外科部長

中村 雄介  
(なかむら ゆうすけ)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	2001年
専門分野	肺癌、呼吸器外科、胸腔鏡手術
学会認定医 専門医	日本外科学会認定外科専門医・指導医、日本臨床外科学会評議員 呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医、日本呼吸器外科学会評議員 日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医・指導医・評議員 日本内視鏡外科学会評議員、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 肺がんCT検診認定機構肺がんCT検診認定医 臨床研修指導医講習修了、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了 難病指定医、医学博士、東海大学医学部外科学系呼吸器外科学准教授



呼吸器外科副部長

中尾 啓太  
(なかお けいた)

出身大学	東京大学
卒業年	2010年
専門分野	呼吸器外科
学会認定医 専門医	日本外科学会認定外科専門医 日本呼吸器外科学会認定呼吸器外科専門医・胸腔鏡安全技術認知医・ロボット支援手術プロクター



非常勤医師(火曜午後外来担当)

濱中 瑠利香  
(はまなか るりか)

出身大学	東海大学
卒業年	2007年
専門分野	呼吸器外科学全般、肺癌、胸腔鏡下手術、ロボット支援下手術
学会認定医 専門医	日本外科学会認定外科専門医 呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医 日本呼吸器外科学会評議員 ダヴィンチコンソールサーजन 胸腔鏡安全技術認定医 医学博士 東海大学医学部外科学系呼吸器外科学講師



非常勤医師

藤森 賢  
(ふじもり さかし)

出身大学	東海大学
卒業年度	1997年
専門分野	呼吸器外科学全般、低侵襲手術（胸腔鏡下手術・ロボット支援胸腔鏡下手術）
学会認定医 専門医	<p>日本外科学会認定外科専門医・指導医  呼吸器外科専門医合同委員会呼吸器外科専門医  日本呼吸器外科学会評議員  日本呼吸器外科学会ロボット支援手術プロクター認定医  日本呼吸器内視鏡学会認定気管支鏡専門医・指導医・評議員  日本内視鏡外科学会評議員  日本気胸・嚢胞性肺疾患学会評議員  日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医  肺がんCT検診認定機構肺がんCT検診認定医  医学博士  虎の門病院呼吸器センター外科部長</p>

# 心臓血管外科

## 【学会施設認定】

心臓血管外科専門医認定機構認定関連施設  
胸部ステントグラフト実施施設  
腹部ステントグラフト実施施設  
日本脈管学会認定研修関連施設

## 診療科の紹介

2025年4月より大森赤十字病院 心臓血管外科は診療を縮小し、外来診療のみとなりました（毎週火曜午前 担当医：渡邊）。

心臓血管外科施設の集約化が開始となり、残念ながら当院での手術継続が困難となりました。2014年の心臓血管手術開設以来、10年以上にわたり地域医療を提供してまいりましたが大変残念です。長い間、当院心臓血管外科へご協力いただいた近隣の先生方に感謝を申し上げると同時に、城南地区にお住いの方々へ大変ご不便をおかけいたします。

今後も外来診察は継続しますので病気についてや手術の必要性など手術にまつわる説明は行ってまいります。手術が必要な方につきましては日本医科大学病院武蔵小杉病院や近隣病院と連携して治療を提供させていただきます。

## スタッフ紹介



非常勤医師

渡邊 嘉之  
(わたなべ よしゆき)

出身大学	日本医科大学
卒業年	1998年
専門分野	心臓血管外科一般
学会認定医 専門医	日本外科学会認定専門医、日本医師会認定産業医、日本循環器学会認定専門医 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構心臓血管外科専門医、日本脈管学会認定専門医 腹部ステントグラフト指導医、胸部ステントグラフト実施医 日本体育協会公認スポーツドクター、臨床研修指導医講習修了、 身体障害者福祉法指定医、ACLSプロバイダー、医学博士、難病指定医 日本医科大学付属病院連携講師

# 整形外科

【学会施設認定】

日本整形外科学会専門医研修施設

## 診療科の紹介

現在当院整形外科は部長の私を含めて6名で診療に当たっています。

当科は医師会を含めた開業医の先生方との連携を基本方針にしています。クリニックでの治療と病院での役割を明確にし、外来通院で対応可能な患者様はクリニックで、入院や手術が必要な患者様は当院で対応を基本原則とし、クリニックとの役割分担を行なっています。リハビリ通院対応可能なクリニックにおいてはご紹介いただいた患者様の退院後のリハビリをお願いすることも多々あります。

私（部長）の専門は手の外科、足の外科、スポーツとなっています。特に足の外科は城南地区で対応可能な病院が少ないと思われます。お困りの症例がございましたらぜひご紹介ください。変形性足関節症、外反母趾、足関節捻挫後の陳旧性靭帯損傷など足でお困りの多くの患者様の治療の助けになることと思います。

また当院はJリーグや強豪大学サッカー部のチームドクターも務めております。プロの選手を含めたスポーツ障害、外傷に対する豊富な手術加療の経験がございます。スポーツに限らず苦手とされることの多い手足の外傷も対応可能です。大日方宛にご紹介いただければ私に対応いたしますので、手術対応が必要かどうか悩まれる症例がございましたらぜひご紹介ください。

当院は麻酔科や手術室の受け入れが柔軟なため、骨折手術は早期の手術加療の対応が可能です。そのため多くの外傷治療の実績がございます。特に小児の外傷は小児の入院施設が整っている病院が少ないため大田区では当院に集中して紹介されている状況です。

私以外にもは脊椎、骨軟部腫瘍、人工股関節を専門とした医師がおります。悪性腫瘍、小児変性疾患は対応しておりません。術後の成績も良く、整形外科専門病棟のスタッフも親身に対応しております。紹介元に感謝の意を伝えてくださる患者様も沢山いらっしゃいます。

整形外科手術が必要かなと思われましたら当科を選択の一つに入れていただけますと幸いです。何卒よろしく願いいたします。



## スタッフ紹介



整形外科部長

大日方 嘉行  
(おおひかた よしゆき)

出身大学	東邦大学
卒業年	1997年
専門分野	整形外科一般(手の外科、スポーツ整形外科)
学会認定医 専門医	日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医 日本整形外科学会認定リウマチ医、日本骨粗鬆症学会認定医・専門医、 臨床研修指導医講習終了、日本体育協会公認スポーツドクター、難病指定医 身体障害者福祉法指定医



整形外科部長

飯田 泰明  
(いいだ やすあき)

出身大学	東邦大学
卒業年	1998年
専門分野	整形外科、脊椎脊髄外科
学会認定医 専門医	医学博士、日本整形外科学会認定整形外科専門医、日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医、日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科専門医・指導医、ICD（インフェクションコントロールドクター）、身体障害者福祉法指定医、難病指定医、臨床研修指導医講習修了



整形外科医師

松岡 修平  
(まつおか しゅうへい)

出身大学	秋田大学
卒業年	2018年
専門分野	整形外科一般
学会認定医 専門医	日本整形外科学会認定整形外科専門医



整形外科医師

奥山 興希  
(おくやま こうき)

出身大学	埼玉医科大学
卒業年	2018年
専門分野	整形外科一般、外傷
学会認定医 専門医	日本整形外科学会認定整形外科専門医



整形外科医師

江里 彰大  
(えり あきひろ)

出身大学	東京医科大学
卒業年	2018年
専門分野	整形外科一般、外傷
学会認定医 専門医	日本整形外科学会認定整形外科専門医



整形外科医師（専攻医）

榎田 智史  
(まきた さとし)

出身大学	北里大学
卒業年	2022年
専門分野	整形外科一般

# 脳神経外科

## 【学会施設認定】

日本脳卒中学会認定研修教育施設  
東京都脳卒中急性期医療機関認定施設  
日本脳神経外科学会関連施設

## 診療科の紹介

脳神経外科では中枢神経系（脳、脊髄）に及んだ病気に対して診断、治療を行います。救急で扱うことのできる疾患である脳血管障害や頭部外傷などの診療は日本赤十字社の看板を背負っている大森赤十字病院の使命として取り組みます。2011年より導入した遠隔画像支援システムにより救急患者の診療、特に脳卒中治療がより迅速に行われるようになりました。また、診断機器においては2017年9月に導入されたbiplane DSA血管撮影装置をはじめ、MRI（1.5T 2台）、64列CT（perfusion CT）、脳血流検査（SPECT）などを用いて患者さんが納得できるような症状の分析、診断、適切な治療を行います。脳血管障害に関しては2007年に日本脳卒中学会認定研修教育病院になり、2009年には東京都脳卒中急性期医療機関に認定されております。さらに2019年より1次脳卒中センター（PSC）に認定され、脳神経外科、神経内科の医師が、ほぼ毎日24時間体制で救急患者に対応しております。脳梗塞治療においては発症後4.5時間以内に搬送された患者に対しては積極的にt-PA治療を行っており、発症4.5時間を越えた症例についても機械的血栓回収術が必要な場合、積極的に施行できる診療体制を整え、2025年度より東京都が認定する血栓回収施行可能施設として届け出ております。

クモ膜下出血の原因の多くを占める脳動脈瘤については開頭クリッピング術とコイル塞栓術を選択して行います。

未破裂脳動脈瘤の治療はコイル塞栓術を第一選択として行います。最近は大動脈瘤に対してはフローダイバーター（FD）を使った治療も施行しております。また、高血圧性脳内出血については内視鏡的血腫除去も施行しております。脊椎脊髄疾患に関しては頭蓋頸椎移行部から腰仙椎までの変性疾患、腫瘍性病変、脊椎外傷などほとんどの脊椎疾患に対応可能です。最近整形外科と連携し圧迫骨折に対する椎体形成術も施行しております。また、脊髄空洞症に関しては数々の経験を持つ医師が常駐しております。

一方、頭部外傷については外傷性頭蓋内出血に対しては開頭血腫除去を行っております。重症頭部外傷に対してはICPセンサーを挿入し、頭蓋内圧コントロールができる体制を整えております。また外傷後、暫らくして発症する高齢者に多い慢性硬膜下血腫については穿頭血腫ドレナージ術を行っております。脳腫瘍については主に良性腫瘍の治療を行います。下垂体腫瘍に関しては内視鏡を用いた経鼻的摘出を行います。悪性脳腫瘍に関しては原則として集学的治療が可能な大学病院を紹介しております。

神経疾患ではリハビリテーションが重要です。当院の特徴として充実したリハビリスタッフが挙げられます。週1回のリハビリカンファレンスを開催し個々の患者の早期回復に努め、さらに医療連携の充実を図り効率的な急性期治療を目指しております。

## 診療実績

	手術件数	脳腫瘍	脳血管障害			頭部外傷	脊椎脊髄	その他		
			開頭	血管内	その他			水頭症・シャント	機能外科	その他
2021年度	164	11	16	82	4	33	9	3	0	6
2022年度	183	10	16	84	6	40	10	7	0	10
2023年度	156	7	18	80	6	28	8	2	0	7
2024年度	183	2	19	93	1	49	4	4	0	11

## スタッフ紹介



脳神経外科部長

磯島 晃  
(いそしま あきら)

出身大学	東京慈恵会医科大学
卒業年	1991年
専門分野	脊椎脊髄疾患・脊髄空洞症
学会認定医 専門医	日本脳神経外科学会認定専門医、臨床研修指導医講習修了、t-PA指定医 日本脊髄外科学会認定専門医、身体障害者福祉法指定医、難病指定医、医学博士



脳神経外科副部長（兼）救急科部長

荒川 秀樹  
(あらかわ ひでき)

出身大学	東京慈恵会医科大学
卒業年	1996年
専門分野	脳血管障害（脳血管内治療）
学会認定医 専門医	日本脳神経外科学会認定専門医、日本脳神経血管内治療学会認定専門医・指導医 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医、日本医師会認定健康スポーツ医、医学博士 臨床研修指導医講習修了、t-PA指定医



脳神経外科医師

柳澤 毅  
(やなぎさわ たけし)

出身大学	東京慈恵会医科大学
卒業年	2007年
専門分野	脳動脈瘤、くも膜下出血、脳梗塞、脳出血、頸動脈狭窄症など 脳卒中・脳血管障害に対する開頭手術およびカテーテル手術
学会認定医 専門医	日本脳神経外科学会認定専門医、臨床研修指導医講習修了 日本脳神経血管内治療学会認定専門医



脳神経外科医師

本間 彩加  
(ほんま あやか)

出身大学	東京慈恵会医科大学
卒業年	2015年
専門分野	脳神経外科一般
学会認定医 専門医	日本脳神経外科学会認定専門医 日本脳神経血管内治療学会認定専門医 JATECプロバイダー

## スタッフ紹介



脳神経外科医師（専攻医）

中前 敦介  
(なかまえ たいすけ)

出身大学	東京慈恵会医科大学
卒業年	2021年
専門分野	脳神経外科



脳神経外科医師（専攻医）

持丸 りほ  
(もちまる りほ)

出身大学	ハンガリー国立ペーチ大学
卒業年	2022年
専門分野	脳神経外科

# 麻酔科

【学会施設認定】  
日本麻酔科学会認定施設

## 診療科の紹介

当院で行なう手術のうち局所浸潤麻酔で行なう手術以外のほとんどの手術において、麻酔科が麻酔及び手術時の全身管理を担当します。手術中の安全に十分配慮しつつ、各科の手術の特徴を活かせる麻酔を提供しています。術中管理の他、手術の前の相談・評価・麻酔の説明、手術の後の鎮痛まで、皆様が安心して手術を受けられるようサポートしています。

特に最近では、術中・術後痛対策に力を入れており、末梢神経ブロックを併用したマルチモーダル鎮痛法、持続硬膜外鎮痛装置や自己管理型経静脈の持続鎮痛装置などを使用している術後鎮痛などと、痛みをできるだけ感じない周術期の実現に向けた取組を行っています。

現手術室には患者監視装置連動部門システムが導入され、麻酔記録の自動化をはじめ、監視装置の更新による監視項目の増加、安全性の向上、業務の効率化が図られています。

手術室以外でも、放射線部血管撮影室での麻酔、内視鏡室での鎮静、分娩室での無痛分娩などを行っています。

ペインクリニックにおいては、入院・外来診療とともに、星状神経節ブロック注射や硬膜外ブロック注射・スーパーライザー照射・鎮痛剤などの内服治療など、様々な手段を用いて痛みの軽減を目指しています。

当院には2025年4月現在、常勤麻酔科医が7名います（3名は嘱託）。多くが麻酔を専門として東京医科歯科大学でトレーニングを受けた麻酔管理専任の医師であり、全員が麻酔専門医です。彼ら（彼女ら）とともに、麻酔管理、ペインクリニックの他にも、ICUにおける患者管理や院内救急への対応など活動の領域を拡げてゆきたいと考えています。

## 診療実績（2024年度）

総手術件数：2,635件

麻酔科管理全症例数：1,866件

全身麻酔症例数：1,743件

麻酔科外来患者数：年間約500人（毎週木曜日午前中のみ診療）

## 専門医療機器

全身麻酔装置（ドレーゲル ファビウス、アトラン）

患者監視装置（フィリップス BSM6701、MX750）

動脈圧心拍出量測定装置（LiDCO）

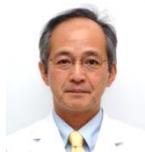
ビデオ喉頭鏡（エアウエイスコープ、マックグラス）

挿管用ファイバースコープ（C-MAC）

近赤外線照射装置（スーパーライザー）

超音波画像診断装置（フジフィルムメディカル、ソノサイトPX）

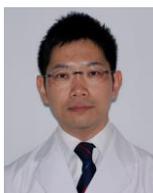
## スタッフ紹介



麻酔科部長

市川 敬太  
(いちかわ けいた)

出身大学	東北大学 (東京医科歯科大学医局)
卒業年	1985年
専門分野	麻酔蘇生学、集中治療医学、手術医学
学会認定医 専門医	麻酔科標榜医、日本麻酔科学会認定指導医、日本専門医機構麻酔領域専門医 臨床研修指導医講習修了、がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了 プログラム責任者養成講習会修了 JALACategoria受講終了、JALACategoryB受講終了



麻酔科副部長

大戸 浩峰  
(おおと ひろたか)

出身大学	東京医科歯科大学
卒業年	1998年
専門分野	麻酔蘇生学、集中治療医学
学会認定医 専門医	麻酔科標榜医、日本麻酔科学会認定指導医、日本専門医機構麻酔領域専門医 臨床研修指導医講習修了



麻酔科副部長

渡邊 翔  
(わたなべ しょう)

出身大学	東京医科歯科大学
卒業年	2015年
専門分野	臨床麻酔
学会認定医 専門医	麻酔科標榜医 日本専門医機構麻酔領域専門医 日本麻酔科学会認定医 臨床研修指導医講習修了 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



麻酔科医師

深川 亜梨沙  
(ふかがわ ありさ)

出身大学	愛媛大学
卒業年	2008年
専門分野	麻酔蘇生学
学会認定医 専門医	麻酔科標榜医、日本専門医機構麻酔領域専門医 日本麻酔科学会認定指導医



麻酔科医師

田中 志歩  
(たなか しほ)

出身大学	順天堂大学（東京医科歯科大学医局）
卒業年	2015年
専門分野	臨床麻酔
学会認定医 専門医	麻酔科標榜医、日本専門医機構麻酔領域専門医、 日本麻酔科学会認定医、臨床研修指導医講習修了



麻酔科医師

萩原 早希  
(はぎわら さき)

出身大学	東京医科歯科大学（現・東京科学大学）
卒業年	2015年
専門分野	臨床麻酔
学会認定医 専門医	麻酔科領域専門医 麻酔科標榜医



非常勤医師

本村 瑞貴  
(もとむら みずき)

出身大学	群馬大学
卒業年	2015年
専門分野	臨床麻酔
学会認定医 専門医	麻酔科標榜医、 日本専門医機構麻酔領域専門医、 日本麻酔科学会認定医、 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、 日本医師会認定産業医



麻酔科医師（専攻医）

西田 昂永  
(にしだ こうえい)

出身大学	東京大学
卒業年	2019年
専門分野	臨床麻酔
学会認定医 専門医	麻酔科標榜医

# 精神科

## 診療科の紹介

当院には、精神科医が常駐しておらず、基本的には当院に通院・入院の患者さんで精神医学的な対応が必要な方々への診療（リエゾンコンサルテーション）を第一の役割と考えております。

対象疾患は身体疾患に関連した諸精神症状・心理的問題をはじめ、脳疾患による精神障害・統合失調症・感情障害などの一般的な精神疾患ですが、パーソナリティ障害・神経発達症・薬物依存などは他の医療機関にお任せしています。

## スタッフ紹介 ※完全予約制



非常勤医師

柴山 雅俊  
(しばやま まさとし)

出身大学	東京大学
卒業年	1980年
専門分野	精神医学、精神病理学
学会認定医 専門医	精神保健指定医、医学博士
略歴	(元)東京女子大学現代教養学部 心理・コミュニケーション学科 心理学専攻教授



非常勤医師

諏訪 浩  
(すわ ひろし)

出身大学	獨協医科大学
卒業年	1985年
専門分野	リエゾンコンサルテーション 器質性精神障害
学会認定医 専門医	日本精神神経学会指導医 日本総合病院精神医学会指導医 日本老年精神医学会指導医 精神保健指定医、医学博士
略歴	東京共済病院 緩和ケア内科部長

# 小児科

【学会施設認定】

小児科専門医研修連携施設

## 診療科の紹介

地域で開業されている先生方や近隣病院の先生方と共に連携を深めながら診療を行っております。ですが、現在小児科常勤医が1名となっております。そのような現状でも地域の需要に応え続けるべく努力しています。

前年に引き続き、日本大学小児科より小児内分泌が専門である鈴木潤一先生をお招きし、外来診療を木曜日に行っております。

外来診療は、一般の外来診療に加え専門外来として、木曜日に内分泌の専門外来（低身長症、夜尿症、甲状腺疾患、糖尿病など）を行っております。

また、火曜日午後に予約制で予防接種を行っています。{ヒブ、肺炎球菌、ロタウイルス、5種混合、B型肝炎、MR、日本脳炎、水痘、おたふく、シナジス(個別対応)、インフルエンザ(11月下旬から)}

入院診療は当院出生の新生児のみとしています。現在、小児科専用病床は廃止され、プレイルームやデイルームもありません。ですが、可能な限り当科で診させていただきます。諸先生方やご家族のご希望に添えない場合もありますが、今後よろしく願い申し上げます。

ご紹介いただいた患児は、患者様のご希望に合わせ、かかりつけの先生へ経過のご報告と継続治療等のご依頼を随時行っております。

また、小児科外来に授乳室やプレイルームを設置し、お子様が待ち時間を少しでも快適に過ごせるように努めています。

## スタッフ紹介



小児科部長

大沼 健一  
(おおぬま けんいち)

出身大学	旭川医科大学
卒業年	2003年
専門分野	小児科一般
学会認定医 専門医	日本小児科学会認定小児科専門医、臨床研修指導医講習修了 難病指定医、小児慢性特定疾病指定医、出生前コンサルト小児科医



非常勤医師

鈴木 潤一  
(すずき じゅんいち)

出身大学	日本大学
卒業年	2002年
専門分野	小児内分泌学、小児糖尿病学
学会認定医 専門医	日本小児科学会認定小児科専門医・指導医 臨床研修指導医講習修了 日本糖尿病学会認定専門医・指導医

# 皮膚科

【学会施設認定】  
日本皮膚科学会認定専門医研修施設

## 診療科の紹介

引き続き勤務しております日比野のぞみと申します。

昨年度は常勤医2名から1名となり、今年度2名に戻っても問題ないように外来診療、入院、検査、手術、病棟他科の患者様を診てきましたが、本年度も常勤1名のままのスタートとなっています。できるだけ今まで通りの診療を継続したいと考えてはおりますが、マンパワーが欠ける分、近隣の先生達と協力しながら診療していきたいです。

当科では、皮膚科全般、湿疹、水虫、いぼ、やけど、にきびなどの身近な疾患から、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、食物アレルギー、金属アレルギーなどのアレルギー疾患、その原因検索、蜂か織炎、帯状疱疹などの皮膚感染症、薬疹、水疱症、尋常性乾癬、膠原病の皮膚症状、血行障害などによる皮膚症状など少しめづらしい皮膚疾患、母斑、粉瘤、脂肪腫などの良性皮膚腫瘍の診断、切除手術、ポーン病、基底細胞癌などの皮膚悪性腫瘍の診断、切除手術など幅広く治療を行ってきました。今年度からは、形成外科の先生が常勤で配属されましたの

で、協力しながら色々な治療をしていきたいと思えます。また、アトピー性皮膚炎、尋常性乾癬の患者様に対し、免疫抑制剤などの内服加療、相談によっては、生物学的製剤を使用した治療もできるようになっています。

自費診療になりますが美容としてビタミンCローション、ハイドロキノンなどの取り扱いもしています。興味のある方は遠慮なくご相談下さい。

午前中の一般診療の他に、午後は予約外来・検査・皮膚生検、糖尿病性下腿潰瘍、閉塞性動脈硬化症などの潰瘍、やけどなど時間のかかる傷の処置、その他小手術など予約制で行っております。現時点で紫外線療法、レーザーなどは設備がないため取り扱っておりません。

皮膚は「全身の鏡」といわれますが、皮膚疾患は原因がなかなかわからないことも多く、経過をみながら必要な検査を行っていき、やっと診断が確定することも少なくありません。まずはお気軽にご相談ください

## スタッフ紹介



皮膚科部長

日比野 のぞみ  
(ひびの のぞみ)

卒業年	2003年
専門分野	皮膚科全般
学会認定医 専門医	日本皮膚科学会認定皮膚科専門医、臨床研修指導医講習修了 難病指定医

# 泌尿器科

【学会施設認定】  
日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設

## 診療科の紹介

2024年4月よりロボット支援下腹腔鏡下前立腺全摘術を開始いたしました。3Dモニターによる立体視と多関節鉗子を活用し、より精緻な手術を行えるようになりました。これまでの開腹術に比べ出血量の軽減、術後尿禁制の改善、入院期間の短縮を認め、患者様により低侵襲で安全な質の高い前立腺癌治療が可能となりました。

前立腺肥大症に対する低侵襲手術（前立腺水蒸気治療）も2023年導入より着実に件数を増やしており、抗凝固薬服用中のハイリスク患者や認知症で術期管理の困難な症例に対しても、排尿困難の改善に寄与しております。

今後は女性性器脱に対するロボット手術（仙骨腔固定）の導入も検討しております。

尿路結石症、尿路感染症、尿失禁等、主として高齢者の泌尿器疾患を中心とした診療もこれまで通り継続しております。ご紹介いただきます先生方には、今後ともよろしく願い申し上げます。

## 診療実績

主な手術内容（2024年）

項目	症例数
前立腺全摘（ロボット支援下）	15例
腎・腎盂尿管悪性腫瘍手術	9例
膀胱悪性腫瘍手術（TUR-BT）	59例
前立腺肥大症手術（TUR-P）	10例
経尿道的尿管碎石術（TUL）	26例
女性尿失禁・骨盤性器脱手術	5例
前立腺生検	64例
経尿道的水蒸気治療	13例

## 専門医療機器

超音波診断装置      軟性膀胱鏡      泌尿器科検診台      軟性尿管腎盂鏡  
手術支援ロボット「da Vinci Xi」

## スタッフ紹介



泌尿器科部長

大塚 幸宏  
(おおつか ゆきひろ)

出身大学	東京医科歯科大学
卒業年	1994年
専門分野	泌尿器科一般、泌尿器科悪性腫瘍
学会認定医 専門医	医学博士、日本泌尿器科学会認定専門医・指導医 身体障害者福祉法指定医、日本がん治療認定医 臨床研修指導医講習修了、東京医科歯科大学医学部臨床教授 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



泌尿器科部長

浅野 桐子  
(あさの とうこ)

出身大学	東京医科歯科大学
卒業年	1999年
専門分野	泌尿器科一般、再生医療、female urology
学会認定医 専門医	医学博士、日本泌尿器科学会認定専門医・指導医 身体障害者福祉法指定医、東京医科歯科大学医学部臨床准教授 難病指定医、ロボット支援下手術資格（ダ・ヴィンチ） がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

# 産婦人科

## 【学会施設認定】

日本産科婦人科学会専門研修連携施設  
日本超音波医学会超音波専門医研修基幹施設  
東京都医師会母体保護法研修指定医療機関

## 診療科の紹介

産婦人科は常勤医6名と非常勤医2名で外来診療、分娩、手術に対応しております。外来診療は妊婦健診、出生前診断の周産期診療と一般婦人科診療を行っております。周産期診療では2024年より出生前検査認証制度等運営委員会に認証された医療機関としてNIPTを開始し、専門的な遺伝学的検査を行っております。また超音波専門医による胎児精密超音波検査も施行し妊娠初期からの胎児先天疾患の診断も行っております。分娩に関しましては麻酔

科医の指導のもと無痛分娩に積極的に行い、初産婦経産婦に関わらず可能な限りの24時間無痛を目指しております。昨年度は希望者の約97%に無痛分娩を行いました。婦人科手術は昨年度は168件施行し、そのうち鏡視下手術は98件でした。今年度は内視鏡手術が強化される予定で、より幅広い対応ができるようになります。

## 診療実績2024年度

### 分娩

総分娩数	393件
帝王切開	93件
無痛分娩	133件

### 鏡視下手術件数

腹腔鏡下手術	94件
子宮全摘術	48件
膣上部切断術	2件
子宮筋腫核出術	5件
付属器摘出術	14件
付属器腫瘍摘出術	18件
異所性妊娠手術	5件
その他	2件
子宮鏡下手術	4件
内膜ポリープ摘出手術	4件

### 婦人科開腹手術件数（腹腔鏡以外）

開腹手術	28件
子宮全摘出術	11件
膣上部切断術	2件
子宮筋腫核手術	4件
付属器摘出術	2件
付属器腫瘍摘出術	1件
子宮外妊娠手術	6件
その他	2件
腔式手術	42件
子宮内容除去術	28件
子宮頸部円錐切除術	3件
腔式子宮全摘術	3件
バルトリン腺嚢胞摘出術	2件
その他	6件

### 遺伝学的出生前診断（2024/07～2025/03）

NIPT	62件
組み合わせ検査	13件
クアトロテスト	2件
羊水染色体検査	6件

## スタッフ紹介



産科部長

堀越 嗣博  
(ほりこし つぐひろ)

出身大学	山梨医科大学
卒業年	1996年
専門分野	周産期医学、超音波診断、遺伝学
学会認定医 専門医	日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医、日本超音波医学会超音波専門医・指導医 日本人類遺伝学会臨床遺伝専門医、臨床研修指導医講習修了 新生児蘇生法専門コース（Aコース）、母体保護法指定医、医学博士



婦人科部長

田岡 英樹  
(たおか ひでき)

出身大学	東邦大学
卒業年	1994年
専門分野	産婦人科一般、婦人科内視鏡手術
学会認定医 専門医	日本産科婦人科学会認定専門医・指導医 日本産科婦人科内視鏡学会腹腔鏡の技術認定医 臨床研修指導医講習修了、新生児蘇生法専門コース（Aコース）、医学博士



産婦人科副部長

斎藤 一  
(さいとう はじめ)

出身大学	東邦大学
卒業年	1996年
専門分野	産婦人科一般、胎児超音波検査
学会認定医 専門医	日本産科婦人科学会認定専門医、母体保護法指定医 臨床研修指導医講習修了



産婦人科副部長

平岡 毅大  
(ひらおか たけひろ)

出身大学	東京大学
卒業年	2010年
専門分野	産婦人科全般、生殖医療、腹腔鏡手術
学会認定医 専門医	日本産科婦人科学会認定専門医



産婦人科医師（専攻医）

星 千尋  
（ほし ちひろ）

出身大学	東京女子医科大学
卒業年	2021年
専門分野	産婦人科
学会認定医 専門医	新生児蘇生法専門コース（Aコース） がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了



産婦人科医師（専攻医）

柴田 華  
（しばた はな）

出身大学	信州大学
卒業年	2023年
専門分野	産婦人科



非常勤医師

渡邊 衣里  
（わたなべ いさと）

出身大学	東邦大学
卒業年	1998年
学会認定医 専門医	日本産科婦人科学会認定専門医 新生児蘇生法専門コース（Aコース）



非常勤医師

内出 一郎  
（うちいで いちろう）

出身大学	東邦大学
卒業年	1996年
学会認定医 専門医	日本産科婦人科学会認定専門医 日本産科婦人科内視鏡学会認定技術認定医・評議員 日本内視鏡外科学会認定技術認知医・評議員



非常勤医師

北村 衛  
（きたむら まもる）

出身大学	東邦大学
卒業年	2002年
学会認定医 専門医	日本産科婦人科学会認定専門医

# 眼科

【学会施設認定】  
日本眼科学会専門医制度研修施設

## 診療科の紹介

当院眼科は、白内障、緑内障、糖尿病や高血圧に伴う眼合併症、外眼部疾患、屈折異常、などに対応しています。手術症例は、東邦大学大森病院と連携し、手術の必要な症例のうち、当院では白内障手術を中心に行っております。

各科との連携を仰ぎながら、全身疾患のある高齢者にも安心して手術を受けていただけます。外来は2名の常勤医師、3名の非常勤医師が担当し、検査は視能訓練士を中心に行います。一般外来は平日午前中と、火・木午後（非常勤医師が担当）に随時受付けております。

月・水・金午後は特殊検査（視野検査、術前検査、超音波検査、網膜光凝固術など）を中心に行い、水曜午後は特殊外来（斜視弱視外来）を設け、屈折異常、斜視、弱視、先天性鼻涙管閉塞症など小児を中心に対応しています。

なお、眼鏡処方には十分な時間をかけるために予約制で行っております。また、コンタクトレンズ処方はありません。

## 診療実績2024年度

内容	件数
手術件数 （白内障） （眼瞼皮膚弛緩症・翼状片・霰粒腫 ほか）	477件 (444件) (33件)
眼注射件数 （硝子体注射・ステロイドテノン嚢下注射）	64件

## 専門医療機器

超音波白内障手術機器	レーザー光凝固装置	蛍光眼底撮影機器	ハンフリー視野計
ゴールドマン視野計	超音波A・Bモード	大型弱視鏡	Hessチャート
角膜内皮測定装置	光断層干渉計	光学式眼軸長測定装置	



## スタッフ紹介



眼科部長

毛塚 由紀子  
(けづか ゆきこ)

出身大学	東邦大学
卒業年	2009年
専門分野	眼科一般
学会認定医 専門医	日本眼科学会認定専門医、PDT認定医、臨床研修指導医講習修了 身体障害者福祉法指定医（視覚障害）、難病指定医



眼科医師

伏屋 一樹  
(ふせや かずき)

出身大学	聖マリアンナ医科大学
卒業年	2018年
専門分野	眼科一般
学会認定医 専門医	日本眼科学会認定専門医



眼科医師（専攻医）

有馬 文博  
(ありま たけひろ)

出身大学	名古屋大学
卒業年	2022年
専門分野	眼科一般

# 耳鼻咽喉科

## 診療科の紹介

本年度から勤務医師が交代となり、常勤医1名、非常勤医2名で外来診療および手術治療を行っています。

対応している主な症状としては鼻漏、鼻づまり、嗅覚障害、眼、鼻周辺の疼痛、頭重感、後鼻漏、鼻出血、咽頭痛、嚔声、嚥下困難、発声困難、呼吸苦、頸部のしこりや疼痛、などです。

「いびき無呼吸」（睡眠時無呼吸症候群）については、鼻呼吸障害や扁桃肥大によるものなど手術により改善が期待できるのを中心に診療対象として成果を上げています。小児の心身の発達、生活習慣病の予防など小児から中高年まで正しく評価して正しく治療したいと考えています。

補聴器外来も隔週で週2回程度、当科外来で行っています。本来、耳鼻咽喉科医の診療、助言のもとに正確な補聴器選びをするべきあります。検査を十分行わず安易な補聴器選びをすると結局使われなくなり、引き出しにしまわれてしまうことになります。補聴器は高価なもので、認知機能にも影響するといわれていますので、きちんと選んできちんと使われるべきでしょう。

手術は、鼻炎や副鼻腔炎など炎症性鼻科疾患を中心に毎週月曜（午前、午後）に行っています。周りの医療機関のご理解とご協力を得て、紹介件数、手術予約件数ともに急速に伸びています。

## 専門医療機器

耳鼻科診察ユニット、聴力検査装置、鼻陰腔・咽喉頭ファイバー、赤外線眼振画像TV装置

## スタッフ紹介



耳鼻咽喉科部長

松根 彰志  
(まつね しょうじ)

出身大学	鹿児島大学
卒業年	1984年
専門分野	副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、いびき・無呼吸
学会認定医 専門医	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定専門医・指導医 日本アレルギー学会認定専門医・指導医、日本気管食道科学会認定専門医



耳鼻咽喉科副部長

近藤 律男  
(こんどう のりお)

出身大学	福井大学
卒業年	1999年
専門分野	耳鼻咽喉科、頭頸部外科
学会認定医 専門医	日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定専門医、日本頭頸部外科学会認定頭頸部がん専門医 日本気管食道科学会認定専門医、がん治療認定医

# リハビリテーション科 リハビリテーション課

## 業務紹介

リハビリテーション課は、脳血管、運動器、呼吸器、循環器やがんなど多岐にわたる疾患と障害を対象とし、疾患特性に応じたリハビリテーションと同時に、高齢者を容易に寝たきりに陥らせてしまう廃用症候群の予防に、多職種によるチームで取り組んでいます。必要以上の安静による、寝たきり・寝かせきりをなくすために、安心安全なリスク管理のもと、早期リハ・早期離床を行い、早期の寝食清潔排泄分離につなげ、機能・能力の回復のみならず、その人らしい生活の第一歩を援助し地域へつなげていきたいと考えています。

入院されているリハビリテーション実施患者に365日体制でのリハビリテーションの提供を目指しています。

2012年度より医療法人社団輝生会（初台リハビリテーション病院・船橋市立リハビリテーション病院）との人事交流を行い、発症直後からリハビリテーションサービスをより多面的、総合的に対応できる急性期リハビリテーションに取り組んでいます。

## 理学療法

身体機能回復へのアプローチを基本に、リハビリテーション室に留まることなく、病棟を含めた院内・外の必要なあらゆる場所で、発症早期から積極的に離床を促し、基本動作・移動動作を中心に介入します。

## 作業療法

主体的な生活の獲得を図るために、諸機能（筋力、関節可動域、麻痺など）の改善・回復を促し、食事やトイレなどのADL（日常生活活動）訓練や生活に便利な福祉用具の選定の援助を行います。また、生きがい、やりがい作りに即した意味のある作業活動も行います。

## 言語聴覚療法

失語症、構音障害、高次脳機能障害によるコミュニケーション障害全般や、摂食嚥下障害に対する機能回復を目指し、人とのコミュニケーションの楽しさや食べる喜びを再び取り戻せるよう関わっていきます。

## スタッフ数・認定資格取得数等（2025年4月現在）

スタッフ数

職種	人数
理学療法士	21名
作業療法士	7名
言語聴覚士	7名

各種資格・認定一覧

認定	人数
3学会合同呼吸療法認定士	4名
心臓リハビリテーション指導士	2名
呼吸ケア指導士	1名
日本糖尿病療養指導士	1名
認定理学療法士(循環)	1名
認定理学療法士(呼吸)	1名
認定理学療法士(代謝)	1名
認定理学療法士(脳卒中)	3名
医療安全管理者	1名
地域包括ケア推進リーダー	1名
介護支援専門員	2名
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	2名
心不全療養指導士	5名
転倒予防指導士	1名
認知症ケア専門士	1名
ACLSプロバイダー	1名
訪問リハビリテーション管理者養成研修終了	1名
福祉用具プランナー	3名
福祉用具選定士	1名

## スタッフ紹介



副院長 兼 リハビリテーション科部長

竹内 壮介  
(たけうち そうすけ)

出身大学	東京大学
卒業年	1992年
専門分野	リハビリテーション医学、脳卒中、神経筋疾患
学会認定医 専門医	日本内科学会認定総合内科専門医、日本神経学会認定神経内科専門医・指導医 医学博士、臨床研修指導医講習修了、難病指定医

# 放射線科

## 【学会施設認定】

日本医学放射線学会専門医修練機関  
日本乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設・画像認定施設  
日本医学放射線学会画像診断管理認定施設 「MRI安全管理に関する事項」

## 診療科の紹介

放射線科では、画像診断機器をつかって行われた検査の診断をしています。放射線治療はおこなっていません。

撮影された写真をみて、異常を見つけ出し、解釈し、考えられる病名、状況を各科主治医に報告するということをしています。

近隣の医院や病院からの検査依頼もお受けしています。

### ■当科の特色

常勤放射線科医師が読影しています。

5名の常勤放射線科医が勤務しています。うち4名が診断専門医です。他に2名の非常勤医の応援もあります。

### ■即日レポート配信しています

原則的に検査の行われた当日に高精細モニターで診断のうえ、レポート（結果）を電子カルテ上に配信しています。検査依頼の医院には希望により、電子的にあるいは紙に印刷してお渡ししています。

### ■フィルムレスシステムです

撮影されたデータはフィルムにされずにそのままPACSという画像処理システムで管理保存されます。過去画像との対比が行いやすくなりました。より確かな診断につながります。検査依頼の医院向けには、CD-R、カルナ®（Web）で報告しています。

### ■女性技師がいます

乳房の検査等では、乳腺X線撮影、MRIなどの際、女性技師の対応が可能です。

### ■今後の医療連携

MRI2台、CT2台で検査をしています。予約でお待たせしません。即日検査も可能です。超音波検査も随時おこなっています。

検査予約がインターネット経由でパソコン上で完了する、カルナというサービスを行っています。結果画像もパソコン上で確認可能です。

## 主な検査件数（件）

検査名	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
CT	20,281	18,128	18,186	18,967	19,023
MRI	6,824	7,038	7,486	7,608	7,591

## 専門医療機器

### マルチスライスCT（64列・80列）

心臓画像撮影も可能です。

### MRI（1.5テスラ）

2台のMRIが稼働しています。

### X線TV撮影装置

透視撮影に加え、整形外科や耳鼻科領域の断層撮影や長尺撮影が可能となり、放射線画像診断が充実します。

### 核医学検査装置（ガンマカメラ）

認知症に関する検査をはじめ、心臓や脳の精度の高い診断の補助が可能となります。

### 心臓血管撮影装置

### 一般撮影装置

### 乳房撮影装置

### 骨塩測定装置

### 医用画像診断システム（PACS）

## スタッフ紹介



放射線科部長

山崎 悦夫  
(やまざき えつお)

出身大学	秋田大学（東京医科歯科大学医局）
卒業年	1986年
専門分野	放射線診断学一般
学会認定医 専門医	日本医学放射線学会認定放射線診断専門医・研修指導医 臨床研修指導医講習修了、難病指定医、東京医科歯科大学医学部臨床教授、医学博士



放射線科副部長

片山 貴  
(かたやま たかし)

出身大学	東京医科歯科大学
卒業年	2005年
専門分野	画像診断
学会認定医 専門医	日本医学放射線学会認定放射線診断専門医・研修指導医 臨床研修指導医講習修了、検診マンモグラフィ読影認定医（評価AS） 難病指定医、東京医科歯科大学医学部臨床准教授、医学博士



放射線科医師

木之田 葵  
(きのだ あおい)

出身大学	川崎医科大学
卒業年	2013年
専門分野	画像診断
学会認定医 専門医	日本医学放射線学会認定放射線科専門医・放射線診断専門医、 検診マンモグラフィ読影認定医



放射線科医師

宮地 樹里  
(みやじ じゅり)

出身大学	東京医科大学
卒業年	2014年
専門分野	画像診断
学会認定医 専門医	日本医学放射線学会認定放射線科専門医、放射線診断専門医



放射線科医師（専攻医）

木村 詩織  
(きむら しおり)

出身大学	滋賀医科大学
卒業年	2023年
専門分野	画像診断

その他非常勤医師 2 名

# 救急科

## 診療科の特色

積極的な救急車の受け入れ、ならびに地域医療機関などからの要請に応え、初期対応を行うとともに、早期からの専門科医師の介入により、急性疾患ならびに慢性疾患の急性増悪に対して、適切な治療を遅滞なく行える体制を敷いております。

急性冠疾患や脳卒中などの、緊急治療を要する疾患に対しても、24時間365日スムーズな検査や治療が行えるよう、院内のシステムを構築しており、日々スタッフも研鑽を積んでおります。

本年度より、院内救急救命士が2名新たにスタッフに加わり、コメディカルと協働して業務にあたっております。これにより、適切なトリアージを充実させ、より多くの救急患者様をお待たせすることなく診療できる環境が整いつつあります。

## 診療内容

救急診療の知識をもとに、俯瞰的に患者の状態を判断し、必要な検査をタイムリーに行い、診断につなげ、早期の治療介入を行なっています。入院が必要となった場合や、当初から専門科の介入を要する疾患に対しては、積極的にサポートを行い、外来から病棟へのシームレスな診療を心がけています。

## 今後について

より幅広い疾患に対応できるよう、チームとしてのスキルアップを図っていき、より多くの患者様の受け入れを目指し、地域の救急医療に貢献していきます。

## スタッフ紹介



救急科部長（兼）脳神経外科副部長

荒川 秀樹  
(あらかわ ひでき)

出身大学	東京慈恵会医科大学
卒業年	1996年
専門分野	脳血管障害（脳血管内治療）
学会認定医 専門医	日本脳神経外科学会認定専門医、日本脳神経血管内治療学会認定専門医・指導医 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医、日本医師会認定健康スポーツ医、医学博士 臨床研修指導医講習修了、t-PA指定医、ACLSプロバイダー



救急科 救急救命士

野村 直也  
(のむら なおや)



救急科 救急救命士

金子 凛  
(かねこ りん)

# 病理診断科

【学会施設認定】  
日本臨床細胞学会認定施設

## 診療科の特色

病院では患者さんの病状を把握し、治療方針を得るために色々な検査が行われます。すべての患者さんに対してではありませんが、診断を確定するために病変部の組織を小さく切り取って直接調べることがあります。特にがんの診断には欠かせないものです。これを「組織診」といいます。

病理診断科ではこの組織診のほかに、細胞を採取してこれをもとに病変を推定する「細胞診」も行います。組織診と細胞診をあわせて病理検査・病理診断とよびます。病理診断科の業務の中心は組織診と細胞診であると言えます。

組織診を専門とする病理専門医（日本病理学会）は、全国で約2,500名が活動しています。細胞診には約3,500名の細胞診専門医（日本臨床細胞学会）がおります。それぞれの専門医は学会の認定試験をパスした後も、5年毎に資格更新のためのチェックを受けています。

わが国では組織診を担当する病理医が圧倒的に不足しています。しかもその多くは大規模病院や大学医学部に勤務しています。大森赤十字病院のような市中の中規模病院の多くは常勤病理医をおけず、民間の検査会社に業務を委託しています。

このような状況下で、当院では病理診断科を設置し、常勤病理医による病理診断を行っております。診断のための病理標本作製は、国家資格をもつ臨床検査技師が担当し、細胞診検体のスクリーニングは学会認定資格をもつ細胞検査士が行っています。

病理診断はひとりの病理専門医が臨床全科の診断に自力のみで対応するのは容易ではありません。そのため、自分の専門領域以外の診断については別の専門医との連携が必要不可欠です。なお当科では、常勤病理医とは専門領域の重ならない都内有力病院の病理部長3名と医学部教授3名を非常勤医として招聘し、毎週1日ずつ来院しての診断をお願いしています。当科の病理診断を担当する医師団は、トータルとして際立った専門性と高い診断の能力を発揮できており、このグループの活動によって当科の組織診・細胞診および手術中の迅速診断が行われています。

このほかに、当科では病理解剖（剖検）も行います。実際の執刀から診断書作成などの一連の業務は、東邦大学医学部病理学講座の三上哲夫教授の指導のもと、同講座の医師が担当いたします。

## 診療内容

### 組織診

内視鏡生検などの小さな組織や手術などで摘出された組織・臓器から標本を作製し、病理専門医が顕微鏡で観察し、病変の良悪性や進行度などを診断します。病名診断と並行して病理標本を用いた免疫組織化学検査や遺伝子検査によるコンパニオン診断を行うこともでき、患者さん個人に適應するオーダーメイド医療の一翼を担っています。

### 術中迅速診断

手術中に採取された組織を凍結して標本を作製し、病理診断を速やかに執刀医へ報告を行う検査であり、正確性と迅速性が求められます。病変の良悪性やリンパ節転移の有無、手術断端への癌の浸潤の有無などを診断します。これらの診断により切除範囲の決定などの手術方針が決められます。

### 細胞診

子宮頸部などを擦過した検体や喀痰、尿、胸水や腹水などの液状の検体を用いて標本を作製します。膵臓などの深部臓器や乳腺などからは細い注射針を刺して検体を採取します。顕微鏡を用いて細胞の良悪性の判定を行い、病変の有無や病名を推定します。この作業はまず細胞検査士の資格を有する臨床検査技師が判定を行います。これをスクリーニングと言います。次に細胞診専門医が最終診断・報告を行います。

(日本臨床細胞学会認定施設)

### 病理解剖

当院で亡くなられた患者さんの御遺体を解剖し、死因の特定や治療効果などを明らかにします。

最終的な報告書を作成したのち、病理医、臨床医などがそれぞれの立場から死因、病態などを検討する会である臨床-病理検討会（CPC）を年5回開催しています。CPCは今後の医療と医学教育の質の向上に大きく貢献しています。当院では年末に解剖慰霊祭を行い、御遺体を病理解剖に供された患者さんと御遺族の皆様に感謝の念を捧げています。

## 診療実績

	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
組織診	3,557件	3,350件	3,904件	3,663件	4,100件
術中迅速診断	40件	35件	37件	29件	36件
細胞診	3,172件	3,000件	3,107件	3,005件	3,180件
病理解剖	8件	8件	8件	1件	3件

## スタッフ紹介



病理診断科医師

坂本 穆彦  
(さかもと あつひこ)

出身大学	東京医科歯科大学
卒業年	1971年
専門分野	腫瘍病理学、診断病理学（特に甲状腺及び頭頸部、婦人科領域、前立腺）、臨床細胞学
学会認定医 専門医	日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医 死体解剖資格、IAC認定国際細胞診専門医（FIAC）



非常勤医師

河内 洋  
(かわち ひろし)

出身大学	東京医科歯科大学
学会認定医 専門医	日本病理学会認定病理専門医、分子病理専門医、病理専門医研修指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医、教育研修指導医 日本食道学会 食道科認定医
所属	がん研究会有明病院 病理部 部長



非常勤医師

飯原 久仁子  
(いいはら くにと)

出身大学	浜松医科大学
学会認定医 専門医	日本病理学会認定病理専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医
所属	昭和医科大学江東豊洲病院 臨床病理診断科 客員教授



非常勤医師

高澤 豊  
(たかざわ ゆたか)

出身大学	東京大学
学会認定医 専門医	日本病理学会認定病理専門医、病理専門医研修指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医、教育研修指導医
所属	虎の門病院 病理部・病理診断科 部長



非常勤医師

泉 美貴  
(いずみ みき)

出身大学	川崎医科大学
学会認定医 専門医	日本病理学会認定病理専門医、病理専門医研修指導医 日本臨床細胞学会細胞診専門医、国際細胞診指導医 (FIAC) 国際皮膚病理専門医 (Diploma of Dermatopathologist) 死体解剖資格、日本医学教育学会認定 医学教育専門家
所属	昭和医科大学医学部 医学教育学講座 教授



非常勤医師

北川 昌伸  
(きたがわ まさのぶ)

出身大学	東京医科歯科大学
学会認定医 専門医	日本病理学会認定病理専門医、日本病理学会分子病理専門医
所属	新渡戸記念中野総合病院 病理診断科 部長



非常勤医師

根本 哲生  
(ねもと てつお)

出身大学	東邦大学
学会認定医 専門医	日本病理学会認定病理専門医・病理専門医研修指導医 日本臨床細胞学会認定細胞診専門医
所属	昭和医科大学横浜市北部病院 臨床病理診断科 教授

# 臨床検査科

【学会施設認定】  
日本臨床細胞学会認定施設

## 診療科の特色

臨床検査科では、血液生化学検査や免疫検査、細菌・ウイルス検査などの検体検査と、循環器検査や呼吸機能検査などの生理機能検査を実施しております。

また、その結果をもとに、専門の医師が管理や検査にかかわる診断を行う部門です。輸血にかかわる業務も検体検査部門で行っています。

当院では、臨床検査技師26名（2025年4月現在）で検体検査、生理機能検査、病理検査、外来採血業務を行っています。夜間休日は完全2交代制で、24時間検査を実施しており、常に正確なデータの取得と迅速な報告によって、臨床現場と密着した検査の提供に努めています。

当院の検査技師は、超音波検査士、緊急検査士、糖尿病指導療養士などの各種の認定資格を取得し、検査業務以外にも、院内感染予防や輸血療法、栄養サポートなどの各種委員会への参加や糖尿病教室への関与を通じて、病院全体の医療の質の向上に取り組んでいます。

## 各種検査の紹介

一般的な血液生化学検査、尿・糞便検査はもちろん、下記の検査を院内で行っています。

### 細菌・ウイルス検査

感染症の起炎菌を迅速にみつけるため、各種検体について染色・顕微鏡検査、培養、同定検査を行っています。

また治療に有効な抗生物質を選択するための薬剤感受性検査も行っています。一般細菌のほか、抗酸菌の蛍光染色等も実施しております。

一部のウイルス検査はPCR検査まで当院で行っており、迅速な対応が可能です。

### 遺伝子検査

結核菌・MACPCR検査を院内で実施しています。

CDトキシン遺伝子検査・血中MRSA遺伝子検査・新型コロナウイルスPCR検査も院内に導入し、臨床的意義の高い検査を迅速に実施することで診断に貢献しています。

### 生理機能検査

心電図検査、血圧脈波検査、呼吸機能検査、聴力検査、超音波検査（エコー検査）、脳波検査、筋電図検査などは、臨床検査技師が施行しています。

これらの検査は依頼から結果報告まで電子化されているため、医師は外来や病棟、医局などからも検査結果を確認することができます。さらに過去の検査結果もすべて電子カルテで確認することができるため、経過観察も容易です。各検査室には検査システム用のパソコンが配置されており、検査施行時に過去の検査データと比較しながら行うことで、見落としの予防や高い精度の検査の提供ができています。

## 生理機能検査室 検査実績

項目	2024年
心電図検査	12,604件
血圧脈波検査	855件
呼吸器検査	3,361件
神経整理検査	236件
脳波	219件
聴力検査	2,226件

項目	2024年
腹部超音波検査	2,609件
心臓超音波検査	4,754件
乳腺甲状腺表在超音波検査	1,576件
頸動脈超音波検査	1,038件
血管系超音波検査	910件
ドック系超音波検査	846件

## スタッフ紹介



健診部長（兼）検査部長（兼）循環器内科医師

神原 かおり  
(かんばら かおり)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	1991年
専門分野	循環器内科一般、不整脈、生活習慣病の予防と治療
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、臨床研修指導医講習修了 日本循環器学会認定専門医、日本老年医学会認定専門医・指導医 身体障害者福祉法指定医、難病指定医 ICT/CRT研修終了証取得、人間ドック健診情報管理指導士

# 薬剤部

## わたしたちは 「患者さん一人ひとりに寄り添い、信頼される薬剤師」 を目標に邁進しています

薬剤部一同

薬剤部は「個々の患者さんに安全で最適な薬物療法を提供する」を基本理念とし、「患者さん一人ひとりに寄り添い、信頼される薬剤師」を目標に日々邁進しています。調剤をはじめ、医薬品の情報提供、医薬品の管理および患者さんへの薬剤管理指導（服薬指導）、病棟薬剤業務などを実施しています。

現在、全ての病棟に専任薬剤師を配置しています。病棟に薬剤師が常駐することで、医師や看護師など多職種との連携がとりやすくなり、薬の専門家として科学的根拠に基づいて個々の患者さんに適したお薬や投与量・投与方法を積極的に提案しています。

また、チーム医療の一員として、感染対策や栄養管理、周術期管理、認知症ケアなど様々な分野で多職種と共にチーム活動しています。さらには副作用の回避や早期発見など医療安全にも貢献しています。

そして近年、地域包括ケアシステムの構築が進む中、Medication reconciliation（ Medikation・レコンシリエーション）にも力を入れています。これは患者さんが入院や退院する際、別の病院、療養施設へ転院する際など、ケア移行前後の正確な投薬状況を確認し、変更や継続について評価、情報提供するものです。

ケア移行時の Medikation エラーの半分以上は薬剤関連との報告もあるため、薬剤師が関与し、医師、看護師をはじめ多職種と協働する必要性が高まっています。

退院時には必要に応じ入院中の使用薬剤や服薬状況などを記載した薬剤管理サマリーを作成し、かかりつけ薬局に渡すよう患者さんに交付しています。がん化学療法で通院治療している患者さんにはトレーシングレポートを薬局宛に交付し、薬局から返送されたレポートを医師へフィードバックしています。また、患者さんが退院後も安心してかかりつけ薬局で調剤や訪問指導などが受けられるよう薬局の薬剤師との連携も進めています。

今後はAI等デジタル技術を活用した薬剤業務、医薬品情報提供など業務の効率化、質の向上に取組み、より患者さん個々の医薬品の有効性や安全性を適切に見極め、最適な薬物療法が提供できるよう努めてまいります。

社会情勢の変化、医療の発展に伴い多様化したニーズに応えられるよう柔軟に取り組んでいく所存です。

## 業務紹介

### 調剤業務

入院や外来の調剤を行います。当院は原則、院外処方となっておりますので入院調剤が中心ですが、患者さんに安全な薬物治療を提供するために、院外処方せんにおいても保険薬局と連携をとりながら、安全対策に取り組んでいます。保険薬局とは薬の説明書やおくすり手帳を通して情報を共有しています。



### 注射調剤業務

調剤薬同様、注射の投与に関しても処方せんに基づき患者ごと、1施用ごとに調剤しています。薬剤師が調剤することにより、投与量、投与方法、投与期間、配合変化などを事前に確認でき、患者さんに安全に投与することができます。注射薬自動払出装置の導入により、更に安全対策が強化されています。



### 注射薬調製業務

クリーンベンチ内では高カロリー輸液（TPN）の調製を、安全キャビネット内では抗がん剤の調製を行っています。無菌的な環境で操作するため清潔管理が徹底され、薬剤師が再度確認することで更に安全性を高めています。現在は抗がん剤調製支援システムを用いて電子的にも監査を行っています。

### 薬剤管理指導業務

入院患者さんのベッドサイドで、薬剤師が薬の効果、服用方法の説明、副作用の有無、服薬アドヒアランスの確認を行います。初回はできるだけ早期に面談し、持参薬を含む服用薬の確認を実施します。収集した情報や薬物相互作用（くすりの飲み合わせ）、重複投与（同じような効果のものを重ねて服用すること）などの医薬品に関する情報は医師、看護師などに還元・共有し、必要な時は処方提案することで、患者さん個々に合わせた薬物治療を提供できるよう心掛けています。

### 医薬品情報業務

製薬企業からの資料や厚生労働省からの通達など様々な医薬品の情報を集積し、医療従事者（医師、看護師、医療技術者など）が必要な情報を選択・加工して提供します。病院全体で医薬品に関する大切な情報を共有するため、院内LANやメール機能を活用し速やかに情報提供を行っています。電子的情報発信に加えて、病棟薬剤師が直接説明することで、医師や医療スタッフに、情報が確実に届くよう工夫しています。D I室で受けた問い合わせなどは電子的に管理されており、後から検索することも可能です。医薬品マスターの作成・整備なども医薬品情報業務のひとつです。



### 製剤業務

治療上必要な一般製剤（消毒剤、外用剤など）や市販されていない医薬品、特殊製剤などを製剤原料の特性に合わせた適切な方法で調製しています。医師から提出された「院内特殊製剤依頼書」をもとに、十分検討し、より良い院内製剤を提供します。



## 医薬品管理業務

院内で採用されている医薬品の購入、保管、供給に係る業務です。医薬品が適正に管理されるよう、病棟、外来などの状況を定期的に確認し、病棟に配置されている医薬品の見直しや有効期限のチェックなどを行い適正管理に努めています。医薬品の発注・納入はバーコードを利用しコンピューター管理をしています。

## 病棟薬剤業務

各病棟に病棟薬剤師を配置しています。薬剤師は患者さんの薬物治療の有効性と安全性を高めるため、薬学的知識をもとに専門性を生かした活動をしています。主に、薬物が投与される前の投与量、投与方法、相互作用、副作用歴、アレルギー歴などを確認し、最適な薬物治療が実施できるよう、常にチェックしています。病棟で薬剤師が活躍するためには、多職種との連携が最も必要です。カンファレンスや回診などにも積極的に参加し、薬剤師の視点からの処方提案ができるよう努めています。

## チーム医療

現在薬剤師はチーム医療の一員として、「感染対策」「がん化学療法」「栄養管理」「糖尿病」「褥瘡」「緩和医療」「周術期」「呼吸管理」「認知症」などの分野で活動しています。医師やメディカルスタッフと合同でカンファレンスを行ない、適切な医療が提供できるよう日々奮闘しております。更に研鑽を積み、高度な薬物治療の支援に対応できる薬剤師の育成に努めます。

## 地域医療連携

患者さんに安全な薬物療法をシームレスに提供するためには、医療連携は不可欠です。吸入指導については、医師の依頼により、保険薬局で理解度と手技について評価しレポートを作成しています。医師はその評価をもとに外来診療時に役立てています。2018年度からは、がん化学療法の連携を強化する目的で、「ケモクロス座談会」と称して近隣の保険薬局と定期的に集まり情報共有をしています。服薬情報提供書は保険薬局薬剤師が患者からの聞き取り情報を医師にフィードバックするレポートですが、相互に協力して作成しているためスムーズに活用されています。今後は地域でポリファーマシーやAMR対策についても検討していければと考えます。

## その他

薬学教育6年制が導入され、当院も実習教育機関として後進の育成に取り組んでいます。質の高い薬剤師を育成するため、薬学生5年次に各大学の実務実習生を受け入れ教育しています。また、治験事務局として製造販売後医薬品の調査も実施しています。

## スタッフ数・認定資格取得数等（2025年4月現在）

### スタッフ数

職種	人数
薬剤師	26名

### 各種資格・認定一覧

資格・認定内容	人数
日本薬剤研修センター 研修認定薬剤師	5名
日本薬剤研修センター 認定実務実習指導薬剤師	5名
日本病院薬剤師会 病院薬学認定薬剤師	7名
日本病院薬剤師会 がん薬物療法認定薬剤師	1名
日本医療薬学会 医療薬学専門薬剤師	1名
日本麻酔科学会 周術期管理チーム認定薬剤師	2名
日本腎臓病協会 腎臓病療養指導士	1名
日本糖尿病療養指導士認定機構 日本糖尿病療養指導士	2名
日本臨床栄養代謝学会 栄養サポートチーム（NST）専門療法士	2名
日本循環器学会 心不全療養指導士	3名
日本高血圧学会 循環器病予防療養指導士	1名
東京都保健医療局 肝炎医療コーディネーター	1名
日本アンチドーピング機構 スポーツファーマシスト	3名
日本化学療法学会 抗菌化学療法認定薬剤師	3名
日本腎臓病薬物療法学会 腎臓病薬物療法認定薬剤師	1名
日本くすりとうり病学会 糖尿病薬物療法履修薬剤師	1名
日本プライマリ・ケア連合学会 プライマリ・ケア認定薬剤師	1名
日本麻酔科学会 術後疼痛管理チーム認定薬剤師	2名
日本服薬支援研究会 簡易懸濁法認定薬剤師	1名
日本医薬品安全性学会 医薬品安全性専門薬剤師	1名

# 看護部

## 地域のニーズに応えられるよう 質の高い看護の実践を 目指します



看護部長 吉村 美樹

看護部は、赤十字の基本理念である人道・博愛の精神のもと、「やさしく思いやりのある看護」を提供できる看護師の育成をし、自立した看護、質の高い看護を目指しています。

大森赤十字病院は、ご利用して下さる患者様や医療関係者の方々、行政の方々等、地域の皆様に多くのご支援を頂いております。私自身も新人看護師からこの大森赤十字病院に就職して以来、患者様をはじめ多くの先輩看護師の方々や職員の皆様にご指導いただき、これまで努めてまいりました。私たち看護職員も、地域の皆様方のご期待に応えることができるように、学び続ける組織でありたいと思います。

当院は今日まで、救急医療の強化に努めてきました。多くの救急診療を効率的に行うことができるよう、体制を強化しております。看護部門も救命救急の看護の知識・技術の向上に向けて、技術研修などを企画・実施しております。特に脳血管疾患や心疾患などの緊急度の高い治療においても、チーム力を結集して臨みたいと思います。

また、当院はがん治療の強化を目標としております。ロボット手術の開始等、医療技術の進歩に合わせて、専門性の高い知識・技術を有する看護師の活躍の場も増えております。当院の看護師は、がん看護専門看護師や認定看護師、がん化学療法認定看護師、がん性疼痛看護認定看護師、緩和ケア認定看護師と、

がん領域の専門家が多く勤務していることが強みです。当院でのがん治療を行う患者様やご家族の支援を、看護部としてもしっかりと行ってまいります。

看護の質の評価は、日本看護協会が実施している「労働と看護の質向上のためのデータベース事業」に全病棟及び外来が参加し、課題の抽出および改善に努めております。

また、急性期リハビリテーションへの取り組みは、早期離床、自立支援を中心として看護師・リハビリスタッフが一丸となった患者ケアに取り組んでいます。病棟にリハビリスタッフが配置されていますので、看護師とともに、衣・食・排泄分離のケアが推進され、退院後の生活の質を維持できるようなケアを提供することができます。

入退院支援センターでは、専属の看護師を配置し、入院前から患者さまの生活を把握して、少しでも安心して入院治療ができるように支援いたします。また、退院後の療養環境を整えることができるように、地域の医療関係者の方々との協力を密にし、医療や看護が継続されるように努めています。地域の方々がその人らしく過ごすことができるよう、シームレスな看護支援の実践に努めています。

新興感染症の流行や自然災害など社会が大きく変化する中で、私たちは地域の方々のニーズに応えられるように、職員一丸となって質の高い看護を提供できるよう、努力を続けていきたいと思っております。

## 看護体制等

看護単位：15単位

(7病棟、ICU、HCU、手術室・中央材料室、外来1・2、透析室、緩和ケア病棟、  
入退院支援センター)

看護配置：7対1

看護方式：パートナーシップ、固定チームナーシング、

勤務体制：変則二交替

### スタッフ数（2025年4月現在）

職種	職員数
助産師	28名
看護師	387名

### 専門・認定看護師等 資格取得者（2025年4月現在）

名称	人数	名称	人数
認定看護管理者	4名	慢性呼吸器疾患看護認定看護師	1名
がん看護専門看護師	1名	感染制御実践看護師	1名
慢性疾患看護専門看護師	1名	糖尿病療養指導士	2名
小児看護専門看護師	1名	腎臓病療養指導士	1名
皮膚排泄ケア認定看護師	1名	心不全療養指導士	5名
緩和ケア認定看護師	1名	3学会合同呼吸療法認定士	3名
感染管理認定看護師	1名	消化器内視鏡学会消化器内視鏡技師資格取得看護師	4名
手術看護認定看護師	1名	日本腹膜透析医学会指導看護師	1名
がん化学療法看護認定看護師	2名	日本医療リンパドレナージ協会中級修了看護師	1名
集中ケア認定看護師	1名	インターベーションエキスパートナース	1名
認知症看護認定看護師	1名	介護支援専門員	1名
がん性疼痛看護認定看護師	1名	日本赤十字社救急法指導員	18名
脳卒中リハビリテーション看護認定看護師	1名	日本赤十字社幼児安全法指導員	3名
特定行為看護師（麻酔関連）	1名	日本赤十字社健康生活支援講習指導員	8名
特定行為看護師（創傷管理関連）	1名	日本赤十字社こころのケア指導員	4名

## 病棟・集中治療室・手術室・透析室・外来紹介

### 3階病棟



3階病棟は産婦人科、小児科、成人女性の患者さんを受入れる26床の病棟です。産科では、女性が持つ力を発揮できるように妊娠期から分娩期、産褥期まで継続的に支援しています。また、産後に安心して子育てできるように、助産師が専門性を発揮してケアを行っています。婦人科では、女性特有の疾患や手術を受ける患者さんに対して、安全で早期回復に向けた周手術期の看護を実践しています。

小児の患者さんは、新生児期から思春期までの急性期疾患による入院が多く、子どもと家族への身体的・精神的なケアを実践しています。成長・発達を捉えて、検査や手術を受ける子どもの苦痛を緩和するケアを心がけています。多様化する社会の中で、様々なケアが必要な患者さんや子ども、家族への支援を、医師、看護師、助産師をはじめ他職種で協働し、外来や地域、行政との連携を行っています。3階病棟のスタッフ一人一人が子育てのサポーターになれるように、専門的な知識や技術の向上をめざし、共に学び合える環境を大切にしています。

### 緩和ケア病棟

緩和ケア病棟は、がん（悪性腫瘍）の治癒を目的とした治療は行いませんが、患者さんの心身の苦痛症状を和らげる治療やケアを行う専門病棟です。患者さんがそのらしく、自分らしい時間を日々過ごせるようご家族も含めスタッフで話し合い、薬物療法などの治療やケアを提供しています。終末期となると心理・社会的な不安や苦痛を伴うこともあり、患者さんに寄り添いながらその苦痛を少しでも和らげられるよう患者さんにとって一番の方法を考えケアにつなげています。



また、人生の最期を迎えるだけでなく、希望される場合には自宅で療養できるよう、退院支援看護師、薬剤師、管理栄養士、MSW、リハビリスタッフなどと連携を図り、必要な支援が受けられるよう調整を行っています。

### 4階病棟



4階病棟は、整形外科、糖尿病・内分泌内科、耳鼻科、消化器内科の53床の病棟です。

整形外科では、骨折などの外傷や変形性疾患などで手術を受ける患者さんが入院されており、周術期の看護とリハビリテーションを中心としたケアを行っています。また、転倒などを契機に入院された高齢患者さんの多くは、ADLの低下を認めるため退院後の生活に向けた支援が重要となってきます。ご家族とともに患者さんのこれからの生活を大切にケアを多職種で行っています。

糖尿病・内分泌内科では、糖尿病教育入院を中心としたケアを行っていますが、重症低血糖やシックデイによる急性代謝障害などで救急搬送された患者さん、また1型糖尿病が疑われる患者さんへの看護も増えています。糖尿病とともに一生つきあっていかなければならない患者さんの苦痛を理解しながら、少しでも患者さんが自分らしく生きるために、エンパワメントすることを大切にセルフケア支援を多職種で提供しています。

## ■5階東病棟



5階東病棟は、消化器内科、神経内科、皮膚科の49床の病棟です。

がん患者さんをはじめ、脳神経疾患、腎臓病などの慢性疾患の患者さんの治療から緩和ケアまで、幅広い病期に対応しています。特に、消化器内科では内視鏡センターを開設し大腸ポリープや早期がんに対する内視鏡治療を受ける方が多くなっています。また化学療法や透析療法の導入も行っています。

その中で、看護師は患者さんの生活背景やありたい姿を捉えながら専門的治療を受ける患者さんが安全に治療を受けられるような支援を行っています。また、退院に向けたセルフケア支援など、疾患と共に生きるための支援を行っています。医師、看護師、退院支援看護師や医療ソーシャルワーカー、薬剤師、リハビリスタッフなど多職種で協力し、チームで患者さんや家族にとってより良いケアの提供に努めています。

## ■5階西病棟

5階西病棟は、外科・泌尿器科・眼科・消化器内科で構成される49床の外科系混合病棟です。

外科・泌尿器科は主に手術、がん化学療法、症状緩和などの治療を行っており、周術期から終末期の患者さんが入院されています。看護師は手術を受ける患者さんが、安心・安全に治療を受けられるように看護を提供しています。

また、ストーマ造設によるボディイメージや日常生活の変化を患者さんが受け入れられるよう支援しています。



診断期から治療期、維持期、終末期まであらゆる病期にある患者さんの療養生活を支援できるよう、看護師、医師、薬剤師、栄養士、理学療法士、医療ソーシャルワーカー、様々な医療専門チームと連携して、看護ケアの充実に努めています。

## ■6階東病棟



6階東病棟は、脳神経内科、脳神経外科、耳鼻科の計41床の病棟です。

脳神経疾患の患者さんは、急性期には手術やカテーテルによる血管内治療、薬物治療などを行います。症状が安定すると再発予防に向けた生活の構築や身体機能回復に向けたリハビリテーションを行うなど看護は多岐にわたります。

病棟では看護師と病棟専従のリハビリスタッフが連携を図り、より質の高い看護とリハビリの提供を目指し取り組んでいます。

また、身体機能が低下した患者さんが残された機能をいかして生活の場へ早期に復帰できるよう、医師・看護師・リハビリスタッフ・医療ソーシャルワーカーなど多職種でのカンファレンスを定期的で開催し、それぞれが専門的な立場から情報や意見を共有しながら、チームで患者さんの回復過程や社会復帰を支えています。



## 7階病棟

7階病棟は、主に循環器内科の41床の病棟です。

主な疾患は、急性心筋梗塞・狭心症・心不全・弁膜症などです。ICUやHCUから転入してくる急性期の患者さんや、緊急入院・心臓カテーテル検査やペースメーカー挿入の処置入院の患者さんなど、入退院の多い病棟です。

常に状態が変化する患者さんの急変に備え、赤十字救急法やBLSを取得し、医師・看護師・薬剤師・看護補助者など多職種で急変対応のシミュレーションを実施して、スキルを高めるよう努めています。また、心不全を繰り返す患者さんがセルフケアを獲得し自己管理できるように多職種と連携しながら生活指導を実施しています。



## 集中治療室 (ICU・CCU)

ICUのベッド数はオープン2床と個室4床の合計6床です。この4月に新しい方を迎え看護スタッフは24名です。重篤な状態にある患者さんやご家族にどのようなケアを提供することが最良なのかを医師・薬剤師・リハビリスタッフ・栄養士と共に考え、実践しています。また、心臓カテーテル等の看護実践も担い、高度医療に対応できるように自己研鑽並びに経験年数に合わせた訓練も計画的に実施しています。

侵襲の大きい手術後の管理や救急や院内での急な状態悪化などの入室にも対応しています。新人教育にも力を入れており、毎年新人看護師を迎え入れています。



## ハイケアユニット (HCU)



HCUはオープンベッド8床、個室4床です。師長1名、係長1名、主任1名、看護師23名で各科主治医と協力して日々の治療・看護を行っています。主な疾患は、循環器の心不全、急性心筋梗塞、狭心症など、術後合併症リスクがある外科の開腹・腹腔鏡下胃腸切除後、呼吸器外科の胸腔鏡下肺部分切除後、脳神経外科の脳出血、脳梗塞などです。急性期から亜急性期にある患者さんや家族にケアを提供するため、緊張感がありますがICUと協力して安全な入院生活をサポートしています。

また、心臓カテーテル検査室での看護実践にも携わり、入院直後からリハビリスタッフ・薬剤師・管理栄養士などの多職種と連携を図り、多忙な中でも、きめ細やかに、充実した急性期看護を目指しスタッフ一丸となって取り組んでいます。

## ■外来1（一般外来・小児科外来）

当院の外来看護師が担当する1階一般外来では、20の診療科が35の診察室で診察を行っています。外来看護師は、外来患者さんの診療処置の介助や日常生活上の指導、受診相談など、様々な場所で幅広い看護を行っています。また外来受診後に緊急入院となった場合には、患者さんやご家族の不安や苦痛を軽減できるよう、病棟との継続性や他職種との連携の強化に取り組んでいます。

外来1は様々な経験・経歴の看護師が働いています。家族の介護や育児中などでも、職員同士で悩み相談を行い、協力しながら楽しく生き生きと仕事をしています。仕事と家庭生活を両立しながら、患者さんが「心あたたまる」診療を受けていただけるよう努めています。



## ■外来2（救急外来・内視鏡センター検査部門）

救急外来は、二次救急病院として救急医療センター輪番病院、東京都CCUネットワーク加盟病院、脳卒中急性期医療認定施設といった主に急性期の充実した医療に貢献する病院として多くの認定や指定を受けております。年間6000台以上の救急車を受け入れており、他職種と連携しながらスムーズな受け入れから迅速な診断と治療を目指しております。また、救急外来看護師は院内トリアージやBLS研修を受け、急変時に対応できるように日々トレーニングを行っています。さらに、心臓カテーテル、脳アンギオなどの勉強会を行い適切な介助が行えるように看護実践教育にも力を注いでおります。

今年度は、がんの早期発見・治療に取り組むために内視鏡センターが2Fに移設され、さらに地域に貢献できるように環境を整えました。より安全に検査や治療が受けられるように、症例や地域医療安全のカンファレンスを行い、内視鏡看護師の育成にも取り組んでいます。常に患者さんへの迅速かつ丁寧な対応を心がけ「心あたたまる病院」「寄り添う看護」を目指しています。

## ■透析室

透析室は血液透析・敗血症に対するエンドトキシン吸着術・血漿交換・潰瘍性大腸炎治療の吸着術・腹水濃縮などを医師・臨床工学技士・看護師でチーム医療を行っています。

透析導入・維持透析（外来・入院）・緊急透析など様々な患者さんの治療を行い、透析室内だけでなくICU・HCUへの出張透析も行っています。重症患者さんの透析も増え、より安全に治療を行うことが出来るよう知識・技術の向上に努めています。

腹膜透析外来では、月1～2回の受診で治療・手技確認・生活指導などを行っています。高齢化に伴い、認知症やさまざまな合併症を抱えた方も多く、患者さんだけでなく家族へのかかわりにも力を入れ、さらに安全で快適な治療や看護が提供できるよう、日々努力しています。





## ■手術室

手術室の基本方針は、手術を受ける患者さんの権利と安全を守ることです。手術は、麻酔科医師、外科医師、看護師の医療チームで行いますが、その中心は患者さんです。患者さんは、病気そのものの不安に加え、麻酔や手術に対する不安を抱えています。そのため、手術室看護師は術前訪問を行い「手術室の中はどうなっているのか」、「痛みはないか」、「寒くはないか」などの疑問についてお答えして、不安の軽減に努めています。また、患者さんが希望するBGMを流すなど、リラックスできるような環境づくりをしています。



患者さんの一番身近にいる看護師は、専門的な知識と技術を駆使して、手術が安全に行われ成功すること、患者さんの安全安楽が十分に配慮された手術看護を提供できることを目標にしています。

## ■通院治療室

通院治療室では、外来腫瘍化学療法診療料算定のもと各科の抗がん剤投与管理、外来化学療法加算のもとインフリキシマブ、トシリズムブ、アバタセプトなどの点滴を実施しています。患者さんの使用する薬剤によって、1回の治療時間は1時間から長い場合は、5～6時間を要します。投与時間に個人差はありますが、投与管理を行いながら専門的な看護を行っています。ここでは、がん化学療法看護認定看護師が専任として勤務しており、投与時間を通し、繰り返し患者さんと関わりをもちながら、長期間となる治療中のサポートを行っています。また、医師や薬剤師・栄養士と情報交換を適宜行い、チーム医療を行っています。



1日の来院患者数は2～15名程度とばらつきはありますが、看護師2名体制で投与管理を行い、同時に自宅での副作用管理やセルフケア、治療に関する不安・相談の窓口になっています。

## ■入退院支援センター

入退院支援センターは、入院部門と退院部門に分かれています。入院部門は予定入院の患者さんへの入院説明とともに、スムーズに退院できるかのリスク評価を行い、入院前からの退院支援につなげています。また、時間をかけて説明することにより患者さんにとって入院生活をイメージすることができ、安心感につなげることもできています。



退院支援部門は自宅退院にあたり介護保険の活用や在宅療養体制の構築が必要な患者さんおよびご家族への退院調整を行っています。入院前と比較してADLが低下したり、病状から訪問診療等の導入が必要そうな患者さんご家族に対しクリニックや訪問看護ステーション、ケアマネジャー等の紹介・調整を行い、少しでも安心して自宅退院ができるように患者さんと地域との調整を行っています。

## 専門認定看護師の活動

### ■がん看護専門看護師

がん医療は、がんと告知されたときから手術や化学療法などの治療の選択、治療に関する副作用症状、病状の進行に伴う症状の緩和、療養に関することなど、様々な課題があります。がん看護専門看護師は、そのような患者さんやご家族がより善い選択ができるよう支援したり、より善い時間を過ごせるよう様々な調整やサポートを行います。主な活動として、がん患者さんやご家族への直接ケアを行ったり、看護師からの相談に応じたり、がん診療に関わる多くの診療科の医師やがんに関連した認定看護師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、MSWなど他職種と協働し、チームでがん患者さんやご家族を支える体制づくりを行っています。



### ■慢性疾患看護専門看護師



慢性病と共に生きる患者さんは、日常生活の中で我慢を強いられ、多くのものを失ったり、諦めたり、孤独を感じたり、様々な苦悩を抱えています。またその患者さんを支えるご家族も、多くの困難や葛藤を抱えています。先の見えない不安の中で、患者さんやご家族が病いとともに自分らしく生きていけるように、一緒に悩んだり考えたりしながらセルフケアできるように支援を行っています。また、患者さんを支えるためのチーム医療の推進やご家族・医療スタッフの相談・教育に取り組んでいます。

### ■小児看護専門看護師

小児看護専門看護師は、あらゆる健康レベルにある子どもと家族に対し、最善の利益が守られ、子どもの成長・発達を見据えた看護を提供します。入院中の子どものきょうだいや、親や家族が病気という境遇にある子どもの支援も考えていきます。子どもや家族の力を引き出せるように、身近な存在として子どもへの分かりやすい説明を行い、育児相談の支援をしています。

また、地域や院内で子どもと家族に関わるスタッフが連携できるよう調整し、子どもと家族に寄り添い、質の高い看護を提供できるようにスタッフへの支援および教育に取り組んでいます。



### ■緩和ケア認定看護師



緩和ケアは、がんの診断期、治療期、社会復帰、再発、終末期のあらゆる時期の患者さんとご家族の苦痛の緩和を目的としています。主な活動として患者さんとご家族に対して疼痛を含む身体的精神的苦痛の緩和、療養場所の選択の支援、当院で手術をした患者さんを対象としたリンパ浮腫ケアを行っております。また、緩和ケアはチーム医療ですので、医師・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフ等とチームを組んで、患者さん及びご家族の苦痛への対応と、病院職員への緩和ケアの知識と技術の普及を図っています。2014年度からは、がん患者さんが同じ病気の方と語り合える場として、「がん患者サロン」を開催しています。

## ■皮膚・排泄ケア認定看護師

皮膚・排泄ケアは、創傷・ストーマ・失禁に関連したスキンケアが中心です。創傷は、外傷・術後創・褥瘡などを医師と連携し、ケアをすすめています。中でも褥瘡は褥瘡対策委員会がラウンドを行い、ケアの充実を図っています。ストーマ（人工肛門・人工膀胱・腎瘻など）は、手術前から社会復帰後までの一連に関わり、入院・外来を通して患者さんの支援を行っています。失禁は社会生活に支障がないよう、オムツやパッドなどの調整を



はかり、皮膚障害のケアを行っています。このように皮膚・排泄ケアは、予防段階から介入できるように専門的知識・技術の普及に努めています。

## ■手術看護認定看護師



手術室の看護師は、医師に器械を手渡して、手術進行をサポートする器械出しと手術を受ける患者さんの安全・安楽の確保や心理面への援助を行う外回りの役割があります。手術を受ける患者さんは様々な期待と不安を抱いて手術にこられます。また多くの患者さんからは、「お任せします」と医療従事者に身を任せる言葉が聞かれます。そこで、手術を担当する看護師は術前訪問で面識を持ち、手術室入室後に患者さんが気持ちを表現しやすいように援助しています。

認定看護師の活動は手術中の看護実践を通じた指導・相談が中心ですが、周術期看護を担う病棟看護師、コメディカルの方への手術見学研修も行っています。また麻酔科医師、薬剤師、臨床工学技士と連携した疼痛管理チームの活動を通して、周術期の患者さんに提供される治療や援助が、個々の患者さんに寄り添った質の高いものとなるように手術看護をお伝えしています。

## ■がん化学療法看護認定看護師

がん化学療法治療を行う患者さんに対し、安全・確実・安楽な治療が受けられるよう、日々の看護実践を行っています。がん化学療法治療は、長期にわたり不安や副作用症状と向き合う治療です。そのため、患者さんの苦痛が最小限になるようにサポートし、精神面でのフォローやセルフケア指導が重要となります。また、日々新薬が開発されるがん化学療法薬は、安全な取り扱いについての知識や技術の普及が不可欠です。



医師・薬剤師など多職種と連携をもち、勉強会・説明会などの企画・運営を行い、常に統一した看護ケアが行えるよう努めています。

## ■集中ケア認定看護師



集中治療の対象は、重症疾患や急性期で不安定な状態にありICUやHCUでの管理が必要な患者さんとそのご家族です。看護師には病態変化を予測し重症化を回避するためのアセスメント能力や早期回復への援助のための専門技術、ご家族に対する精神面のフォローや意思決定への支援が求められます。主にICUやHCUを中心に、患者さんやご家族への看護実践やスタッフへの指導を行い、看護チームの専門知識や実践能力の向上を目指して活動しています。

また、人工呼吸などの呼吸療法の必要な患者さんをサポートする呼吸ケアサポートチームや、患者さんの状態変化を一早くキャッチし急変を回避するRRSなど、多職種チームに所属し横断的な活動を行っています。

## ■ 認知症看護認定看護師

入院された認知症の患者さんが、安全に適切な医療を受けられるように看護実践を行っています。認知症の患者さんの残存機能に注目して、ADLが低下しないためのケアの提案を行い、認知機能に合わせたコミュニケーション方法をアセスメントし、認知症患者さんの意思を確認し、思いを尊重したケアを目指しています。看護師をはじめとする病院スタッフが認知症に関心を持ち、認知症患者さんのできることへ注目できるような教育を心がけています。



また、高齢者の入院で多く発症する、せん妄対策にも力を入れています。医師・薬剤師・社会福祉士・管理栄養士と認知症ケアチームを立ち上げ、多職種で認知症ケアに取り組んでいます。

## ■ 慢性呼吸器疾患看護認定看護師



慢性呼吸器疾患患者さんに対し、急性増悪の予防、生活者の視点にたったADL拡大、QOLの低下を最小限にすることを目指した呼吸リハビリテーション、セルフケア能力獲得のための指導を行います。息切れを持つ患者さんの苦痛を理解し、患者さんが病いと共にその人らしく生きていくことができるように、看護の視点で多職種と連携しながら患者さんとそのご家族を支えていきたいと考えております。

また、急性期から慢性期と幅広い呼吸器疾患患者さんへ質の高い看護が提供できるようにスタッフ教育に取り組んでいます。

## ■ 感染管理認定看護師

感染管理認定看護師の役割は医療関連感染の防止、またはそのリスクを最小限に抑えることです。感染症の予防・啓発や感染対策の指導・教育を行い、感染症の発生時には迅速な対応に努めています。

感染予防のための行動は患者さんや職員だけでなく、ご家族や地域の安全を守ることもつながります。安全な医療を提供できるよう、感染抑制チームと協力しながら組織横断的に感染予防に取り組んでいます。



## ■ 感染制御実践看護師



患者さんやその家族、医療従事者など病院内にいるすべての人を「感染」から守るという目的のもと、ICT（感染制御チーム）メンバーと協力しながら感染制御に関する活動を行っています。また、各種サーベイランスの実施や地域の医療機関との連携なども行っています。

全職員が高い意識を持ち、感染対策を実施できるよう、各部署のラウンドや職員への教育・啓発活動などに取り組んでいます。



## ■がん性疼痛看護認定看護師

がん患者さんの体験するつらさは、身体的なつらさだけでなく、こころや普段の生活にまで影響を及ぼします。がん性疼痛看護認定看護師は、がんの診断から終末期まで、患者さんやご家族のつらさを緩和しQOLを高められるように援助します。

医師からの病状説明やこれからの療養について話し合う場に同席し、患者さんやご家族が医療者と十分に話し合い、その人にとって良い選択ができるよう支援します。

また身体的なつらさを緩和する上で、薬物療法に使用する薬剤の薬理作用を理解し、適切に使用できるようにしていくことも重要な役割です。

認定看護師自らが実践モデルとなって疼痛緩和に必要なケアを行い、患者さんやご家族に対して効果的な疼痛緩和が行えるよう、他の看護師に対しても情報提供し、質の高いケアを目指します。

## 医療技術部

## 栄養課

## 【学会施設認定】

日本病態栄養学会・日本栄養士会認定  
がん病態栄養専門管理栄養士研修実地修練施設

## 栄養課の紹介

- ◆私たち管理栄養士は、それぞれの専門性を活かして「治療を支える栄養管理」を行うことを目標とし、毎日の業務に励んでいます。
- ◆入院前から退院後まで、「患者さんに寄り添い、患者さん・ご家族の皆さまに頼りにしていただける栄養サポート」を目指しています。

入院前から外来通院・在宅療養まで継続的に栄養管理・ケアを行い、患者さんが栄養状態や摂食嚥下機能を維持し、住み慣れた地域で健やかに過ごしていただくことを目標に業務に取り組んでいます。

栄養療法・ケアの一環、また生きた教材として、入院患者さん個々に適した栄養（食事）の提供・補給が行えるよう、入院治療食の管理や個別対応に積極的に努め、退院後も継続できるように、栄養食事指導および栄養情報提供を行っています。

## ～地域医療連携として「栄養情報連携」「栄養食事指導」に対応しています～

## 各診療科への患者ご紹介時、入退院時に

## 医療連携室・入退院支援センターを通じて、お気軽にご依頼ください

## ◆栄養情報連携◆

- ・当院から転院・退院される際に、入院中の栄養管理状況（食事形態や栄養・食事摂取状況、栄養上の対応経過や問題点、栄養食事指導実施内容など）の伝達、情報提供を行います。
- ・転院・退院時の必要時には、カンファレンス等にも出席します。管理栄養士はじめ、医療職、介護職の皆様へ伝達・情報共有を行います。

## ◆栄養食事指導◆

- ・栄養指導の必要な方には、各診療科へのご紹介時に栄養指導必要の旨をお伝えいただけますと、診療にあわせて指導を行います。栄養指導単独でものご依頼もお受けしています。
- ・糖尿病や腎臓病などの生活習慣病から、嚥下障害やサルコペニア・フレイル予防、がん治療中の患者さんまで、あらゆる相談指導内容に、各専門の管理栄養士が対応、指導を行います。
- ・患者さん本人に加えて、ご家族、食介護の担当の方の指導同席が可能です。

## スタッフ数・認定資格取得数等

職種	人数
管理栄養士	7名

スタッフ数（2025年4月現在）

- ◆栄養課は、病院所属の管理栄養士と、給食業務を担う委託スタッフ（管理栄養士・栄養士・調理師）の協働により、栄養・給食管理業務を運営しています

## 各種資格・認定一覧（2025年4月現在）

認定	人数
日本静脈経腸栄養学会認定 栄養サポートチーム(NST)専門療法士	4名
日本病態栄養学会認定 病態栄養認定管理栄養士	3名
日本病態栄養学会・日本栄養士会認定 がん病態栄養専門管理栄養士	1名
日本糖尿病療養指導士	2名
人間ドック健診情報管理指導士	1名

## 業務紹介

### 栄養管理体制

- ◆入院早期の栄養評価と栄養介入の実践◆  
低栄養状態の患者さんには早期栄養介入を行い、栄養状態の維持・改善を効果的に行うことで全診療科の治療に貢献できるように運営を行っています。  
※ 早期栄養介入管理加算（ICU・HCU）算定 ※ 周術期栄養管理実施加算・算定
- ◆管理栄養士の病棟担当制・患者個別の栄養管理の実践◆  
管理栄養士は病棟担当制とし、病態や患者さんの特性にあわせた個別の食形態や食事内容、栄養量調整など、細やかな栄養管理を行っています。
- ◆専門性の高い栄養管理の実践◆  
より専門性の高い効果的な栄養管理の実践を目指し、各種栄養療法関連学会への参加や認定資格取得を積極的に行っています。  
※ 連携充実管理加算、がん専門管理栄養士による外来栄養指導算定

### チーム医療

- ◆栄養管理の一環として、院内のチーム医療に積極的に参加しています。
- ◆院内はもとより院外においても、地域の医療・福祉施設の管理栄養士や医療・福祉スタッフとの連携に努め、地域医療への貢献を目標としています。

#### 【参加チーム医療・多職種連携】

院内：栄養サポートチーム 糖尿病チーム 緩和ケアチーム 褥瘡対策チーム  
院外：日赤栄養士会、東京都・日本栄養士会、品川太田医療福祉栄養士の会  
品川大田栄養研究会

### 栄養相談（栄養食事指導）

- ◆栄養と食事に関するあらゆる内容の指導・相談に対応◆  
生活習慣病の他、嚥下障害や食欲不振、低栄養、がん治療時など、あらゆる内容に対応しています。※下記：「病態別指導件数内容」をご参照下さい※
- ◆ご家族や介護者など患者さんの食生活に関わる方への指導◆  
患者さんと一緒に相談を受けていただけます。個人の病状や生活スタイル等を考慮し、安定した食事療養が継続できるよう、患者さんに寄り添った指導・相談に努めています。
- ◆大田区国民健康保険「大田区糖尿病性腎症重症化予防事業」への協力◆  
令和元年より「協力認定施設」として大田区医師会の医師ご指導のもと保健指導を行っています。

#### ≪ 令和6年／2024年度 栄養指導・病態別指導件数 ≫

指導疾病名	入院	外来	指導疾病名	入院	外来
糖尿病	205	222	胆道炎・胆管炎・膵炎	38	1
妊娠糖尿病	18	33	胃・十二指腸潰瘍/内視鏡治療後	32	4
脂質異常症	33	36	大腸内視鏡治療後	11	0
高血圧症	57	46	胃がん切除術後	18	0
高度肥満症	10	66	大腸がん切除術後	23	2
慢性心不全	55	20	潰瘍性大腸炎・クローン病	5	0
虚血性心疾患	49	0	がん治療中（化学療法時）	119	66
慢性腎不全	57	100	低栄養	69	4
高尿酸血症	4	8	嚥下障害	23	0
脂肪肝	5	28	その他（貧血・離乳食相談ほか）	10	7
肝硬変	16	2	<b>合計</b>	<b>857</b>	<b>645</b>

## 医療技術部

## 放射線技術課

## 放射線技術課の紹介

放射線技術課では、患者様の診断および治療方針決定のため、放射線を利用した一般撮影・CT等の検査や、磁気を利用したMRI検査を行っています。

また、透視検査・血管造影検査では各診療科の医師が検査、治療を施行しています。

医療連携では、連携施設・他病院からの検査も受けております。オンラインでの検査予約、画像・レポートの送信も可能です。

私たち放射線技師は、知識と技術の向上に努め、質の高いかつ必要最小限の被ばく線量で医用画像を提供できるように業務を行っています。

## 業務紹介

## ■ 一般撮影

デジタルのX線画像システムを採用し、各診療科のモニター上で画像参照し診断を行っています。回診用X線撮影装置による病棟での撮影や、骨粗鬆症の診断に必要な骨密度測定も行っています。

- ・一般撮影装置 2台
- ・回診用X線撮影装置 4台
- ・外科用X線透視装置（ポータブルCアーム） 2台



## ■ マンモグラフィ検査

乳腺撮影装置では通常の撮影に加え、高濃度乳腺に有用なトモシンセンス（断層画像）も撮影することができます。それにより収集した画像データを三次元的に再構成することで乳房を薄いスライスで詳しく診断することができます。

- ・FUJIFILM AMULET Innovality



## ■ 透視検査室

一度で腹部全域をカバーする大視野フラットパネルを使用し、目的部位に造影剤を注入し消化器系疾患の診断や、脊椎症の診断の為に脊椎腔造影なども行います。また、整形系の脱臼・骨折の整復時にも透視装置を使用します。

- ・SHIMADZU Sonialvision Safaire 17



## ■ CT

64列、80列検出器のCT装置を採用しています。全身のあらゆる部位において緻密な形態情報が得られ、再構成により3D画像としても表示できます。また、造影剤を使用することによって、血管・腫瘍・臓器の評価や、動きによって描出が難しい心臓も造影剤と心電図を利用して検査を行っています。

- ・Canon Aquilion CX (64列)
- ・Canon Aquilion Prime SP (80列)



## ■ MRI

MRIは、装置の磁場と電磁波を利用して、X線被ばくをせずに自由な断面を撮像することができます。また血管や膵管・胆管のような管腔の描出も可能です。1.5T装置2台で撮影を行っており、ゆったりとした空間を確保した装置を使用しているため患者様に負担の少ない検査が可能です。また、体動補正機能により動きのある被写体でもブレの少ない画像が得られます。多数の非造影アプリケーションにより造影剤を使用せず広範囲のMRA撮影を行っています。

- ・TOSHIBA 1.5T Vantage Atlas
- ・SIEMENS 1.5T MAGNETOM Aera XJ



## ■ 血管造影検査

血管撮影装置はカテーテルという管を血管内に挿入し、目的血管だけを撮影することができます。また詰まっている血管を広げるなど、血管の治療も行います。大口径と小口径のフラットパネルを使用しているため、二方向から同時撮影も可能です。さらに、3D - CT機能を有しており、再構成された画像で様々な角度からの観察・解析を行います。

- ・PHILIPS 社製 AlluraClarity FD 20/15



## ■ 心臓カテーテル検査

心臓の血管造影検査によって、心臓の血液状態や形、心室・心房と弁の動きを知ることができ、そのまま血管内治療も行えます。他にも不整脈の原因の特定を目的とする電気生理学検査が行えます。

- ・Canon Alphenix Biplane INFX-8000V BP



## ■ ラジオアイソトープ

2検出器型ガンマカメラを使用し、患者さんに負担の少ない短時間での検査が可能です。脳血流・心筋のSPECTでは最先端の画像構成、解析ソフトによりアルツハイマー型認知症などの鑑別や心機能解析のQGSなども行うことができます。

- ・Canon Symbia E GMS-7700 B



## ■ 骨密度測定検査

当院では骨粗鬆症財団で推奨されている測定法（DEXA法）により骨密度を測定しているため低被曝で正確な測定が可能です。骨粗鬆症の診断に適していて腰椎や大腿を詳しく調べることで診断や治療効果の観察にも役立ちます。また腰椎・大腿を一連で測定するOneScan測定を採用しているため、寝台に横たわり5分程度で検査を終えられます。

- ・GE healthcare PRODIGY Fuga-C Lite



## スタッフ数・認定資格取得数等（2025年4月現在）

### スタッフ数

職種	人数
診療放射線技師	24名

### 各種資格・認定一覧

認定
第一種放射線取扱主任者
第二種放射線取扱主任者
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師
X線CT認定技師
放射線機器管理士

## 医療技術部

# 臨床工学技術課

### 臨床工学技術課の紹介

臨床工学技術課は、臨床工学技士8名が所属しており、人工呼吸器、血液透析に使われる装置など「生命維持管理装置」と呼ばれる器械の操作や、病院内で患者様の診療に使われる多くの医療機器の管理（保守・点検）を担っています。

さまざまな医療機器を通して、患者様の診療の質の向上と医療の安全に貢献できるような業務を行なっています。

### 業務紹介

#### ■ 血液浄化関連業務

透析室での血液透析療法を中心に、血漿交換・血漿吸着療法（免疫吸着療法、LDLアフェレーシス）、血球成分除去療法（GCAP）、エンドトキシン吸着療法（PMX）、吸着式潰瘍治療法（レオカーナ）、胸水・腹水濃縮再静注法（CART）、ICUにおけるCHDF等、様々な病態に対応した血液浄化療法に携わっています。

#### ■ 心臓カテーテル関連業務

心臓カテーテル検査室での検査・治療中のモニタリング装置、IABP、補助心肺装置（ECMO・PCPS）やIVUS・OCT等の操作をはじめ、ペースメーカー植込や植込後の遠隔モニタリング、心臓電気生理学的検査（EPS）やカテーテルアブレーション等の業務に携わっています。また除細動器や電気メス等の医療機器の管理を行っています。

#### ■ ロボット支援下手術関連業務

ロボット支援下手術関連業務では、外科・泌尿器科におけるダヴィンチを使用したロボット支援下手術の際に、ダヴィンチ各ユニットの設置、接続等の準備作業や、術中のダヴィンチ操作、使用中の電気メスなど周辺の医療機器の管理を行っています。

#### ■ 医療機器の保守管理業務

医療事故を防止するため、医療安全管理対策委員会や医療安全管理対策室と連携して医療機器の保守管理と職員を対象とした人工呼吸器や除細動器等の医療機器の講習会を企画しています。また病院内の医療機器の修理を受け付けるだけでなく、人工呼吸器や輸液ポンプ・シリンジポンプについては、医療機器資源の有効利用を目的として、ME室での集中管理も行なっています。



## スタッフ数・認定資格取得数等（2025年4月現在）

### スタッフ数

職種	人数
臨床工学技士	8名

### 各種資格・認定一覧

認定	人数
透析技術認定士	5名
3学会合同呼吸療法認定士	3名
体外循環技術認定士	2名
臨床ME 専門認定士	1名
第1種ME 技術者	1名
第2種ME 技術者	6名
心血管インターベンション技師 (ITE)	1名

# 検査部

## 検査部の紹介

当検査部では臨床検査技師26名で、検体検査・生理機能検査・病理検査・細胞診・解剖・外来採血業務などを担当しています。夜間・休日は当直体制で、24時間検査を実施しており、日頃から正確なデータの迅速な報告、臨床と密着し、疾患に応じた検査の提供に努めています。

超音波検査士・細胞検査士・緊急検査士・糖尿病指導療養士など各種の認定資格を取得しています。

検査業務以外にも、院内感染予防対策委員会・輸血療法委員会・栄養サポートチーム・糖尿病教室などの院内のチーム医療に参加しています。

## 業務紹介

### ■ 生化学検査

生化学分析装置(処理能力：最大1200テスト/時)を2台稼働させて、総蛋白、血糖、HbA1c、AST・ALT・LDH等の各種酵素、LDL-コレステロール等の各種脂質、クレアチニン等の腎機能を反映する各検査項目、および電解質・無機質等を診察前や緊急時検査に対応しています。

### ■ 血液検査

多項目自動血球分析装置(処理能力：最大150検体/時)と塗抹標本作製装置を接続させたシステムで血球算定(血算)および白血球分類を検査しています。また、この分析装置にて異常細胞や判定不能と表示された場合には、自動作製された標本を検査技師が鏡検して最終判定します。又、凝固検査においては多量検体を高精度で迅速に測定することができる全自動血液凝固測定装置にてPT、APTT、Fib、AT-3、FDP、D-ダイマーの測定を行っています。

### ■ 免疫学検査

CLIA（化学発光免疫測定法）を応用した装置で、HBs抗原・HCV抗体・HIV抗体等の感染症検査、甲状腺ホルモン、CEA・AFP・CA19-9等の腫瘍マーカーを29分、BNP・トロポニン等の心筋マーカー、テオフィリンその他の血中薬物濃度は15分を最大で測定します。また、全自動蛍光免疫測定装置にて、PIVKA II、AFPレクチン分画、プロカルシトニン(PCT)の測定を行っています。近年では新型コロナウイルス抗原定量検査も行っています。

### ■ 輸血検査

全自動輸血検査装置を用い血液型、輸血適合試験など輸血を安全に行うための検査をしています。また専門の輸血システムを用い輸血用血液製剤の保管、管理、統計を行っています。

### ■ 一般検査

一般検査では尿検査、糞便検査、精液検査、関節液などの検査を行っています。尿検査は尿化学分析装置を使用し、糖、蛋白、潜血等の項目について検査しています。また顕微鏡にて尿の有形成分（赤血球、白血球、細菌など）を調べています。糞便検査は主に潜血検査、また寄生虫検査を実施しています。

■ **微生物検査**

主に同定・薬剤感受性パネル自動測定装置を用いて、細菌の同定および感受性検査を行っています。他には、インフルエンザ、ロタウイルス、ノロウイルスなどのウイルス迅速テストや尿中肺炎球菌、尿中レジオネラなどの細菌迅速検出キットを使用しています。コロナウイルスは抗原定量検査とPCR検査も行っています。

■ **病理検査**

病理組織検査および細胞診検査の標本作製～診断まで行っており、2～7日で検査結果を報告しています。診断に不可欠な免疫組織染色の抗体も多岐にわたり取り揃えており、自動染色装置を用い迅速性・安定性のある染色結果を目指しています。  
また、術中迅速組織診断および病理解剖にも随時対応しています。この他、東邦大学病理学教室、日赤医療センター病理部と連携し、蛍光抗体法や電子顕微鏡検査の依頼もお受けしています。

■ **生理検査**

※下記の検査項目を基本的には随時、一部予約にて行っています。  
なお、検査によっては臨床医と一緒に行います。

**循環器検査**

標準 1 2 誘導心電図、負荷心電図（マスター・トレッドミル）、ホルター心電図、加算平均心電図（LP）、血圧脈波、24時間血圧計

**肺機能検査**

肺気量分画（VC）、フローボリューム曲線（FVC）、最大換気量（MVV）、機能的残気量（FRC）、肺拡散能力（DLco）

**脳神経検査**

脳波、大脳誘発電位（ABR・SEP）、神経伝導速度（MCV・SCV）

**超音波検査**

腹部超音波（泌尿器・婦人科含む）、心臓超音波、血管系超音波（頸動脈、下肢静脈等）、体表超音波（乳腺、甲状腺等）、その他

**その他**

聴力検査（気導・骨導）、簡易睡眠時無呼吸検査

■ **採血・採尿室**

採血自動受付機で受付されたオーダーは採尿カップ作製機、採血管作製機にデータを自動送信しバーコードが貼られた容器で出てきます。患者待合には採血待ち表示システムが設置され自分の順番、待ち時間等がわかるようになっています。

**スタッフ数・認定資格取得数等（2025年4月現在）**

各種資格・認定一覧（重複あり）		取得人数	各種資格・認定一覧（重複あり）		取得人数
超音波検査士	腹部	5	二級検査士	生化学	1
	体表	6		血液	2
	心臓	5		細菌	1
	泌尿器	1		循環器生理	5
	血管	5		神経生理	1
	婦人科	1		呼吸器生理	5
	検診	1		病理	4
	乳腺超音波技術	1	心電図検定	2級	1
細胞検査士	細胞検査士	5		3級	3
	国際細胞検査士	3	糖尿病療養指導士		1
認定検査技士	細菌	1	POCT認定士		2
	輸血	1	有機溶剤作業主任者		2
	病理	1	特定化学物質・四アルキル鉛作業主任者		1
緊急検査士		6	感染制御認定微生物検査技師		1

# 医療社会事業部

## 医療社会事業部の紹介

当部門の柱となる事業は3つあります。

第一に各種災害時に医療救護班を派遣する業務、第二はソーシャルワーカー：SW（社会福祉士・精神保健福祉士）が専門の立場から、病気に伴っておこってくる生活上のさまざまな問題などについて、患者さんやそのご家族の方々からの相談に応じる業務、第三は救急法等を普及させる講習会や災害医療講演会などを開催することです。これらは、どれ一つとっても病院だけでなく、日本赤十字社にとっても大切な事業です。

特に赤十字社の使命である災害時医療には、大田区役所を代表とする行政、地域の医療関係者、各消防署と連携しており、合同訓練や研修会などを実施しております。

今後迫りくる首都直下地震に備えて、当院の体制だけでなく、大田区役所や他の医療機関との訓練や研修会を通じて、連携を強化しています。地域の皆さんからも災害時には、大きな役割を果たすことが期待されております。

我々は、これまでの活動経験を活かして、地域の皆さんに少しでも貢献できるように今後とも、準備と訓練を怠ること無く、継続してまいります。

医療社会事業部長  
渡邊俊之



## 業務紹介

### ① 災害救護

赤十字として災害時に備えて、赤十字病院の医師、看護師等を中心に編成される救護班を全国で約500班(約7,000人)編成しています。災害が発生すると直ちに救護班やdERU(国内型緊急対応ユニット)を派遣し、救護所の設置、被災現場や避難所での診療、こころのケア活動等を行います。当院では医師・看護師等で編成される救護班5班を常備しています。

2011年3月東日本大震災の時も発災当日から活動し救護班計15班、こころのケア要員、病院支援要員等で延べ117名の職員が岩手県、宮城県、福島県で活動しました。近年では、2018年7月豪雨において、広島県庁の保健医療調整本部で松本部長がコーディネーターとして活動し、同年9月の北海道胆振東部地震では救護班1班が活動しました。2020年2月には、新型コロナウイルスの感染が拡大しているダイヤモンド・プリンセス号の船内で松本部長をリーダーとした救護班が活動しました。

そして、2024年1月には、能登半島地震で震度7の地震が発生いたしました。当院からも、救護班1班と災害医療コーディネーターチーム1班が石川県珠洲市にて災害救護活動を行いました。さらには、こころのケア班として石川県能登町にて、こころのケア活動を行いました。また、都内赤十字施設との協働による救護班や災害医療コーディネーターチームの派遣も行い、幅広い赤十字病院としての災害救護活動を行いました。

近い将来、首都直下地震や南海トラフ地震等の発生が報道等で報じられておりますが、当院でもこれらに対応すべく、災害対策マニュアルの見直し、大規模災害に備えての災害訓練等を行っております。

また、2013年5月8日に松本部長が大田区から大田区災害医療コーディネーターとして委嘱を受け、同年12月には東京都より「東京都災害拠点病院」の指定を受けました。さらに2014年4月に松本部長、看護師長、主事が日本赤十字社東京都支部日赤災害医療コーディネーターチームに本社長から任命を受けました。

今後、予想される大規模な災害に対し大田区を始め医療救護に関わる関係機関との連携を強化し、赤十字病院として災害に強い体制づくりを引続き推進していきます。

## ② 各種講習会・講演会

「苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、いかなる状況下でも、人間のいのちと健康、尊厳を守る」という赤十字の使命に基づき、当院では「救急法」「幼児安全法」及び「健康生活支援講習」の3種類の講習を開催しています。また職員の、各種講習の指導員及び指導員を教育する講師の育成に努めています。

また、地域住民の方向け・医療関係者向けの医療講演会を開催しております。新型コロナウイルス対策としてweb方式でも開催し、今後も地域に貢献してゆきたいと考えております。

## ③ イベント開催・ボランティア活動

新型コロナウイルスの影響で2020年から中止しております。赤十字月間にちなみ、毎年5月に大森日赤フェスタを開催しております。地域の皆様と共に開催し、多くの方々がボランティアとして参加しています。また院内演奏会ではプロの演奏家を招き、当院の患者様だけでなく、地域の方々へ向け開催しております。新型コロナ対策を踏まえ、今後も地域貢献に努力してゆきます。

現在は、新型コロナ対策でボランティア活動は一時中止しております。

## ④ 医療福祉相談（医療社会事業係：SW）

ソーシャルワーカーは、疾病に伴う様々な問題を抱える患者様、ご家族様からの相談を受け、社会福祉の立場から問題解決の支援を行います。以下の業務を行っています。

- (1) 療養中の心理的・社会的問題の解決
- (2) 退院援助
- (3) 社会復帰援助
- (4) 受診・受療援助
- (5) 経済的問題の解決、調整援助
- (6) 地域活動 など

■ 医療福祉相談室受付時間 平日9：00～16：00

■ スタッフ数（2025年4月現在）

資格	人数
社会福祉士・精神保健福祉士	6名
社会福祉士	2名
計	8名

## ⑤ 居宅介護支援センター

2020年12月に開設し、2024年4月より大森赤十字病院内にて男性1名女性1名のケアマネージャー2名体制で運営しています。

当院に入院・通院の方のみならず、近隣の方からのご相談や親族の希望にも柔軟に対応しております。

居宅介護支援とは、介護を必要とされる方が、住み慣れたご自宅で適切なサービスを利用し生活できるようにケアマネージャー（介護支援専門員）がケアプラン（居宅介護サービス計画書）を作成し、様々な介護のサービスと連携し連絡・調整などを行うことをいいます。

受付 平日9時から17時まで  
（土日祝、年末年始は休み）

住所 大田区中央4-30-1

TEL 03-3775-3111(代表) 内線7212

FAX 03-3775-3639

### ■ 業務紹介

ケアマネージャーが、ご本人様・ご家族様からの相談や要望に応じてケアプラン（居宅介護サービス計画書）を作成し、それに沿って適切な介護サービスとの調整を行います。

ケアプラン（居宅介護サービス計画書）は、要介護認定を受けた人が介護サービスを利用するときに必要になります。ご本人様が自立した自宅での生活をするうえで希望や要望をお聞きし、それに沿って目標を設定し、期間を設けて達成に向け利用する介護サービス内容を記載した書類がケアプラン（居宅介護サービス計画書）を作成します。

ケアマネージャーは、ケアプラン作成後も月に1回以上は、ご本人様のご自宅に訪問させていただきます。身体状況・生活状況の変化や目標の達成に合わせて、必要であればケアプランの見直しを行います。

居宅介護支援のサービスを受けるには、要介護1以上の認定を受ける必要があります。ケアマネージャーのサービスは、すべて介護保険からの適用となりますので、自己負担はありません。



# 健診部（健診センター）

## 健診部よりご挨拶

従来までの人間ドックの基本コース（日帰り人間ドック・脳ドック）に加えて、2023年以降、新たにくつかのドックコースを開始いたしました。各ドックにはさまざまなオプション検査を組み合わせて選択することが可能で、どのコースや検査を受けるべきかわからない方には、こちらからコースをご提案することもできます。

その他、各種健診や各種ワクチン接種も承っております。

健診結果により再検査が必要となった場合には、総合病院として各診療科と連携を図り多方面からのアプローチが可能です。なお、高血圧や脂質異常、耐糖能障害などの生活習慣病につきましては、重症例を除いて、できるだけ地域の先生方・かかりつけの先生方にご紹介させていただきますので、先生方ご自身やご家族さまだけでなく、保険診療では行えない検査をご希望されている患者さまにも安心してご紹介いただける健診センターとして、末永くお付き合いいただきますよう、よろしくお願いいたします。

## 人間ドックコースのご案内

現在、最も一般的な日帰りドックコース以外にも、脳ドックコース、2日ドックコース（内容により2タイプあります）、心臓ドック、すい臓ドック、大腸ドック、がんドックをご用意いたしました。オプションも多岐にわたって、ご選択いただけますので、ご利用者さま各々気になる検査、知りたい項目に合った人間ドックをカスタマイズいただけます。

保険診療ではできない検査を各種ご用意しておりますので、ご興味がありましたら、是非当院健診センターまでご連絡ください。

### ▼単独オプション検査

- 上部消化管内視鏡検査（経口、希望により鎮静剤使用可）
- 胸部CT（ヘリカルCT）
- 冠動脈カルシウムスコア検査（CTによる）
- 腹部MRI・MRCP
- 腫瘍マーカー
- 胃がんリスク層別化検診（ABC検診）
- 乳がん検診（マンモグラフィ）
- 卵巣がん検査
- 子宮頸がん検診
- 前立腺がん検査
- 喀痰細胞診
- 尿細胞診
- アレルゲン検査
- 新型コロナウイルス抗体検査
- 甲状腺検査
- ピロリ菌抗体検査
- HIV抗原・抗体検査
- 血圧脈波検査
- 頸動脈エコー（2025年夏開始予定）
- 骨粗鬆症検査
- 栄養指導（20分）

### ▼オプションコース検査

（日帰りドックにお付けいただけます）

- 脳ドック（頭部MRI・MRA、頸動脈エコー、血圧脈波）
- 心臓ドック（CTによる冠動脈カルシウムスコア検査、心エコー、頸動脈エコー、血圧脈波、循環器関連血液検査）
- 脳心臓ドック（脳ドック＋心臓ドック）
- 大腸ドック（下部消化管内視鏡検査、腫瘍マーカー）
- すい臓ドック（腹部MRI・MRCP、腫瘍マーカー）

※腫瘍マーカーや血液検査は、コースにより、多少内容が異なります。

人間ドックは  
WEB・電話で  
予約可

WEBでは3か月後  
まで、24時間予約可  
URL：  
<https://omori.jrc.or.jp/dock/>

※次頁にWEB予約サイトのQRコードを添付しております

## 各種健診について

当院では、人間ドックの他に、各種健診等を行っております。全て予約制となっておりますので、健診センターへ直接電話でお問い合わせください。

がん検診につきましては、自治体検診の他、自費での単独検査も承っております。

また、大田区特定健康診査や、大田区がん検診等のお申し込みも受け付けております。

### がん検診

項目	内容
胃がん	胃内視鏡検査
胃がん	胃透視検査（バリウム）
肺がん	胸部レントゲン検査（正面・側面）
大腸がん	便潜血検査
子宮頸がん	内診・細胞診検査
乳がん	マンモグラフィ
前立腺がん	血液検査（PSA）

### ウイルス抗体検査

風疹（三日ばしか）
麻疹（はしか）
水痘（みずぼうそう）
ムンプス（おたふく）

### 各種予防接種

風疹（三日ばしか）※
麻疹（はしか）※
水痘（みずぼうそう）
ムンプス（おたふく）
MR（風疹・麻疹）※
带状疱疹

※現在一部のワクチンにつきましては薬剤が手に入らないため行っていません

お問い合わせ  
および  
健診予約はこちらへ

健診センター 03-3775-3111（代）

平日 14：00～16：00まで（土日祝日を除く）

人間ドックのご予約は平日 16：30まで承っています



人間ドックのWEB予約サイト  
（WEBでは3か月後まで、24時間予約可）

## 日帰りドックコース

実施日	月～金曜日
-----	-------

当日の流れ
<p>受付（健診センター）</p> <p>-----</p> <p>身体測定（身長・体重・体脂肪・肥満度（BMI）・腹囲）            → 血圧測定・血液・尿検査            → 眼科検査            → 腹部超音波検査・呼吸機能検査・聴力検査・胸部レントゲン検査            → 上部消化管内視鏡検査または胃透視検査            ※検査の順番は前後します</p> <p>-----</p> <p>昼食の提供はございません。院内のレストランは閉店いたしましたので、ご了承ください。</p> <p>-----</p> <p>結果説明 検査当日、結果が出ている検査のみ検査後医師から説明。            後日説明も可（予約制）。</p> <p>-----</p> <p>終了 ※説明が終わり次第終了            結果報告書は概ね2-3週間程度で郵送します（オプションによって前後します）。</p> <p>-----</p> <p>報告書がお手元に届いてから、医師説明をご予約いただくことも可能です。健診センターまでお電話ください。</p>

検査項目	
問診	問診、診察、医師面談
身体計測	身長、腹囲、体重、肥満度（BMI）、体脂肪率
呼吸器系	胸部レントゲン検査（正面・側面）、呼吸機能検査
循環器系	血圧測定、心電図検査
尿検査	蛋白、糖、ウロビリノーゲン、潜血、比重、沈査
消化器系	上部消化管内視鏡検査または胃透視検査、 便検査（潜血、2回法）
腹部超音波検査	肝臓、胆のう、膵臓、脾臓、腎臓
血液検査	白血球数、赤血球数、血色素量、ヘマクリット値、血小板数
血液生化学検査	総蛋白、アルブミン、A/G、アミラーゼ、エラスターゼⅠ、総ビリルビン、 GOT、GPT、γ-GTP、ALP、LDH、 尿素窒素、クレアチニン、eGFR、尿酸、 総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロール、中性脂肪、 Non-HDLコレステロール、 血糖、ヘモグロビンA1C
免疫学的検査	梅毒検査（TPHA、RPR）、CRP、RA（リウマチ因子）、 HBs抗原、HBs抗体、HCV抗体、血液型
眼科検査	視力、眼圧、眼底
聴力検査	オーディオメトリー（1000Hz、4000Hz）

## 脳ドックコース

実施日

月～金曜日

### 当日の流れ ※来院時間は検査予約の時間により異なります

受付（健診センター）

身体測定（身長・体重・体脂肪・肥満度（BMI）・腹囲）

血圧測定・血液・尿検査

胸部レントゲン検査・MRI/MRA検査・頸部超音波検査・心電図・血圧脈波検査

※MRI検査の時間やオプション検査により順番が前後する場合があります

昼食は各自おとりください。院内のレストランは閉店いたしましたので、ご了承ください。

結果説明 検査当日、結果が出ている検査のみ検査後医師から説明。

後日説明も可（予約制）。

終了 ※説明が終わり次第終了

結果報告書は概ね2-3週間程度で郵送します（オプションによって前後します）。

報告書がお手元に届いてから、医師説明をご予約いただくことも可能です。健診センターまでお電話ください。

### 検査項目

問診	問診、医師面談
身体計測	身長、腹囲、体重、肥満度（BMI）、体脂肪率
呼吸器系	胸部単純レントゲン検査（正面・側面）
循環器系	血圧測定、心電図検査、血圧脈波検査
尿検査	蛋白、糖、ウロビリノーゲン、潜血、比重、沈査
血液検査	白血球数、赤血球数、血色素量、ヘマクリット値、血小板数、フィブリノーゲン
血液生化学検査	尿素窒素、クレアチニン、eGFR、尿酸、GOT、GPT、γ-GTP、ALP、LDH、アミラーゼ、エラスターゼⅠ、総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロール、中性脂肪、Non-HDLコレステロール、血糖、グリコヘモグロビンA1C
免疫学的検査	血液型
MRI検査※	頭部MRI：脳の断面像を撮影 頭部MRA・頸部MRA：血管の状態を立体画像として撮影
頸部超音波検査	頸動脈の狭窄、閉塞、動脈壁のプラークの状態を調べる

※MRI検査のため、体内に金属の植え込まれている方はお受けできません。

MRIが受けられない場合、頭部CT検査で代替いたします。



## 2日ドックコース（ベーシックコース、プレミアムコース）

実施日

1日目木曜日、2日目火曜日

### 1日目

8：15 受付（健診センター）

身体測定（身長・体重・体脂肪・肥満度（BMI）・腹囲）  
血圧測定・血液・尿検査

◇昼食休憩をはさんで午前から夕方まで画像検査、生理機能検査を行います。

画像検査：胸部CT・頭部MRI/MRA検査など

生理機能検査：呼吸機能検査、各種超音波検査・心電図・血圧脈波検査など

※MRI検査の時間やオプション検査により順番は各自異なります。

-----  
昼食は各自でお取りください。レストランは閉店しております。ご了承ください。

午後の検査の合間に2日目に行う下部消化管内視鏡検査の検査説明と、検査食のご案内をいたします。

-----  
16時頃に検査終了

### 2日目

ご自宅で下剤の服用をお願いします。

-----  
12：45頃（検査開始時間により異なります） 受付（健診センター）

- ・ 上部消化管内視鏡検査
- ・ 下部消化管内視鏡検査

-----  
結果説明 検査当日、結果が出ている検査のみ検査後医師から説明。  
後日説明も可（予約制）。

-----  
終了 ※説明が終わり次第終了

結果報告書は概ね2-3週間程度で郵送します。

-----  
報告書がお手元に届いてから、医師説明をご予約いただくことも可能です。健診センターまでお電話ください。

## 2日ドックコース

実施日

1日目木曜日、2日目火曜日

ベーシックコース 検査項目	
問診	問診、医師面談
身体計測	身長、腹囲、体重、肥満度（BMI）、体脂肪率
眼科検査、診察	視力、眼底、眼圧
聴力検査	オーディオメトリー（1000Hz、4000Hz）
呼吸器系	呼吸機能検査、胸部CT検査
循環器系	血圧測定、心電図検査、心エコー、血圧脈波検査、頸動脈エコー
消化器系	上部消化管内視鏡検査（胃透視検査はお選びいただけません）、下部消化管内視鏡検査、腹部エコー 便潜血（2回法）
尿検査	蛋白、糖、ウロビリノーゲン、潜血、比重、沈査
血液検査	白血球数、赤血球数、血色素量、ヘマクリット値、血小板数、フィブリノーゲン、Dダイマー
血液生化学検査	総蛋白、アルブミン、A/G、尿素窒素、クレアチニン、eGFR、尿酸 アミラーゼ、エラスターゼⅠ 総ビリルビン、GOT、GPT、γ-GTP、ALP、LDH 総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロール 中性脂肪、Non-HDLコレステロール、血糖、ヘモグロビンA1C ナトリウム、カリウム、クロール、BNP
免疫学的検査	梅毒検査（TPHA、RPR）、CRP、RA（リウマチ因子）、 HBs抗原、HBs抗体、HCV抗体、血液型
MRI検査	頭部MRI：脳の断面像を撮影 頭部MRA・頸部MRA：血管の状態を立体画像として撮影

プレミアムコース 追加検査項目	
血液検査	甲状腺（FT3、FT4、TSH）
腫瘍マーカー	CEA、AFP、CA19-9、ペプシノーゲン、DUPAN2 PSA（男性）、CA125（女性）
尿細胞診	
骨密度	DEXA法
糖負荷検査	糖尿病の診断を受けている方は行えません
栄養指導	



## 心臓ドックコース

実施日	木曜日
-----	-----

検査項目	
一般ドックにもある項目	身長、体重、肥満度（BMI） 血圧測定、心電図検査 胸部レントゲン検査
一般血液検査	白血球数、赤血球数、血色素量、ヘマクリット値、血小板数 尿素窒素、クレアチニン、e G F R、尿酸 G O T、G P T、γ-G T P、L D H 総コレステロール、H D L コレステロール、L D L コレステロール、中性脂肪 N o n - H D L コレステロール 血糖、ヘモグロビンA 1 C
心臓ドック特有の検査項目	
血液検査	ナトリウム、カリウム、クロール、B N P、 Dダイマー（血栓の有無を調べる検査）
頸動脈超音波検査	頸動脈の狭窄、閉塞、動脈壁のプラークの状態を調べる
心臓超音波検査	心臓の大きさ、心筋の動き、弁の状態などを調べる
冠動脈カルシウムスコア	胸部C T検査で、冠動脈の動脈硬化に伴う石灰化の程度を調べる

## すい臓ドックコース

実施日	月～金曜日
-----	-------

MRI検査のため、体内に金属の植え込まれている方はお受けできません。MRI検査ができない場合、CTに代替することもできますが、情報量が少なくなってしまうます。

検査項目	
一般血液検査	白血球数、赤血球数、血色素量、ヘマクリット値、血小板数 アルブミン、尿素窒素、クレアチニン、e G F R G O T、G P T、γ-G T P、L D H、総ビリルビン、アミラーゼ、エラスターゼ I 血糖、ヘモグロビンA 1 C
すい臓ドック独自の検査項目	
血液検査	リパーゼ、直接ビリルビン
腫瘍マーカー	C E A、C A 1 9 - 9、D U P A N 2
腹部MRI・MRCP	すい臓や胆管・膵管の情報を調べる

## 大腸ドックコース

実施日	火曜日
-----	-----

対象年齢：74歳以下  
 ポリープが見つかった場合でも、切除はしていません

検査項目	
一般ドックにもある項目	身長、体重、肥満度（BMI）
一般血液検査	白血球数、赤血球数、血色素量、ヘマクリット値、血小板数 アルブミン、尿素窒素、クレアチニン、eGFR、尿酸 GOT、GPT、γ-GTP、LDH、アミラーゼ、総ビリルビン
大腸ドック特有の検査項目	
腫瘍マーカー	CEA、CA19-9
全大腸内視鏡検査	直腸から盲腸までの大腸全体をくわしく観察する

## がんドックコース

実施日	月～金曜日
-----	-------

一般健康診断で行うことの少ない腹部超音波検査、人間ドックのオプションとして行われる腫瘍マーカーや胸部ヘリカルCTなど、がんに関連する検査を抜粋しました。

更にくわしくがんについて調べたい場合は、下部消化管内視鏡検査やすい臓ドックのオプションをお付けください。

女性の方は、乳がん検診、子宮がん検診も受けていただくことをおすすめします。

検査項目	
一般ドックにもある項目	身長、体重、肥満度（BMI） 血圧測定、心電図検査
一般血液検査	白血球数、赤血球数、血色素量、ヘマクリット値、血小板数 尿素窒素、クレアチニン、eGFR GOT、GPT、γ-GTP、LDH、総ビリルビン アミラーゼ、エラスターゼⅠ
尿、糞便検査	尿一般、沈査、便潜血（2回法）
腹部超音波検査	肝臓、胆のう、すい臓、腎臓、脾臓の状態を観察します
がんドック特有の検査項目	
血液検査	直接ビリルビン
腫瘍マーカー	CEA、AFP、CA19-9、ペプシノーゲン PSA（男性）、CA125（女性）
胸部ヘリカルCT	通常より被ばく量を抑えた胸部CT検査



## スタッフ紹介



健診部長（兼）循環器内科医師

神原 かおり  
(かんばん かおり)

出身大学	横浜市立大学
卒業年	1991年
専門分野	循環器内科一般、不整脈、生活習慣病の予防と治療
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、臨床研修指導医講習修了 日本循環器学会認定専門医、日本老年医学会認定専門医・指導医 身体障害者福祉法指定医、難病指定医 ICT/CRT研修終了証取得、人間ドック健診情報管理指導士



健診部副部長（兼）消化器内科医師

中岡 宙子  
(なかおか みちこ)

出身大学	秋田大学
卒業年	2008年
専門分野	消化器一般
学会認定医 専門医	日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医 日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会認定専門医 日本消化管学会認定胃腸科専門医・指導医 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

# 医療連携

## 室長よりご挨拶

当院の医療連携室はメディカルソーシャルワーカー(MSW)、医療事務、入退院支援センター看護師にて運営をおこなっています。

地域の他施設や実地医家の先生方をはじめ、すべての医療介護に携わる業種の方々と協力して、患者さんやご家族にとって最善の医療・介護をコーディネートします。お困り際にはお気軽にご相談ください。

室長 奥田 純

## 予約・外来診療のご案内

### 1. 外来診療・入院診療のご依頼

医療連携室 直通TEL **03-3775-3676** へお電話でご依頼ください。

お電話の際、「ご紹介患者様の氏名・生年月日・症状・A D L・認知症の有無・搬送手段など」をお知らせください。

※事前に診療情報提供書を 直通FAX **03-3775-3653** へお願いする場合がございます。

※当院受診後、医師による報告書は、後日郵送させていただきます。

### 2. 外来診療予約方法

医療連携室へお電話またはFAXでご依頼ください。

お電話の際、「ご紹介患者様の氏名・生年月日・電話番号・依頼科・希望医師」をお知らせください。※当院受診後、医師による報告書は、後日郵送させていただきます。

### 3. 検査等のご依頼

当院では、予約なしの当日検査及び予約検査（当日予約可）を実施しております。

予約なしの当日検査	予約検査
超音波検査 【腹部・頸動脈・頸部（耳下腺、顎下腺）・ 乳腺・甲状腺・体表・下肢動脈・下肢静脈】	M R I 検査 ※空きがあれば当日対応可 C T 検査（造影）
X - P 撮影	冠動脈 C T
C T 検査（単純）	トレッドミル
心臓超音波検査	ホルター心電図 高密度測定（D E X A 法）

検査後の報告書について

検査項目	検査結果
C T・M R I・エコー・骨密度測定	当日、患者様にお持ち帰りいただきます
ホルター心電図・トレッドミル・心エコー・脳波	後日、郵送にて結果を報告いたします
栄養指導	後日、郵送にて結果を報告いたします

## 登録医制度について

大森赤十字病院における地域連携システムの趣旨に賛同し、登録医に申請していただける先生方はぜひご登録くださいますようお願い申し上げます。

### ■登録医のメリット

- ・登録医証を発行
- ・図書室、連携医控室等、当院施設の利用
- ・当院の高額医療機器の利用
- ・医療機関名を当院の連携医ボードに掲示



当院ホームページ  
医療連携について

### ■申請方法

ご登録をご希望の先生方は、当院ホームページにおいて「医療連携の皆様」をクリックし、「医療連携について」のページへアクセスをお願いします。  
『登録医申請書』および『医療連携に関する協定書』に必要事項をご記入のうえ、顔写真（縦40mm×横30mm）を添えて当院医療連携室までご郵送くださいますようお願いいたします。

詳細につきましては、医療連携室までお問合せください。

## 室長・副室長紹介

**室長** 奥田 純 循環器内科部長（兼務）

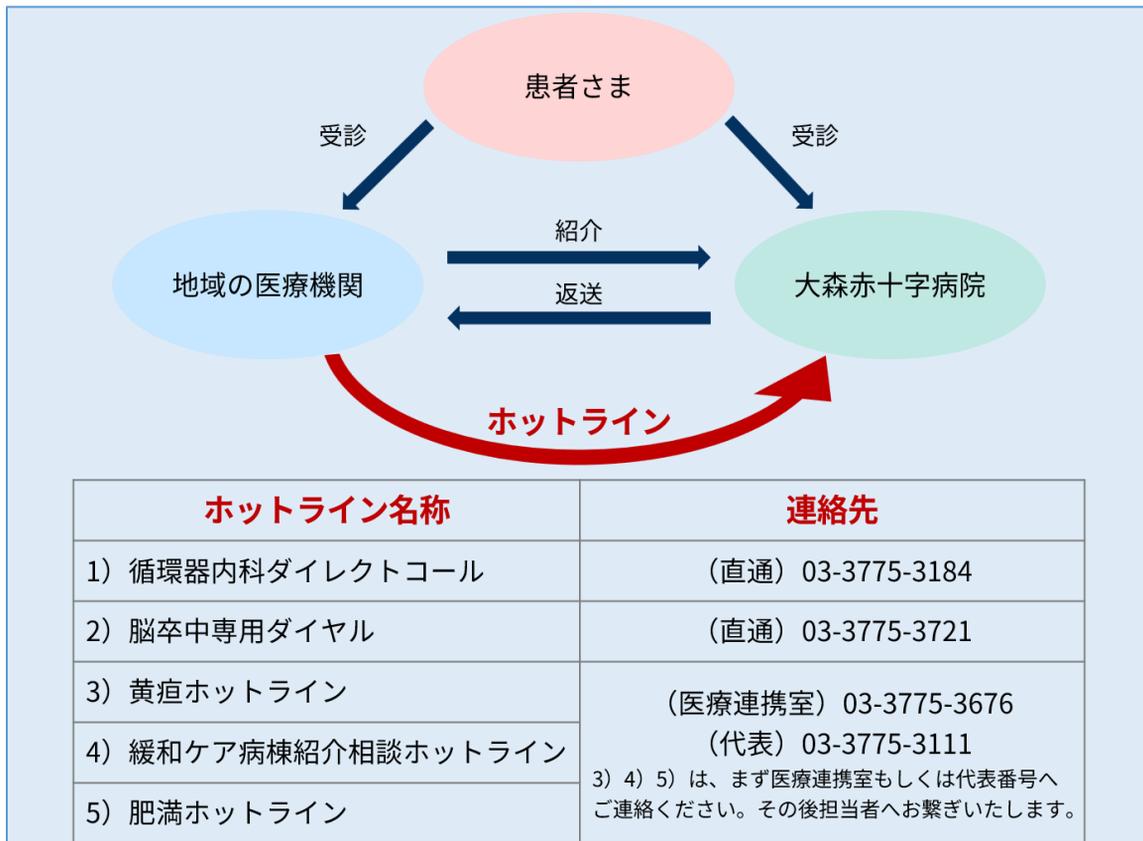
出身大学	秋田大学（1996年卒）
専門分野	循環器救急、虚血性心疾患、閉塞性動脈硬化症
認定資格	医学博士、日本内科学会総合内科専門医、日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンション治療学会専門医、身体障害者福祉法指定医 ICT/CRT 研修終了証取得、横浜市立大学医学部非常勤講師

**副室長** 大塚 幸宏 泌尿器科部長（兼務）

出身大学	東京医科歯科大学（1995年卒）
専門分野	泌尿器科一般、泌尿器科悪性腫瘍
認定資格	医学博士、東京医科歯科大学医学部臨床教授 日本泌尿器科学会認定専門医・指導医 身体障害者福祉法指定医（膀胱機能障害） 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了、臨床研修指導医講習修了

## お問い合わせ

受付時間	月～金 AM8:30～PM5:00
電話番号	(直通) 03-3775-3676 (医療連携室直通・事務)
FAX番号	03-3775-3653 (直通)



## 救急患者さまのご紹介

救急患者さまの紹介は医療機関の先生方より直接お電話でご依頼ください。

# 地域に必要な病院として、 地域医療連携の新たな発展に 努めていきます

大森赤十字病院 地域医療連携サービスとは、オープンなインターネット環境により、診療所との多彩な連携を支援するオンライン予約システムのことで、24時間簡単かつ確実に予約できます

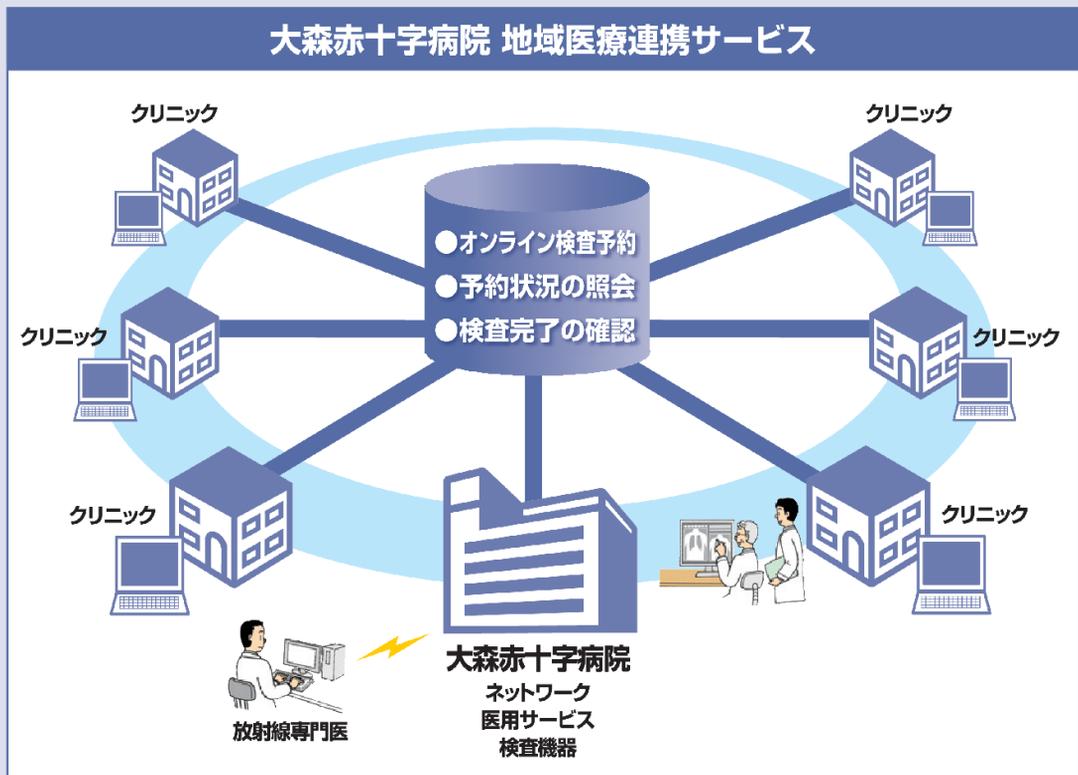
## One Day Hospital できるだけ多くの検査を即日実施へ

患者さんが外来にいらしゃっても検査がすぐにできず、あらためて検査のための予約と結果を聞くための予約をするというのでは、この間、不安な日々を過ごすことになります。必要な検査はできるだけ早く実施して結論を出すことが大切です。



当院ではOne Day Hospitalを基本に、簡単な検査は予約なしで即日実施する体制づくりに取り組んでいます。採血・X線検査・超音波検査・CTスキャン(造影検査を含む)についてはほぼ実現しました。MRIも平成25年6月以降、2台体制となり、即日検査枠がさらに拡充いたします。

連携医の先生がたからの検査依頼に関しても、即日実施いたします。さらに平成25年6月からは、連携医の先生がたの診察室でWEB端末をもちいれば、院内と同じように放射線画像を直接見ることができるカルナシステムを導入しました。



### 時間をかけずに予約できるシステムです

- 365日24時間、電話不要でいつでも簡単に予約ができます
- 患者様のご都合と予約の空き状況を確認しながら予約できます
- 患者様の検査完了がすぐに確認できます

### セキュリティは万全です

- データセンターの管理により万全のセキュリティ体制です
- クライアント証明書とユーザーID、パスワードにより個人情報情報は完全に保護されます

## C@RNA Connect (カルナ コネクト)導入により、予約が簡単、スピーディに

検査内容の選択、患者情報などの入力だけでOK

**選択**

希望する検査の項目・  
部位・日時など

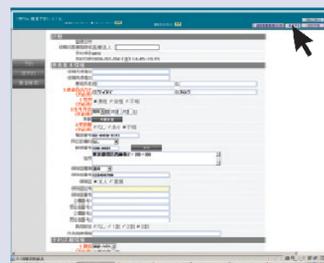
**入力**

患者様の氏名・性別・  
生年月日・既往症・  
診療情報 (プルダウン方式)

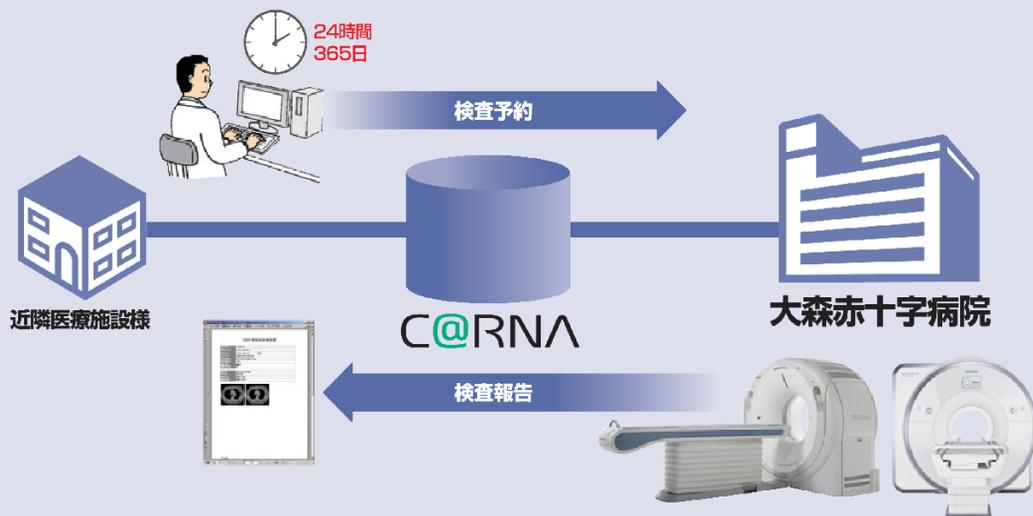
**予約**

ボタンをクリック

**予約完了**



## オンラインによる検査の予約と報告



- オンラインで予約、CT・MRI検査をしていただいた患者様の画像とレポートを受け取ることができます
- お申込み後、インターネットに接続可能なパソコンがあれば、サービス利用料は無料で始められます (回線費用は医療機関様の負担になります)

お申込みやお問い合わせの際は、医療連携室までご連絡ください。

# + 病院概要

正式名称	日本赤十字社 東京都支部 大森赤十字病院	
所在地	東京都大田区中央4-30-1	
開設者	日本赤十字社	
診療科名	呼吸器内科 循環器内科 消化器内科 血液内科 糖尿病・内分泌内科 腎臓内科（腎高血圧内科） 神経内科（脳神経内科） 外科 形成外科 乳腺外科 呼吸器外科 心臓血管外科 整形外科 脳神経外科 麻酔科 精神科 小児科 皮膚科 泌尿器科 産科・婦人科 眼 科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 放射線科 救急科 緩和ケア内科 病理診断科 臨床検査科	
許可病床数	340床（うちICU 6床・HCU 12床・緩和ケア13床を含む）	
幹部職員	院長：橋口 陽二郎      副院長：渡邊 俊之      副院長：竹内 壯介 事務部長：倉辻 智      薬剤部長：本多 秀俊      看護部長：吉村 美樹	
職員数	779名（2025年5月現在）	
指定医療	保険医療機関 生活保護法指定医療機関 指定自立支援医療機関（更生医療・育成医療） 母子保健法に基づく指定養育医療機関 被爆者一般疾病医療機関 労災保険指定医療機関	結核指定医療機関 難病指定医療機関 小児慢性特定疾病医療費助成指定医療機関 公害医療機関 入院助産医療機関 肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関
機能	地域医療支援病院 東京都災害拠点病院 東京都指定二次救急医療機関 東京都地域救急医療センター(東京ルール) 東京都C C Uネットワーク加盟施設 東京都脳卒中急性期医療認定施設 東京都肝臓専門医療機関 東京都区部災害時透析医療ネットワーク正会員施設 東京都医師会母体保護法研修指定医療機関 東京都難病医療協力病院	臨床研修指定病院 日本医療機能評価機構認定施設（一般病院3rdG : Ver.2.0） 一次脳卒中センターコア（PSC） DPC（診断群分類別包括評価方式） 7：1看護 紹介受診重点医療機関 東京都特定地域医療提供機関 臨床研修指定病院
施設認定等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本内科学会教育病院</li> <li>・日本外科学会外科専門医修練指定施設</li> <li>・日本医学放射線学会専門医修練施設</li> <li>・日本医学放射線学会画像診断認定施設「MRI安全管理に関する事項」</li> <li>・日本麻酔科学会認定病院</li> <li>・日本脳神経外科学会専門研修プログラム連携施設</li> <li>・日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設</li> <li>・日本整形外科学会専門医研修施設</li> <li>・日本泌尿器科学会専門医拠点教育施設</li> <li>・日本眼科学会専門医制度研修施設</li> <li>・日本腎臓学会研修施設</li> <li>・日本呼吸器学会認定施設</li> <li>・日本消化器病学会認定施設</li> <li>・日本循環器学会専門医研修施設</li> <li>・日本神経学会教育施設</li> <li>・日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ</li> <li>・日本呼吸器外科学会関連施設</li> <li>・日本呼吸器外科専門医合同委員会認定修練施設</li> <li>・日本乳癌学会認定施設</li> <li>・日本消化器内視鏡学会指導施設</li> <li>・日本高血圧学会専門医制度研修施設Ⅰ</li> <li>・日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設</li> <li>・日本透析医学会認定教育関連施設</li> <li>・日本周産期・新生児医学会周産期母体・胎児専門医補完研修施設</li> <li>・日本脳卒中学会認定研修教育施設</li> <li>・日本がん治療認定医機構認定研修施設</li> <li>・日本臨床細胞学会認定施設</li> <li>・日本超音波医学会専門医研修施設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本臨床腫瘍学会認定研修施設</li> <li>・胸部ステントグラフト実施施設</li> <li>・腹部ステントグラフト実施施設</li> <li>・日本皮膚科学会皮膚科専門医研修施設</li> <li>・心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設（関連施設）</li> <li>・日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設</li> <li>・National Clinical Database（NCD）施設</li> <li>・肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関</li> <li>・日本脈管学会認定研修関連施設</li> <li>・日本産科婦人科学会専門医研修連携施設</li> <li>・日本肝臓学会認定施設</li> <li>・日本消化管学会胃腸科指導施設</li> <li>・日本胆道学会認定指導医制度指導施設</li> <li>・日本血液学会専門研修教育施設</li> <li>・日本臨床神経生理学学会認定施設</li> <li>・日本脊椎脊髄学会認定椎間板酵素注入療法実施可能施設</li> <li>・日本乳がん検診精度管理中央機構認定マンモグラフィ検診施設・画像認定施設</li> <li>・卒後臨床研修評価機構認定施設</li> <li>・大腸癌研究会施設会員</li> <li>・大腸肛門病学会認定施設</li> <li>・日本腹部救急医学会認定施設</li> <li>・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会エキスパンダー実施施設</li> <li>・日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会インプラント実施施設</li> <li>・出生前検査認証制度等運営委員会認定NIPTを実施する医療機関（連携施設）</li> </ul>

## 施設基準

## ▼基本診療料

医療DX推進体制設備加算  
 一般病棟入院基本料、総合入院体制加算3  
 救急医療管理加算、超急性期脳卒中加算  
 診療録管理体制加算3、医師事務作業補助体制加算  
 2、急性期看護補助体制加算、看護職員夜間配置加算、療養環境加算、重症者療養環境特別加算  
 無菌治療室管理加算1、栄養サポートチーム加算  
 医療安全対策加算1、感染対策向上加算1  
 患者サポート体制充実加算、重症患者初期支援充実加算、報告書管理体制加算、褥瘡ハイリスク患者ケア加算、ハイリスク妊娠管理加算、ハイリスク分娩管理加算、地域連携分娩管理加算、呼吸ケアチーム加算  
 術後疼痛管理チーム加算、後発医薬品使用体制加算  
 1、バイオ後継品使用体制加算、病棟薬剤業務実施加算1、病棟薬剤業務実施加算2、データ提出加算、入退院支援加算認知症ケア加算、せん妄ハイリスク患者ケア加算、精神疾患診療体制加算、地域医療体制確保加算、協力対象施設入所者入院加算、特定集中治療室管理料5、ハイケアユニット入院医療管理料1  
 小児入院医療管理料5、緩和ケア病棟入院料2  
 短期滞在手術等基本料1

## ▼特掲診療料

外来栄養食事指導料の注2に規定する基準  
 外来栄養食事指導料の注3に規定する基準  
 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算、糖尿病合併症管理料  
 がん性疼痛緩和指導管理料  
 がん患者指導管理料イ、がん患者指導管理料ロ  
 がん患者指導管理料ハ、がん患者指導管理料ニ  
 糖尿病透析予防指導管理料、乳腺炎重症化予防ケア・指導料、婦人科特定疾患治療管理料  
 腎代替療法指導管理料  
 二次性骨折予防継続管理料1  
 二次性骨折予防継続管理料3  
 下肢創傷処置管理料、慢性腎臓病透析予防指導管理料、院内トリアージ実施料  
 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に規定する救急搬送看護体制加算、外来腫瘍化学療法診療料1  
 連携充実加算、外来腫瘍化学療法診療料の注9に規定するがん薬物療法体制充実加算  
 開放型病院共同指導料、肝炎インターフェロン治療計画料、薬剤管理指導料、医療機器安全管理料1  
 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2、在宅療養後方支援病院  
 持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式グルコース測定、持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）、遺伝学的検査、BRCA1/2 遺伝子検査、先天性代謝異常症検査、H P V 核酸検出及びH P V 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）  
 検体検査管理加算(Ⅰ)、検体検査管理加算(Ⅳ)  
 時間内歩行試験及びシヤトルウォーキングテスト  
 ヘッドアップティルト試験、単線維筋電図  
 脳波検査判断料1、神経学的検査  
 画像診断管理加算1、画像診断管理加算2  
 C T 撮影及びM R I 撮影、冠動脈C T 撮影加算  
 心臓M R I 撮影加算、乳房M R I 撮影加算  
 抗悪性腫瘍剤処方管理加算、外来化学療法加算  
 1、無菌製剤処理料  
 心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)

脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)  
 運動器リハビリテーション料(Ⅰ)、呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)、がん患者リハビリテーション料  
 硬膜外自家血注入、人工腎臓  
 導入期加算2及び腎代替療法実績加算  
 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算  
 下肢末梢動脈疾患指導管理加算  
 ストーマ合併症加算  
 組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）（一次再建）  
 後縦靭帯骨化症手術（前方進入によるもの）  
 椎間板内酵素注入療法、緊急穿頭血腫除去術  
 脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術  
 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術  
 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用）、乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独）  
 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）、ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）、胸腔鏡下肺切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）  
 "食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、小腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、結腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腎（腎盂）腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、尿管腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、膀胱腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、腔腸瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）"  
 経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）  
 ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術、ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）  
 大動脈バルーンパンピング法（I A B P 法）  
 経皮的下肢動脈形成術  
 腹腔鏡下胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、腹腔鏡下噴門側胃切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、腹腔鏡下胃全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術、医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術、腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）、腹腔鏡下直腸切除・切断術（切断術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）  
 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術、腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）  
 胃瘻造設術（経皮的内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。）、周術期栄養管理実施加算  
 輸血管理料Ⅰ、輸血適正使用加算  
 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算  
 胃瘻造設時嚥下機能評価加算  
 麻酔管理料(Ⅰ)、麻酔管理料(Ⅱ)  
 周術期薬剤管理加算、保険医療機関間の連携による病理診断

## ▼入院時食事療養

入院時食事療養(Ⅰ)・入院時生活療養(Ⅰ)

## ▼その他の届出

酸素の購入価格の届出  
 看護職員処遇改善評価料  
 ペースアップ評価料  
 先進医療・内視鏡的胃局所切除術

## + 沿革

1946年11月	日本赤十字社東京支部大森診療所として開設	2011年10月	CT増設（合計2台）
1953年7月	大森赤十字病院と改称（7月20日）木造瓦葺2階建837.2㎡完成 病床数20床	2011年10月	医師事務作業補助体制導入
1957年5月	本館完成 鉄筋コンクリート造3階建（地下1階）2,153.03㎡ 病床数110床	2013年3月	地域医療連携システムC@RNA Connect導入
1960年7月	診療本館に4階を増築（医局・手術室などを移転）	2013年4月	東京都CCUネットワーク加盟
1961年6月	旧館完成 鉄筋コンクリート造5階建（地下1階）3,325.56㎡ 病床数257床	2013年4月	東京都大腸がん診療連携協力病院認定
1962年8月	集団検診開始	2013年4月	東京都がん診療連携協力病院（大腸がん）認定
1963年8月	総合病院許可 病床数301床	2013年6月	MRI増設（合計2台）
1965年3月	救急病院等に関する省令により二次救急病院指定	2013年7月	病院創設60周年を迎える
1968年12月	隣接地（三井銀行所有）2,119.6㎡買収	2013年10月	地域医療支援病院認定
1969年11月	新館完成 鉄筋コンクリート造5階建（地下1階）6,964.96㎡ 病床数351床	2013年12月	東京都災害拠点病院指定
1986年10月	病棟冷暖房工事完了	2015年3月	日本医療機能評価機構の認定施設（一般病院2 3rdG: Ver.1.0）
1991年4月	敷地内看護宿舍全部外部へ移転	2015年4月	東京都がん診療連携協力病院（大腸がん）認定更新
1993年4月	厚生労働省臨床研修指定病院施設承認	2017年4月	東京都がん診療連携協力病院（肝がん）部位追加指定
1994年7月	夜間看護等加算承認	2017年9月	新脳血管造影装置（アンギオ）導入
1999年4月	東京都指定二次救急医療機関	2018年2月	急性大動脈スーパーネットワーク参画
2002年1月	急性期入院加算承認(旧急性期病院加算)	2019年4月	東京都がん診療連携協力病院（大腸がん、肝がん）認定更新
2002年5月	診療録管理体制加算承認	2019年9月	一次脳卒中センター（PSC）認定
2002年6月	大森医師会と地域医療連携協定締結	2020年1月	訪問看護ステーション開設
2002年7月	蒲田・田園調布医師会との地域連携協定締結	2020年2月	日本医療機能評価機構の認定施設（一般病院3rdG: Ver.2.0）
2003年7月	品川区医師会・荏原医師会との地域連携協定締結	2020年11月	土曜外来開始
2003年7月	病院創設50周年を迎える	2020年12月	居宅介護支援センター開設
2005年3月	日本医療機能評価機構の認定施設（一般病院Ver.4）	2021年4月	くろすキッズ保育園開園
2006年7月	D P C 準備病院	2021年11月	NPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定
2006年12月	一般入院基本料（7：1）取得	2022年3月	パレスチナ赤新月社医療支援事業職員派遣（レバノン）
2008年2月	病院改築第1期工事着工 病床数302床	2022年4月	国際赤十字・赤新月社連盟事業職員派遣（タイ）
2008年7月	D P C 対象病院	2023年7月	病院創設70周年を迎える
2009年12月	日本医療機能評価機構の認定施設（一般病院Ver.5）	2023年12月	緩和ケア病棟開設
2010年3月	病院改築第1期工事竣工	2024年4月	手術支援ロボット「da Vinci」導入・始動
2010年5月	新病院（第1期工事竣工分）開院	2024年6月	レストラン「クロスワン」営業終了
2011年10月	新病院全面開院 8,896.96㎡ 病床数344床	2025年3月	内視鏡センター稼働

# + フロアガイド

7F	病棟（循環器内科 呼吸器内科 呼吸器外科） 展望ラウンジ / 屋上庭園
6F	東病棟（脳神経外科 脳神経内科 耳鼻咽喉科 HCU）
5F	西病棟（外科 形成外科 乳腺外科 泌尿器科 眼科） 東病棟（消化器内科 腎高血圧内科 皮膚科 血液内科）
4F	病棟（整形外科 糖尿病・内分泌内科） 管理部門
3F	病棟（産婦人科 小児科 乳腺外科 形成外科） 病棟（緩和ケア内科） リハビリテーション室 / 教育研修推進室 医療連携室 / 医療連携医控室 / MSW室 / 相談室 / 管理部門
2F	手術室 / ICU・CCU / 透析室 / 検体・病理検査室 / 内視鏡センター
1F	総合案内 / 患者情報センター（患者さま相談窓口） / 初診紹介窓口 入退院支援センター / お薬窓口 / 外来診察室 検査（採血・採尿） / 中央処置室 救急診察室 / 通院治療室（外来化学療法室） 防災センター / 講堂 / 売店
B1F	放射線部門 / 生理検査室 / 薬剤部 / 健診センター
B2F	図書室 / 栄養部門 / 物品管理部門 / 機械室

立体駐車場  
107台

## ≪施設概要≫

鉄筋コンクリート造（免震構造）7階建て（地下2階 塔屋1階付）

延べ床面積：約21,733㎡

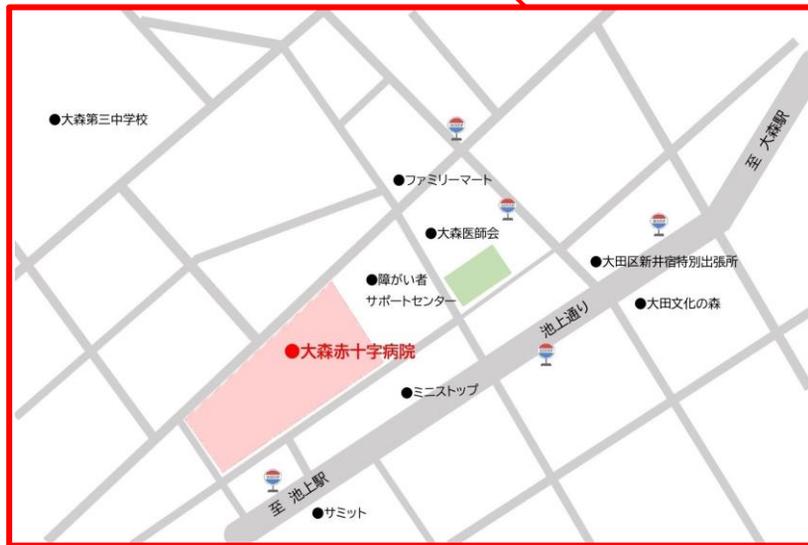
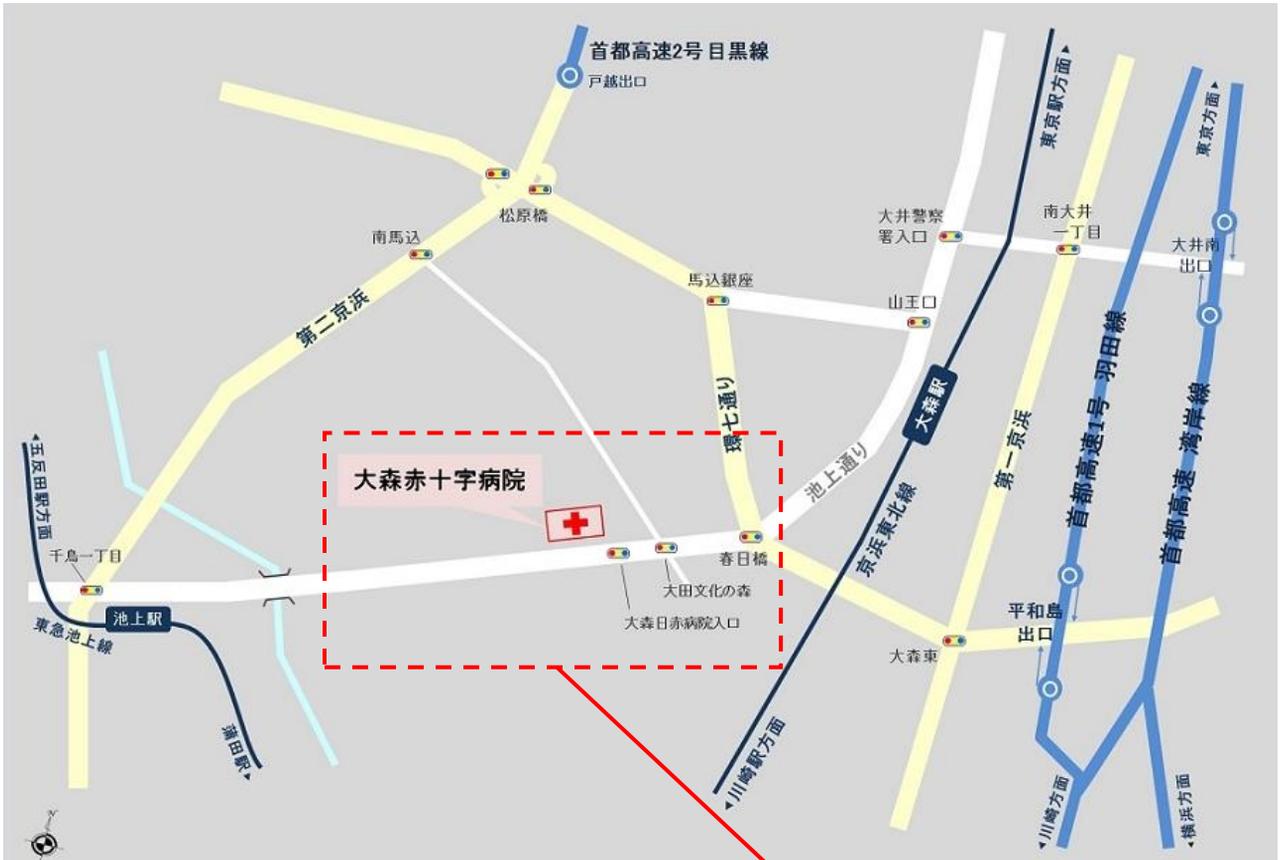
高さ：30.1m

敷地面積：8,896㎡

駐車場：立体駐車場（107台）身障者用駐車場（2台）

敷地内全面禁煙

## + 交通案内



### ▼アクセス

#### ◀バス▶

京浜東北線「大森駅」(約8分)  
大森駅西口より東急バス停留所 1～4 番より乗車  
→「大田文化の森」下車

東急池上線「池上駅」(約10分)

池上駅前より東急バス停留所 1 番より乗車  
→「入新井第四小学校」下車

#### ◀車▶

首都高速 湾岸線 「大井南」出口下車 (約18分)  
首都高速1号羽田線「平和島」出口下車 (約15分)  
首都高速2号目黒線「戸越」出口下車 (約16分)





日本赤十字社

大森赤十字病院

〒143-8527

東京都大田区中央4-30-1

(代表)

TEL 03 (3775) 3111

FAX 03 (3776) 0004

(医療連携室)

TEL 03 (3775) 3676

FAX 03 (3775) 3653